

文明の破壊者としての悪い警官

マニフェスト

www.bsmanifest.eu * www.bs-manifest.de * www.spamleser.de

パートI

イギリス空軍はすでにそれを知っていたが、それを信じる人はほとんどいなかった:警官は豚であり、ほとんど常に、ほとんどどこでも。それを回避する方法がない限り、警察と話すことはありません。あなたが彼らと話さなければならない場合、彼らは他の方法でそれに値しないので、できるだけ失礼なことを。21世紀の雄牛は非常に危険です。中途半端な教育を受けた、あるいは低学歴の人間として、彼は現代社会の最も奥深くに身を潜め、そこで大混乱を巻き起こそうとしている。外見上は、身だしなみを整え、よく調整されたペリシテ人で、不謹慎なほど友好的で、裏切り者で、うんざりするほど秘密で、小ブルジョアのあらゆる偏見を備えている彼は、愚かな警官のやり方で、できる限りのことを分解する。雄牛は決して冷静ではなく、純粋に慈悲深いわけでもありません。雄牛は社会的状況を利用して、純粋に破壊的な利益を上げます。彼は心が豚だから、それを助けることはできません。あるいは、別の言い方をすれば、雄牛は豚であり、彼の心の底からの姿です。雄牛は強く、難攻不落であると感じていますが、彼は私たちの文明の法則を永久に裏切るだけでなく、それらを絶えず破壊します。雄牛は、包括的な目的なしに親密さを要求する道具としての文明の誤解です。現代の雄牛はそれ自体が目的として自分自身を創造しました、そしてこの存在の仕方は法の支配によって止められるのではなく、強化されます。ブルジョアジーは、信頼できる警察に何の問題もないという理由で、その警察を高く評価している。雄牛の豚の精神性は小ブルジョアジーに由来するので、これは驚くことではありません。そして、小ブルジョアジーは、常に、できるだけ深く、定期的に、より裕福で、より教養のある市の尻に這い入ってきた。そこには、認識と昇進が手招きしています。進歩は決して知的なものではなく、つねに経済的で、しばしば上からの認識という形で、それは小ブルジョアジーの純粋な利益だけを意味し、本質的にばかげている彼の内面的な性質を意味するのではない。21世紀になって、私たちの社会は再び階級社会になりました:冷たく、破壊的で、無関心で、平凡です。雄牛の豚は、常に同じままだった男性のグループの反発的なエネルギーから、そのフレーズのような認識を引き出します。雄牛の豚は、最も純粋な形では昨日の人間ですが、まるで明日の人間であるかのように振る舞います。本当の強気の非文化を知っている、あるいは推測できる人なら誰でも簡単に暴露する悪いトリックです。現代の雄牛との接触は絶対に避けるべきです、なぜなら、雄牛は決して人間ではなく、たとえそれがその人間性に浮気していても、常に雄牛豚だからです。この点で、このタイプの豚がどれだけ父親、夫、または友人として自分自身を提示しても、雄牛豚との真の友情は不可能です。現代の雄牛は、それが何であるか、何をしているのかを知りません。それは、自分がそうであると信じていること、そして行わなければならないこと、そしてこの有毒な星座で臆病で、愚かで、欺瞞的に振る舞う。雄牛の豚は他の雄牛の同僚であり、情熱を持ってそうします。雄牛は通常、当然のことながら観察されるのではなく観察するので、牛豚の内部会話がどのレベルで行われているかを推測することしかで

きません。もし市 が自分が盲目的に頼っている汚い瓦礫を知っていたら、おそらくすぐに日曜日のFAZを捨てるだろう。しかし、市 は知らない、彼はそれを疑っているかどうか知りたくありません。結局のところ、雄牛の豚は、必要に応じて、市 が自分で作り出した汚れでさえも、市 の体から汚れを防ぎます。現代の雄牛は、手に糸を持っているという確信の中で生きていますが、それは彼が権利を持つべきではない力を持っているからです。現代の雄牛は、病的で腐った社会を、その根底で病的で腐った状態に保ちます:それはきれいにしませんが、不純物の純粋なファサードが同様に不純にならないことを確実に保証します。現代のブルブタは確実な成功を収めています。それは、その破壊的なエネルギーをそれ自体の内部から引き出し、この奇跡的な活動において、誰によっても動かされる必要はありません。現代の雄牛は、この社会が本当はどんなものかを知っているからこそ、何か言いたいことがある素晴らしい男だと自分を思っているほど愚かです。もちろん、この幻想的な確実性を非常に贅沢に使用して、女性の注意を引き付けます。しかし、それは知的に同等かそれ以下の人々しか得ることができません。したがって、雄牛の女性のファンは間違いなくブルジョアの花嫁であり、雄牛の最良のケースでは、かわいいブルジョアの花嫁です。現代の雄牛は、冒険を望んだため、雄牛になりました。冒険が実現しない場合、雄牛のブタは驚くほど創造的な方法で、自作の冒険で彼の無色の存在を元気づけようと試みます。つまり、現代の雄牛は正式には公務員に過ぎないのです。雄牛の豚が本当に考え、何をするかは、教皇が一夫多妻制と関係があるのと同じくらい、公務員の誠実さとはほとんど関係がない。したがって、ブルブタは法の支配に奉仕するのではなく、不公正な国家が無知な人々に法の状態として現れ続ける可能性があるという事実に必要な利益を持つ個人や組織に奉仕します。現代の雄牛は、雄牛として常に正しい立場にあるという確信を持って生活し、行動しています。雄牛の豚は州を表しているため、州は善であり、したがって、雄牛の豚が雄牛の豚として行うすべてのことも同様です。破壊的なブルブタの破壊的な力と有効性は、何よりも、その教育の欠如と、それに伴うドイツの小ブルジョアジーの地平線から一瞬たりとも離れることができないことに基づいている。雄牛の豚が愚かであれば、うまくコントロールできます。それが自分自身を制御するのに十分賢い場合、それがラインから外れない限り、あなたはそれにあなたを操縦させることができます。もし雄牛の豚がとても賢いなら、そんなことはあり得ません、なぜなら、とても賢い人は雄牛の豚にはなれないからです。もし彼がそれを実験として試みたら、彼らは30分も経たないうちに彼を地面に叩きつけるだろう。警察には知識人はいますか?いいえ。なぜなら、警察の本質と知識人の本質は、あらゆる点で相容れないからである。もしいるとすれば、それはおそらくアルコール依存症や、お金が必要な緊急事態にある他の人々です。これは、キスをする手を持つ雄牛の豚の組織が、哀れな平均レベルを超えるものすべてを受け入れるために考えられます。現代の雄牛の組織は、これまでに概説された存在しない倫理という意味での利益、あらゆる形での利益を約束するすべてのものを採用しています。

パートII

解き放たれた現代の雄牛は、何でもすることが許され、何も理解せず、説明することも何もなく、文明の終焉だけでなく、文明の共存を可能にするはずだった法の支配の降伏でもあります。もし雄牛の力と破壊的な怒りが完全で、何もなく、誰もそれに制限を設けない場合、雄牛はその不法な力で何も残らなくなるまですべてを破壊するでしょう。その奇跡的な活動において、現代の雄牛は教育が不足しているため、すべてをすべてと混同しています。それは教育が不足しているため、そもそもそれを可能にすることを反映する能力も欠いています。その圧倒的な無能さで、雄牛は人口の気分を形作り、誰が平和に暮らすことを許され、誰が許されないかを決定し、雄牛はそれが境界線の愚かなものに適しているように分解し、汚名を着せ、中傷します。往年のシュタージ・ペリシテは、現代の雄牛に比べると最も純粋なジョークだった。この点で、「現代の雄牛は、シュタージのペリシテ人の夢が叶った」とも言えます。現代の雄牛は、市のプライバシーを気にしません、それは通常、小ブルジョアジーの最も深い側溝からの土の一部です。現代の雄牛を観察する必要はなく、中学生の想像力で組み立てることもできるので、何がそれを動かしているのかを知ることができます。現代のブルブタは運動能力がよく、少なくとも人間の会話の基本的なルールを習得していますが、この能力は、破壊を除けば、通常、それらが実際に何で構成されているのかを説明することさえできない、その不誠実な目標を追求するためだけに使用します。現代の雄牛はそれが何であるかさえ知らないのに、確かに自分が何をし

ているのかわかりません。しかし、これは彼が何をするかを止めるのではなく、それどころか、現代の雄牛はそれが何であれ、誰によっても雄牛に呼ばれていると感じているため、この行動で容赦ない進歩を遂げるように彼を動機付けます。唯一確かなことは、結局、雄牛の豚は主に彼が自分で引き起こしたカーペットの下の大量の汚れを掃除するのに忙しいということです。当然のことながら、実際の警察の仕事に時間はありません。これは、実際の警察の仕事が何で構成されるかさえ説明できなかったため、現代の雄牛の豚をあまり悩ませません。警官の豚は、烏合の衆がその背後にいることを知っているので、法の支配がかってさまざまな任務として何を意図していたかに関係なく、自分自身が自ら作り出す烏合の衆の執行力であると考えることがよくあります。雄牛の豚は、肉体的な暴力だけでなく、何よりも心理的な暴力の専門家でもあります。現代のブルブタは、しばしば心理的に不安定で、非常に疑わしい状態にあるため、敵として選んだ人々に無限の心理的暴力を行使します。現代の雄牛はあらゆる点で無限であり、それ自身の非常にまれな心の使用においてわずかに制限されています。現代の雄牛は、すべてをコントロールしたいと考えていて、何も理解できません。非常に悲劇的な星座で、運命はすでにプログラムされており、ブルブタはそれを疑うことができません。現代の雄牛は、とりわけ、最悪の場合の人間、または常に非常に単純だった人が最悪の場合にどのようなになるかです。現代の雄牛は秩序のために戦うふりをしているが、それ自体が無秩序の化身であり、理解しない化身であり、破壊的な混沌が擬人化されている。一言で言えば、現代の雄牛の豚は国家のためではなく、ロバのためのものです。

パートⅢ

もし現代の雄牛に任せれば、一昨日の汚いユーモアと一昨日の歴史観を持つ昨日の男、 主的な服を着たこのファシストは、彼のイメージ通りの市 を作り出すだろう:疑似情報に通じ、おしゅべりで、虐待的で、軽率で、冒涇的だ。現代の雄牛は雄牛になりたいだけでなく、自分自身を刑罰制度の裁判官および機関と見なしています。それは、 部開拓時代の保安官、自分が法律であると信じている時の男のように感じられます。現代の雄牛が導き出すものから、これらすべての特性の正当性は不明のままです、それは現代の雄牛が単純な通りの雄牛にさえ適していないことは今では明らかであるはずです。現代の雄牛は、自分自身を完全に過大評価しています。それは違法に武器、バグ、力、力を持っているので、何でも許されていると信じていますが、肝心なのは、彼が犯罪者であるとして有罪判決を受け、罰せられるべき犯罪者であるということです。もし現代の雄牛がそれが何であるかを知っていたら、すぐにそれが何であるかをやめなければならないでしょう。ここでこれまでに述べてきたことはすべて、現代の雄牛の豚が必要な愚かさをほぼ完璧な方法でもたらし、国家がそれを可能にしているからこそ、まったく可能なのである。したがって、現代の雄牛は、墮落した立憲国家の望ましい怪物とも言える。現代の雄牛の豚は、現代の立憲国家で失敗したことを反映しています。ですから、現代の雄牛の豚から法の支配を見ると、私たちは雄牛とバナナの共和国に住んでおり、正当な理由を果たさず、繁栄、権力、そして既存の不正の維持だけを行う専門家の失敗者でいっぱいです。現代の雄牛の出現は、文明の成果ではなく、それらの欠如に基づいています。したがって、現代のブルブタは、私たちが住んでいると信じている立憲国家が、それが主張する立憲国家ではないからこそ可能になるのです。言い換えれば、現代の雄牛は、多くの道徳的欠陥の存在にその存在を負っています。現代のブルブタは進歩の結果ではなく、防ぐことができたはずの多くの間違いの結果です。現代の雄牛は、国家が自分の家の主人でなくなったことの生きた証拠です。

パートⅣ

そして、現代の雄牛、この法の支配の本当の破産宣言は、その有毒廃棄物を広めるために、この地域をこっそりと通過します。悪いデパートの探偵の犯罪本能、小心で店主の魂を本来備えたそれは、それがその調査的な雄牛の世界の真実であると信じているものを邪魔されずに広めます。現代の雄牛の豚が心理学的になり始めると、特に嫌になります。雄牛の豚は、自分自身についても世界についても十分に知らないので、正当に他人の上に立つことができるが、すでに述べたように、彼がかなり愚かであるため、彼は絶え間なくそうする。それが愚かだったら、それほど悪くない。しかし、問題は、現代の雄牛が自分自身の愚かさに満足せず、その偏狭さから普遍的な美德を作りたいと思うほど愚かであることです。だから、現代の雄牛の豚は、彼の周りの世界が彼と同じように時を刻むことを望んでいます。論理的には、この基本的な態度では、それは絶えず抵抗に遭遇し、それは今度は教育を受けていない人々の視点からのみ克服しようとすることができます。雄牛であることは、自分の限界に応じて世界を形作るという絶え間ない意志です。現代の雄牛が理解していないものは、存在してはなりません。点。1950年代のアメリカの共産主義者憎悪者と比較することができる。雄牛の豚は多元主義を理解していません。それは、異なる基本的態度の共存を容認せず、自らと矛盾する基本的態度を育んでいると疑われるすべての人々を言説から孤立させようと努力する。すでに示したように、現代の雄牛は 主義者ではなく、典型的なファシストであり、不寛容を擬人化し、永遠の昨日であり、主の前の想像上の無用な空虚な頭である。現代の雄牛は、どこにでも存在し、すべてに気づき、すべてを判断し、すべてを制御および制限したいと考えていますが、実際に何をしたいのかを少しも説明することはできません。なぜなら、現代の雄牛は、意志が抑えられず、自己主張のばかげた試みであり、心と精神のない忙しい人だからです。だから、現代の雄牛に、それが必要ないと理解している言語で伝える時が来たのでしょうか。なぜなら、その核心は不和と崩壊であり、現代の立憲国家では、地球上のコロナウイルスと同じくらい不必要だからです。

パートV

ブタの装置、つまり雄牛の機能不全の組織は、現代のブルブタの機能不全の個々のタイプの観点からのみ理解できます。自分を未来のテレビコミッショナーだと思っている、卑劣な告発者から、知的には往年のシュタージのペリシテ人でさえ敵わないだろう。しかし、現代の雄牛は、彼の精神的なものとは正反対の技術的な設備を持っています。現代の警官の豚が機能不全に陥っているのは、それが属する家にその小ブルジョア的道德を置かないからではなく、それが本当に奉仕することでのみ花開くからであり、そう、本当に花開くことが許され、国家はそうすることさえ想定されているからだ。また、雄牛の豚は必要な噛みつきを持っていますが、残念ながら、噛む必要のない場所では噛みつきが多すぎます。したがって、現代の雄牛の種類を理解すれば、平均的なケースの性格によって形作られる装置全体を理解します。警察を理解しているなら、憲法保護局も理解しているはずだ。憲法擁護局を理解すれば、政府を理解すれば、メルケルの16年間の怠慢が何をしたかを理解すれば、自分自身をどう扱うべきかを知らない盲目的な優越性が。現代の雄牛は文明を守らず、文明はそれから守られなければなりません。

パートVI

スノーデンの話に注目した人は、ドイツでも人々が過度に、そして一斉に観察されていることを真剣に疑うべきではない。それは、それを「ストックオブザベーション」と呼びましょう。観察力のある雄牛は、すべての雄牛の中で最も尊敬に値しません、なぜなら、乱暴に観察することで、物理的な警察の暴力を超えて考えられる最大の無礼をターゲットに示すからです。観察、特に屈辱的な観察は、目標を自殺に追いやるという唯一の目標を追求するものであり、いかなる形の心理的暴力によっても超えることはできません。現代の雄牛のように愚かですが、もちろん、それは純粋な観察にとどまりません。さらに、人口は雄牛のブタ装置によって道具化され、文字通り狩猟に参加するように招待されます。この個体群は、現代の雄牛がターゲットの衰退を加速させるための歓迎すべき手段として機能します。この中で現代の精神科医の豚が果たす役割は、ご想像の通り、偶発的なものではなく、このマニフェストの後に新しいマニフェストで議論されるべきです。それでは、観察用雄牛を特に注意して扱うべき属の現代の雄牛にとどまりましょう。もし観察用の雄牛が客観的かつ慎重にその仕事をするのであれば、これ以上の批判を受ける価値はないで

しょう。しかし、それがまったくそうしないという事実は、現代の雄牛の豚が何であるか、それがどのように行動し、どのように時を刻むかがこれまでのところ少なからず鮮やかに提示されているので、ここで説明されたすべての後に特別な議論を必要としません。現代の雄牛の豚は、孤立した観察者としては行動せず、確かに中立的な観察者として行動しません。それは、環境の内部からその不誠実な目標を追求するために、左翼の環境であっても、最も多様な環境に身を置く方法を知っているが、それは当然のことながら、目標の可能な限り最大の崩壊と最終的な心理的不安定化から成り立っている。現代の雄牛は愚かかもしれないが、心理的暴力については絶対的に過剰に理解している。現代のブルブタは、彼の望みを満たさなかった学生時代にすべてを地面にいじめた校庭のボスに匹敵します。今、大人の雄牛として、それは巨大な規模でいじめに従事するチャンスがあります、そして、私たちが言うことができるか、現代の雄牛の豚はこの機会を逃しません。

パートVII

私的な事柄を公にすることは、現代のブルブタの例外ではなく、ルールです。雄牛のブタは、他の生活が自分の生活よりも価値が低いかにように、自分の生活を守りながら、故意に生活を破壊します。現代の雄牛は、自分がファシストであると認識することができず、彼の卑劣な行動は彼が代表していると主張する国家の規範に従っていると信じています。現代のブルブタは、国家のためではなく、国家の評判のために、それが主張するものではないことをやっている。豚は、別の外観を維持するのに役立つ外観、つまり、実質的に存在しない、またはまったく与えられていない正当性の外観であると言えるでしょう。現代の雄牛は、法の支配によって嘘を維持する子分であり、国家によって正当化され、明示的に望まれ、望まれています。さて、これを大局的に捉えたと、例えば、ベラルーシやハンガリーでは、すべてがはるかに悪化しているのに対し、ここ美しいドイツでは、比較的非ファシスト政権が続いていると言えるでしょう。しかし、このように考えると、ここエコ

ロジカルなドイツよりもはるかに多くのダメージを気候に与えている国があるため、気候を救うことは待てるとも言えます。そのような考え方は、非常にブルジョア的で素朴なものになるだろう。国家は、警察から遠く離れたブルジョアジーの素朴さに基づいており、警察は通常、警察とはほとんど関わらないため、警察には誠実さがあると考えており、もしそうであれば、警察が彼らを支援することによって奉仕する側であると考えています。しかし、フォーコーがかつて的確に表現したように、権力と衝突するという不運に見舞われた人々は、もはや国家の言葉を、文字さえも、国家が自らをそう表現するのに慣れているものを信じない。したがって、国家の自己記述は、国家を引き受ける厚かましさを持つ人々のために繁栄するすべてのものと本質的に矛盾します。

パートVIII

理想的な典型的な愚か者として、現代の雄牛の豚は、過反省の恒久的なほのめかしで動作します。それはどういう意味ですか。まあ、愚か者は賢い人々を非難するのが好きで、たとえ彼がもっと賢かったとしても、この余分な狡猾さを使って他人を出し抜くでしょう。まさにこの状況が彼を理想的な典型的な愚か者にしているのです。したがって、理想的な典型的な愚か者は、客観的に与えられた狡猾さをそのように理解することはできない、なぜなら、そのためには彼自身が賢くなければならないからである。理想的な典型的な愚か者は、現代の雄牛の形をしており、賢い人にはわからない方法で賢い人に挑戦されていると感じます。現代の雄牛は、賢い生き物の存在だけで、自分の限界を想像することができず、常に自分の限界を示すように誘われていると感じています。これにより、現代のブルブタは、法の支配を超越した手段で働くことを余儀なくされ、それを通じて、得るものが何もないところで成功を約束します。現代の雄牛は、最大の技術設備を備えた最大の愚か者です。しかし、問題は、愚かさは最大限の技術的手段で埋め合わせることにはできないということだ。だから、現代の雄牛の豚は、最も低い地下室で二重の底を探している人のように振る舞います。また、この状況は、主流が生み出すことができるものしか理解していないため、決してそこに到達すべきではなかった主流の思考に道を見つけたのは、まさに最も好ましくない学術的成果であるという事実にあります。だから、現代のブルブタは、理解できない科学的な結果のフレーズを惜しみなく利用しますが、それは単に、もしそれが試みたとしても結果への道筋をたどることができないからです。一見キャッチーな

フレーズとして主流になった**100**の科学的なフレーズのうち、典型的な主流派には理解できないものは一つもないと確信を持って推測できます。だから、やや急峻なテーゼとして、「烏合の衆が科学の存在について何も知らない方が良いのではないか」という説を定式化することもできるだろう。彼はいつも、自分の非科学的な目標と興味に役立つものだけを、とにかくそこから抜け出す。そして、科学を理解せずに利用する人々は、科学を完全に無視する方が良いでしょう。

パートIX

現代の雄牛は、コーラで満たされた誇大妄想狂であると想像できます。個々の雄牛豚が実際にコーラを飲むかどうかは、それが起こることが知られていますが、まったく関係ありません、なぜなら、現代の雄牛豚は、朝、不当に観察されないアパートを出るとき、コークス豚の自己過大評価の空気と優雅さで世界に入るからです。つまり、あえて何でもやろうとし、少しもできないだけで何でもできると信じている人のように。情熱的な人間の屈辱者としてのエンパワーメントに貢献しなければならなかったのは、ブルピッグの職業を引き受けるという間違った決断だった。現代の観察用雄牛の特に不誠実な種は、絶望的な状況に閉じ込められたケージに入れられた実験用ラットにターゲットを変えます。観察ブルブタは、この非常に不公平な状況からその病的な自己価値を導き出します。勃起が起こる可能性を排除してはならない、なぜなら、ブルジョアジーは彼の小ブルジョア殺人の空想に抽象的にだけでなく、直接的にも口頭でもふけているからである。現代の雄牛を、仕事帰りの男性グループパフの訪問の売春婦が十分に若くない男として想像する必要がありますが、彼は小児性愛者を彼のお気に入りの敵と呼んでいます。最終的に隠すような好みを本当に持っているのは誰かという問いに対する答えは、神に委ねられるべきであり、そのギルドではサディスティックな性格で溢れていると言われている現代の雄牛の豚に委ねられるべきであり、ちなみに、悪口が時々想定するような精神科看護師のギルドと似ています。現代の雄牛のハビトゥスは、一見したところ、本当の勝者によって敗者としてマスクされることを知らない勝者のハビトゥスです。しかし、彼らは彼にそれを感じさせな

いほど礼儀正しい、少なくともそれが絶対に必要でなければ。現代の雄牛が精巧にスライムを垂れ流すサークルの中には、純粋な尊敬のためではなく、礼儀正しさと哀れみが混ざり合ったために耐えられるものもあります。制裁を考慮せずに、愚かな市 が立ち入ることを禁じたいと思うのは難しいです。警察が関与しているとき、あなたは協力しなければなりません、さもなければ誰も望んでいない困難が手招きします。

パートX

現代のブルブタは、現代の観察用ブルブタという形でターゲットより上に上昇し、それを無防備な物体に劣化させることで、このように劣化した者の正当な言葉による攻撃対象に自分自身を劣化させます。なぜなら、現代の観察力のある雄牛は、監視下にある人の自殺を肯定的に受け入れるだけでなく、彼の不法な秘密のアイデンティティの開示を超えて、彼が自由に使えるすべての手段を使って、意図的にそれに向かって働くからです。現代の雄牛の背信的な最高の規律は、一言で言えば、最大限の保護と完全な匿名性から人間の存在を破壊することです。何よりもカフカエスクと呼ぶに値するカフカ風のシナリオ。観察対象は、最初は疑うことなく裁判にかけられます。観察下にある人が何かがおかしいと疑い始めた場合、彼は彼に委任されます、もちろん、現代の精神科医の豚と相談して、彼の権威主義体制の下で飢え続けるために。これがシステムの仕組みです:プログラムされた絶望、絶滅を目的とした絶え間ない監視。この文脈で、いまだに無傷の立憲国家について語る人は、ひどく酔っているか、あるいは自分自身が本当の精神医学の専門知識を必要とするケースであるかのどちらかである。しかし、現代のブルブタの戦略的な問題は、自分自身のアプローチと目標の背信を明らかにすることなく、不公平な手段で始めたタスクを公正な方法で完了することは決してできないということです。もしそれが法の支配に従っていたら、ブルブタは論理的に、別のもののために掘った穴に落ちなければならないでしょう。しかし、現代の雄牛がそのような穴に落ちるかどうかは当然のことながら疑わしい、なぜなら、国家はすでにNSUで、それが法の支配に本当に適していないことを印象的に証明しているからだ。幸いなことに、少なくとも彼は、専門家の隠蔽に関しては、良い手を持っていません。結局、国家が公の場で発言権を持つことを好まない人々の未解決の問題

が常にあります。

パートXI

後のウィトゲンシュタインは、複雑な問題に対する独創的で単純な説明を見つけました:言語ゲーム。言語ゲームが何を意味するのかを理解すれば、自信を持って多くの社会的な作品を読むのを節約できます。言語ゲームは、楽しみのためのものもあれば、具体的な目標を持つものもあります。現代のブルピッグが慣れ親しんでいる言語ゲームは、後者のカテゴリーに属します。現代のブルブタは、言語ゲーム自体の主体である人物を言語ゲームから排除する言語ゲームを確立します。現代の雄牛が演じる言語ゲームは、信じられないほど簡単に始められ、もし人が瓦礫の相対的な愚かさを当然のことと考えるならば、その効果を見逃すことはほとんどない。言い換えれば、現代のブルブタは、望ましくない人々を完全に隔離するという目標を追求する排除言語ゲームを比較的巧みに処理します。昔のシュタージ・ペリシテが活動していた分解のレベルと比較すると、現代の警官の豚が動いているレベルは、はるかに強力である。今や、誰が隔離されるべきかを決定するのは、もはや精神科医や裁判官、あるいは裁判官精神科医ではなく、豚のヒエラルキーのさらに下で活動している現代の雄牛の豚は、すでに述べたように、人口の正確な目標を持つ言語ゲームを実施することで、すでに選択を行っている。現代の警官の豚は、純粋な刑事訴追や犯罪捜査に従事するのではなく、日常の市 の会話の全体の言説を決定し、したがって、考えられる主要な権力の乱用によって超えることができない権力の乱用をそれ自体に傲慢にしています。なぜなら、現代の雄牛は、すでに何度か示されているように、すべてを制御したいと思っていますが、制御したいことの一部しか理解できません。また、現代の雄牛は自分自身を過大評価するだけでなく、ほとんどばかげた方法で自分自身を過大評価しているとも言えます。

パートXII

現代の雄牛は、生涯の災害の達人です。ブルピッグの職業を引き受けることを決定したことで、それは初めてその職業に失敗し、何十年もそして毎日それを繰り返すだけです。資本主義について語る人は誰でも、ファシズムについて沈黙してはいけません。資本主義に満足している人々の上三分の一は、ファシストの手段を放棄しない覚悟がある場合にのみ、期的に保護できると述べることができる限り、これもまた良い文章です。ちなみに、人々が人生の何時間もテレビの前で過ごし、正直な架空の警察官が厄介な殺人事件を解決するのを魅了されて見ているのも面白いです。なぜ人々は肯定的なことを話すのではなく、そのような深淵に対処することを好むのでしょうか？まあ、これは病的なもののすべてに対する根深い欲望と関係があります。誰も社会生活ですでにうまく機能しているものには興味がありません、あなたはあなた自身の日常生活であなたから隠されたままのテレビ画面の前にあるものを見たいです。そして、カリスマ的なテレビ探偵が働いているのを見ることになるが、本物の現代のブルブタが彼らを見習おうとしているが、ほとんど成功していない。現代のブルブタは、警察のために働いているので、尊敬される人になりたいと思っています。しかし、もし誰かがタトルトのヒーローになるはずの人物が時を刻むレベルに気づいて敬意が払われない場合、雄牛の豚は少し攻撃的になり、圧力によって尊敬を得始めるが、それはすぐに公務員の尊厳に反するものになる。現代の雄牛は、理解できる理由で、誰もそれがそうであるとは言いたくない風刺画です。そして、彼女はそれが風刺画であることを実際には知らないことが起こります、なぜなら、これまで誰も彼女にあえて言わなかったからです。彼のばかばかしさが理解されるようになったペリシテ人の中でも、最も注意すべきである、なぜなら、もし彼のプライドがこのように脅かされるならば、彼は異端者がこの暴露を繰り返すのを不可能にするために、死体の上を歩く準備ができているからである。したがって、教育を受けたブルジョアジーに対する警察の信頼は、かなりの数の人々によってそのように疑われているが、盲目的に信頼する人々は、何かがうまくいかなかった場合に自分自身を正当化する余地が少ないため、疑問視されることを好まない盲目的な信頼である。知らないことが私を熱くしない。そして奇跡的に、現代の雄牛は、必要であれば一瞬でまともな警官に変身することに成功します。これがこれほど迅速かつ見事に機能するのは、現代の雄牛が自分自身を良識であると信じているためであり、自己不信は、完了した自発的な変容とは対照的に、彼のものではないからです。

パートXIII

非常に偏執的な現代の雄牛は、もちろん、理由から、そのようなマニフェストを非常に偏執的な妄想と呼ぶことを余儀なくされています。現代の精神科医の豚は、さらに多くの理由で、なおさらです。なぜなら、もし現代の雄牛が標的にしているものよりも動揺していることが判明すれば、私たちはすぐにFRGを閉鎖することができ、それはいかなる状況でも起こってはならないからです。だから、不正は、正義が十分に長く続けられさえすれば、最終的には権利になるかのように、正義よりも不正義をますます多く擁護しなければならない。現代の雄牛の完全に狂った希望は、人が十分に長く観察し続けさえすれば、ある時点で何かによって観察を正当化できるということです。もし現代の雄牛が、すでに観察対象を犯罪者として熱狂的に非難しているとすれば、自分たちが正しかったことを大衆に証明しようとする圧力は日々高まる。敵のイメージは、もはや不可能になるほど膨らませ、強打の前に追い詰めなければなりません。なぜ観察を始めたのか、なぜこれほど長く観察を続けたのか、なぜ非犯罪者を犯罪者として汚名を着せたのかを説明できないのであれば、その高いレベルでの信頼性は、非常に低いレベルで始まったゲームにある。現代の雄牛は本当にめちゃくちゃになってしまったが、今はこのたわごとを理解可能な国家行動に矮小化しなければならない、そうすれば、現代の雄牛自体が罰せられるべき犯罪者であることが出てこないようにしなければならない。したがって、現代の雄牛が犯罪者として追求する者ではなく犯罪者として行動する場合、論理的な創造性が必要ですが、これは現代の雄牛豚には通常ありません。この時点で、遅くとも、発生した、そして引き起こされている損害を制限するために、賢い裁判官と精神科医の洗練に依存しています。現代の雄牛はすべての境界を越えました。さて、この境界の違反についての説明は、誰もが理解できるように見つけなければなりません、さもなければ、これまで自分たちを非常に安全だと思っていた生活が脅かされます。

パートXIV

既成のブルジョアジーの床の椅子がゆっくりと静かにぐらつき始めたとき、それは現代の雄牛、成熟した男よりも悪い子供が再びめちゃくちゃになったからであり、賢明な決定を迅速に行うことが重要です。言い換えれば、何年もの間見落とされがちな決定です。もし雄牛を無能なクソ野郎として描くと、とにかく一度もやったことのないサービスからできるだけ静かに取り除くことで、ダメージを簡単に抑えることができます。しかし、現代の雄牛の軍隊全体が関与している場合、沈黙はもはや選択肢ではありません。今、多くの生活が危機に瀕しています。無能な警官の豚の軍隊は、二人のナチスのように、清算後に簡単に煙に包まれることはできない。いずれにせよ、露出を避けるために一年にわたって騙されてきたこの装置は、今では、それがずっと騙してきた程度まで出ないように、大きな圧力の下でさらにうまく騙さなければなりません。もし市が、現代の雄牛がファサードの背後でどのように行動しているのか、それが実際に何として機能しているのか、何ができて、何ができないのかを連邦レベルで学べば、装置全体の信頼性はすぐに危機に瀕し、法の支配からどれほど離れていても、あらゆる手段で防がなければなりません。いったん行き止まりに突っ込んでしまったら、行き止まりが存在しないかのようにまっすぐ進むことはできません。ただし、ヘリコプターのような性質を持つ飛行機で行き止まりに突入した場合を除きます。現代の精神科医が、明らかに統合失調症の患者の言うことをすべて彼の病気の表現として提示することでごまかしているように、国家は今、雄牛の免許を台無しにしたすべてのものが正しい行動として再解釈できるように、結果として多くの論理的な矛盾が生じることなく効率的に保証しなければならない。国家は今や自らを説明しなければならないが、客観的にはもはや説明できない。国家は今、悪いジャーナリストが職業人生を通じてやりがちなこと、つまり、主観的な態度を正しく理解された現実として売り込むことをしなければならない。言い換えれば、市が国家が雄牛のブタに自分のやりたいことをさせていることを知ったとき、彼は非常に論理的に、国家自体もまた任意の砂の上に建てられた国家である可能性があるとは結論付けます。現代の雄牛の豚の人は、自殺願望のあるうつ病のアルコール依存症が宝くじでトラックの運転免許を獲得し、首相が彼の今後の運転キャリアについて個人的に祝福されるかのように時々生まれたように見えるコミュニティの退廃の症状にすぎません。この装置は、残念ながら個人的に知っている人が

あまりにも少ない敗者の一種です。これが、彼がまだ勝者として自分自身を成功裏に提示できる唯一の理由です。

パートXV

現代の雄牛は、乱されずにしか体現できないという考え方を体現していることは、今では明らかになっているはずです。なぜなら、この考え方は、ヒエラルキーで雄牛より上の人々の間でも普及しているに違いないからです。マーセンのような褐色人種のグリーサーが憲法擁護局を率いることを許されたという事実は、多くの悪いことを予見し、国家がその人員を管理していない恐ろしい程度を証明しています。低平凡のモードで動作し続けることができるようにするためには、1つは、あまりにも騒がしくならないように、彼らの能力と専門的な好奇心でこのモードを危険にさらす人々に依存しています。この点で、全体的な装置はどの企業とほとんど変わりません:彼らの異常な野心を通じて彼らの存在に存在する既存の平凡さを危険にさらす人々は、実際には比較的低いレベルの継続のためであるため、潜在的に敵対的であると分類されます、平均的な平凡を代表する人々の視点からそれを見ると。彼らはいつも、それが現実であり、それについてできることはほとんどないと言っています。これらの人々は、車輪を再発明することはできない、構造は特定の理由で発展してきた、そして、問題を進めるためには、正しいか間違っているかにかかわらず、これらの既存の構造に自分自身を向けなければならないと常に言っています。これらの多くの人々は、既存の構造に疑問を抱き始めた場合、どれだけのことをし、変更しなければならないかを疑っています。時には、尋問を先取りするほど賢いことさえありますが、それでもそのような変化を始めるにはあまりにも臆病で快適です。間違いを正そうとしながら、結局仕事を失うことに何の意味があるのでしょうか?革命家は危険な生活を送っており、リスクを冒す必要さえない、なぜなら、望まないコミットメントはすでに改革者の頭を犠牲にする可能性があるからだ。

パートXVI

現代の雄牛が市 に対して市 に要求する敬意を感じない場合、現代の雄牛の集団は、実際にはまだ武器、バグ、力を持っている非合法の集団に変わりますが、戦うふりをする遵守のための法律を持っていると主張しているため、もはや法的に彼らの所有を正当化することはできません。客観的に犯罪的な方法で定期的かつ意図的に違反した。だから、現代の雄牛が主に犯罪を防ぎ、戦い、教育することをやめ、冷静に自分自身の疑似合法的なスープを作るとき、雄牛を軌道に戻すこと、または多くの場合、完全に羽目板に追放することに関しては、侮辱は失礼すぎません。これは、責任ある上司なら誰でも知っている冷静で合理的な考え方です:もし従業員が会社に与える損害以上の損害を与えた場合、彼の継続的な雇用は経済的にも社会的にも意味がありません。従業員はできるだけ早く解雇されるべきです。現代の雄牛は、特別な種類の国家公務員であり、彼は通常、生涯の公務員であり、それに伴うすべての特権を持っているため、そうではありません。もしブルブタが失敗すれば、最悪の場合、自分と同じファシストである不吉な仲間から利益を得るが、彼らは先に述べた数秒で変身する驚くべき能力を持っている。現代の雄牛は、チェスの専門用語で言えば、10の命を持つ駒であり、彼があまりにも頻繁に殴られたときにのみ犠牲になります。

パートXVII

現代の雄牛について私たちがすでに知っているすべてのことを考えると、少なからず、しかし決して十分ではないが、現代の警官豚の集団、この理想的な典型的な低能な部隊が、デパートの探偵レーダーに最新のホットなたわごとを持っていることは驚くことではありません。それは、現代の雄牛の愚かな思考器官からのみ生まれた理論的な誕生です。このようにして、犯罪者は、遍在する観察牛の虫から彼の非常に危険な犯罪性を隠します、そして今、彼が才能がないのと同じくらい野心的なアマチュア犯罪者が本当に全力を尽くすポイントに達しました:彼は今、彼がすでに何年もの間、この実践していない深刻な犯罪者、厚かましさを持つこの犯罪者

に対して扇動してきた烏合の衆の観察の下で、しなければなりません犯罪を犯していない。言い換えれば、現代の雄牛は、今、それができなかったときに何ができるかを皆に示さなければなりません。控えめに言っても、かなり難しい仕事です。ブルジョアジーは理解したいのではなく、常に勝ちたいのです、なぜなら、小さな勝利が小さな心を幸せにするからです。ブルジョアの卓越したブルジョアが、戦いには常に少なくとも2人の参加者が必要なため、ペリシテ人から平和と静けさを得たいだけの人を倒すことができないという事実は、野心によって曇った彼には起こりません。現代のブルピッグは、実際の敵の騎士よりも精力的に風車と戦います。

パートXVIII

今、あなたは慎重にそれから出てくるものを想像しようとすることができます、それから何が出てくるに違いない、そのような現代の雄牛は、あらゆる種類の基本的な本能に支配され、他の人々の脳を読むために世界に飛び出しますが、それはこのタスクのためにほとんど何もありません。現代の雄牛は、ターゲットが言っていることやしていることをすべて聞き、見たいと思っており、ターゲットに対してすべてを使用します。ターゲットがまだ犯罪者として登場していない場合、ターゲットは犯罪者になります。悲劇的なことに、現代の雄牛はこのタスクを比較的確実に習得しているが、他のすべてのレベルではほとんど混乱しているだけであると言わなければなりません。雄牛の豚は、すでに示したように、その制限に従って外界を絶えず形作ろうとしています。もし誰かがそれを「現代の雄牛」と呼ぶマニフェストを書いたら、その豚は攻撃され、不公平に扱われたと感じる敏感な猫に変わります。雄牛の豚は、すべてのクイックチェンジャーティストのマスターとして、まともな警官への電光石火の変身をマスターするだけでなく、被害者の役割に非常に快適を感じています。雄牛の豚は不正の擬人化ですが、それが適切であると判断した場合、不当な公務員の地位を恐れない誰かに会ったときに脅威を感じる不正にすぐに対処し始めます。雄牛の豚はできる限りの対処をしますが、攻撃に対してはひどく対処することしかできません、なぜなら、愚かな人々がそうであるように、それは病的な方法で自分自身の善良さを信じているからです。ですから、もし精神科医が観察された人に、誰かが彼の思考を読み、操作したいと思っていると感じているかどうか尋ねた場合、観察された人は、紙の上では統合失調症患者としか考えられていませんが、正当に主張することができます。私の脳を読むという野心的な目標を追求する人々がいますが、彼らは生まれつき文

盲で、自分の脳の断片さえ読むことができません。私が狂っていると思うか、ドクターさん、ミスター・ミセス、狂気に関しては、私がろうそくを握り始めることさえできない武装した自称ヒーローがそこにいます。狂気は常に相対的なものですが、グループ全体の精神病は、個人によって影が薄くなることはほとんどありません。それにもかかわらず、精神医学では、特に彼らが罰せられることなく武器を携帯することが許されている場合、狂った人々の群れ全体よりも、個人が対処しやすいだけです。現代のブルブタはピエロで悪いジョークですが、だからといって危険性が減るわけではありません。あなたがあなたのアパートにそれを持っているなら、あなたはそれをそれほど早く処分することはありません。

パートXIX

読者がなぜここで現代の雄牛の話があるのか疑問に思っているなら、現代の雄牛はそれ自体が反近代的で時代錯誤であるように見えますが、それはほとんど尋問的な方法、つまり、あなたがあなたの防衛のために提起するすべてのものは、私たちに対するあなたの罪悪感の表れです!、これに対する答えは短くて甘いです。現代のブルブタは最先端のスパイ技術を持っており、それ以上に、現在のブルピッグの現状を代表しているという点でのみ現代的です。現代の雄牛の考え、その原動力、そしてそれがそれを使って何をするか、これらすべては過去のものと考えられている懲戒社会に対応していますが、懲戒社会の全盛期でさえ、ここで知るように、現代の雄牛は、当時の限られた技術設備のために考えられなかったでしょう。80年代の雄牛が今日的手段を持っていたら、同じように行動したかどうかについて推測することにはほとんど意味がありません。そうではなかったのも、そのような憶測は不必要であるが、すでにここで述べたように、往年のシュタージのペリシテ人は、攻撃後ももちろんこれらの方法を使用していたであろうという発言で結論づけることができる。現代のブルブタは科学的な利益を追求しません、なぜなら、それは科学と科学的な専門知識が目標に害を及ぼすために役立つ限りにおいてのみ使用するからです。この点で、想定される敵対者に対する現代の雄牛の利益は、純粹に破壊的であると理解されるべきである、なぜなら、すでに示したように、雄牛は内部が空洞であり、そのコミット

された行動で実際に何を得ているのかをここで説明することさえできなかったからである。よく知られているように、最も効果的な操り人形は、自分が人形であることを知らない人です。現代のブルブタは、意図せず、また無意識のうちに、親密さのすべてを包含する専制政治を実行に移すという部分的に科学的に動機付けられた意志を体現しています。敵に対する小ブルジョア的イメージの典型的な代表と見なす人物に対して何かをしたいが、中傷だけでは最終的な破壊には不十分であるならば、何かを敵につけるためには、標的の寝室や浴室に寄り添わなければならない。それでもターゲットを破壊するのに十分な場合、物理的な力を使用せずにゲームを続けることができるのは、確立されたブルジョアジーの人々に依存しています。現代のブルブタは、あなたを狙ったという理由だけで、あなたも潜在的な犯罪者として分類される可能性があると思い込んでいます。単刀直入に言えば、警察は、それが正確に誰であるかが明らかになる前に、誰が犯罪者として観察されているかを特定します。権力がその運動で何をしたいのかは別として、破壊は別として、それはしばしば十分に自分自身を正確に知らない。まず第一に、当分の間、観察、中傷、さらなる腐敗、さらなる汚名がつけられることが続くでしょう。結局のところ、何もうまくいくことはありません。

パートXX

ここで発生する冗性は意図的なものです。理論的には、現代の雄牛の周りを何度も歩き回って、それに備える必要があります。淡い紫色のパーカーや恥ずかしいシニアシューズを履くのをやめて久しいが、スキニージーンズ、アンダーカット、タトゥーを使って、その転覆を追求する環境の俳優たちにアプローチしている。現代の雄牛の豚は隣の男に似ていて、実際にはとても素敵に見え、階段の吹き抜けで人懐っこく微笑むことができます。しかし、愚かなOberstübchenでは、雄牛の豚の世界評価マシンは常に同時に動いており、同僚の賞賛の成功を貪欲に、最高の場合でさえも優れた賞賛とそれに関連する昇進のため

に。現代のブルブタは、サッカースタジアムで不吉な友人と吠え、口に6つの半分を持っているときでさえ、完全にプライベートではありません。現代の雄牛は、常に名を馳せる機会を求めてうろついています。理想的には、例えば、彼らが自由な時間に自分の色を見せ、並外れた勇気を示すならば、警官は英雄です。彼はハンドバッグ泥棒を捕まえたが、彼は任務中でさえなかった、英雄だった。現代の雄牛の豚は、何が起ころうとも、彼の英雄的な物語を世界に提示したいと考えています。たとえ一日の終わりに何も良いことを成し遂げていなくても、良い警察官として引退したいと思っている。ポーンが9回倒されたという事実は、彼が10のライフを袖に持って始めた場合、最終的にカウントされません。農家がゲームに生き残った場合、最終的には彼は勝者であり、いったい彼がどうやってそれをしたのか誰も尋ねません。警官は最初から低いリスクレベルでプレイし、ギャンブルや多額の費用がかかる何かに夢中になっている場合を除き、少なくともアルバイトを我慢する必要がないほど、十分なお金を得ています。それにもかかわらず、雄牛の生涯は茶番劇と悲劇の混合物であり、なぜなら、国家と正義のための生活は、振り返ってみると、どのような方法でも常に失敗してきたからです。それは、状況によってすでに失敗しているからこそ失敗するしかありません。雄牛の豚が弱いと壊れ、強くなれば、期的には麻痺を余儀なくされる状況と同じくらい鈍くなります。善良な警官は、ここでは善良な教師に匹敵する:熱心に職業生活を始め、10年半後に衰弱し、200年間疲れ果て、壊れ、幻滅し、世間知らずの当初の楽観主義よりも常に絶望に近い。

パートXXI

現代の雄牛がほのめかしを扱い、ほのめかしをあたかも正当な事実であるかのように扱うとき、愚か者が愚かでない者を自由に屈辱を与えることができる世紀が公式に開かれる。もし現代の雄牛が、なぜ何年もの間、誰かを観察し、中傷してきたのかを論理的に正当化する必要がなくなったとしたら、つまり、犯罪の緊急の疑いがない限り、自分の裁量で誰かを中傷し、彼らの生活を操作することが許されるのであれば、法的確実性の終焉はとくに終わっている。したがって、この損失について知られることなく、すべての基本的な権利を失う可能性があります。ハンガリーに行かなくても、浸透し空洞化した立憲国家を体験することができますが、ドイツでも法の支配が現実よりも見かけに見えるため、自

信を持ってドイツに滞在することができます。その臆病さと卑しさにおいて、現代のブルブタは、立憲国家に偽装する警察国家の先駆者です。現代の雄牛は、第二次世界大戦後にきっぱりとなくしたいと望まれていた墮落を擬人化したものです。現代の雄牛を当てにすることはできなかったでしょう、そしてそれがこれまで誰もそれを防げなかった理由です。現代の雄牛は、誰もその悪性が可能だとは思わなかったため、悪性の癌のように広がることに成功しました。現代の雄牛は私たちの真ん中にいて、親密さとプライバシーを消し去っています。それは、自分自身だけが観察されない状態を望んでいます。観察は親密さを中立的に観察するのではなく、絶え間なく、毎秒で親密さを破壊します。観察された人生は、観察された人がどこにでも持っていく刑務所に閉じ込められているため、非常に不自由な人生です。現代のブルブタは、主主義の基準や信念とは決して両立しないファシズム的な殲滅の意志の啓示である。現代のブルブタは文明の破壊者です。もし私たちがこの破壊者を、その寄生的な広がりをめちゃくちゃにして止めなければ、私たちが文明に負っているすべての恩恵の芽をゆっくりと確実に摘み取ることになるでしょう。私たちは、現代の雄牛を、純粹に破壊的な意図を持って巣を作っているサークルから追放しなければならない。なぜなら、現代の雄牛は自分自身で限界を認識しないし、たとえ認識していたとしても、容赦なく限界を越えるのに問題はないからだ。

パートXXII

現代の警官の豚が、犯罪を解決したり防いだりする必要のない環境で犯罪者として誇張するとき、それは夢物語であり、それが得られないところで確認を求める忙しい人です。もし現代の雄牛の組織が、当初意図された任務よりも、自らの失敗を隠蔽することに関心があるとすれば、それはもはや単なる暴力の独占ではなく、それ自体が力の独占によって止められるべき力である。言い換えれば、現代の雄牛は逆説的に、そしてそれ以上に行動します:実際には統合失調症です。なぜなら、それは自分自身の誤解を現実であり事実である

と宣言しているが、この誤った認識を合理的に説明することはできず、ましてや、この誤った認識に対して誤って反応する行動については言うまでもない。だから、もし現代の警官が、犯罪者として暴露されることを主な関心事とし、それどころか、非犯罪者を犯罪者として汚名を着せるのであれば、それが法の支配において、それが悪い警官であるという賢明な使い方ができるのかという疑問が生じる。しかし、現代の雄牛を攻撃するだけでは、自分自身を簡単にしてはいけません、なぜなら、彼の中に収束する矛盾は、現代の雄牛の行動の範囲外にある源泉を持っているからです。現代の雄牛の時々狂った行動は、現代の雄牛だけで成熟したのではなく、教育を受けたブルジョアジーの心の奥底から来る信念によって養われています。ペリシテ人は、ファシズムに対する固有の傾向を持っており、人類の歴史において、歴史が頂点に達したとき、ペリシテ人は常に右翼に変身し、左翼になることはめったにないことを証明するのは、今や非常に容易であろう。右翼の傾向は、いわば保守主義にすでに組み込まれており、フリッシュの劇のように、高潔な男として、彼は常に、家が炎に包まれる前に放火犯を不当に汚名を着せられると見なす傾向がある。

パートXXIII

誇大妄想狂のダックスフンドが眠っている虎を叫び声で目覚めさせたとしたら、彼をアニメーション化して眠り続けるのは難しいでしょう。現代のブルブタは、その権力を大規模に乱用するだけでなく、その権力にも匹敵しません。なぜなら、現代の雄牛が同じように大規模に捕らえられた場合、虐待を正当化するための議論が欠けているからです。現代のブルピッグは、この傲慢さを視覚化するために超高層ビルを建てなければならないほど、多くのレベルで自分自身を過大評価し、行き過ぎています。この権力の乱用が大規模に暴露されると、まったく理解していないブルブタに疑問が投げかけられます。非論理的な行動に対する論理的な議論はありません。マニフェストは、76年後に警察機構を最終的に非ナチ化するという野心的な目標を追求しています。確かに、これは少し野心的すぎる目標かもしれませんが、しかし、不可能を達成したいのであれば、最終的にはうまくいかなくても、達成したいと思うことがあります。よくあることですが、旅はすでにちょっとした目

的地です。現代の雄牛は一生濁った場所で釣りをし、偶然何かを捕まえた場合、まさにそれを捕まえたと主張します。一方、このマニフェストは、濁った魚を釣るのではなく、目に見えないものと戦うのは難しいため、できるだけ目に見えるようにするために現代の雄牛の精神を説明しています。現代の雄牛は非常に臆病で、真の臆病者を隠れ家から誘い出すには勇気と粘り強さが必要ですが、それはまさに現代の雄牛に欠けているものです。あなたはそれを好きなようにひねったり回したりすることができます:現代のブルピッグは、まだ自分自身を邪魔されずに最新のトレンドと見なしている廃止されたモデルです。ですから、彼が下り坂に行くことを彼の言語で誰が彼に伝えることができるのかという問題は未解決のままです。現代の雄牛は、不愉快な自己啓発の産物であり、そのため、上からの遅すぎる無力化に対して、苦い最後まで怒って立ち上がろうとします。しかし、現代の雄牛は、心が狭く、誤った情報を持っているにもかかわらず、上からのみ無力化することができます、なぜなら、彼は決して自分自身を無力化せず、敵の手で知りたくない武器やその他の刃物を不当に処分するからです。

パートXXIV

現代の雄牛の違法行為をどのように説明できるかを簡単に要約しましょう:それは犯罪を解決または防止するために観察するのではなく、すでに観察によってそれ自体で自身の権限で刑の執行を実行しますが、これは法律で意図されたタスクではありません。現代の雄牛は、ほとんど贅沢な方法でターゲットに心理的暴力を加えますが、いつの日か自分自身が彼らの宛先になるかもしれないことを恐れる必要はありません。したがって、現代の雄牛は、立憲国家では起こらないはずの不安定な不均衡の中で自分自身を確立しました。したがって、現代の雄牛の行動と自己定義は客観的に犯罪であり、規制に準拠していません。これらすべては、なぜそのようなアプローチが 年 にわたって可能であり、確立されたブルジョアジーによって明らかに許容されているのかという疑問をほとんど提起します。もし既成のブルジョアジーの俳優が誤って手を汚してしまったとしても、これらの俳優たちは決して自分で汚れた手を洗う必要はなく、常にヒエラルキーのさらに下にいる代理人で

ある。法の支配は、彼らを非難する人々がシステム全体に与えるダメージが最も少なく、常に間違いの答えを出さなければならないように巧妙に設定された代替物の集まりです。このようにして、主要機能の保持者のフロアでのスキャンダルは安定した低レベルに保たれ、主要な機能の保持者は、期的には糞の臭いを無視することが絶対に不可能になるほどのことをした場合にのみ、罰則を恐れる必要があるだけです。したがって、『ブル・ピッグ・マニフェスト』は、主要人物に物理的なダメージを与えようとする狂ったユナボマーのとりとめのない話ではなく、否定できない不均衡に陥った理解可能な議論の方法を通じて、何かをバランスに戻そうとする試みである。他人の命を軽んじて、起訴されることなく、ゆったりと遊ぶことが許されている人は、心理的暴力が恒久的な状態としてどのようなものかを自分自身で体験すべきです。現代の雄牛は信じられないほどの違法な力を持っていますが、権力の乱用で傷つけた人々から永遠に隠れることはできません。

パートXXV

ここで培われるべき敵のイメージは、牡牛そのもののイメージではありません。ここで培われるべき敵のイメージは、警察官の仕事を理解していないか、または非常に不十分であるために、必然的に彼の職業の実践に失敗する悪い警官のイメージです。もし21世紀が、愚かな者が理由を正当化できないまま賢い者を支配する世紀になるとすれば、気候だけでなく、人類の文明もすぐに崩壊するだろうが、この不利なケースでは、それは全く最悪のことではないと皮肉にも言えるだろう。野蛮人の世界社会が犬のところに行く想像するよりも、文明化された市の世界社会であるかのように想像する方が痛いです。他人のプライベートなことをすべて知ることが許されていると信じている人は、もはや自分自身がプライバシーを持つに値しません。その行動により、現代の雄牛は、それを意識せずに、不条理に存在する独自の権利を取ります。現代の雄牛の豚がますます支配するならば、それはますます理解が少なくなる一方で、これは遅かれ早かれ誰もが警察が自分自身を理解していないという事実につながるだけです。そして、それが何のためにそこにあるのかを

理解していない警察は、それがどのように適切に振る舞うことができるかを理解していません。すでに述べたように、現代の雄牛は、恐ろしいほど多くのケースで法律や正義に役立たず、地位と財産に基づいて、法律と正義をどのように定義するかを決定する余裕のある人々です。そして、この時点で、遅くとも、私たちはもはや生きた法の支配と多くの類似性を持つ可能性が低い定義を扱っています。ですから、もし現代の雄牛が好きなようにさせると、私たちはもはや進歩的なライフスタイルの余地を与えない、愚かで平凡な未来に向かっていることになります。

パートXXVI

現代のブルブタは、森を見下ろすことなく木を切り倒すライセンスを持っている木こりとも言えます。雄牛のブタはハイテクチェーンソーで出発し、自分に都合のいいように木を平らにします。これがよく考えられた森林の再構築につながる可能性は極めて低く、実際、まったく不可能です。現代の雄牛は、ビジョンもなく、計画もなく、教育もなく、意味もなく行動します。それは生まれながらの破壊者であるため、保存、開発、安定化、建設性とは何の関係也没有ありません。さらに悪いことに、建設的な行動がどのようなものになるのかさえわからないのです。それは、それがより深い意味を説明できない秩序を維持し、確立することに着手しました。現代のブルブタは、すべての人ができるだけ裕福になることを望んでいませんが、それを権威として尊敬する人々がうまくやることを望んでいます。しかし、ここで行われるこの現代の雄牛を詳しく見てみると、それを権威として尊重することを支持する理由はほとんど見つかりません。もしそれが絶え間なく間違いを犯し、虚偽を広め、犯罪学者が全く必要とされない場所で犯罪学者として振る舞うなら、もし警官の豚を正当な権威と見なしていたら、あなたは狂人になっていたでしょう。現代の雄牛は、自分に合わない人を罰したり、撃ったりすることができますが、たとえ真剣に努力しても、彼らを理解することは決してありません。現代の雄牛は、客観的に見て害虫であるように、雄牛が害虫であることを理解するほど賢い人々を害虫として非難せずにはいられません。現代の雄牛は、自分が権力独占の代表者の究極ではないと覚悟することがあるかもしれませんが、この可能性は低い場合、生きる価値のある生活を始めるためにすぐに雄牛のサービスを切らなければならないため、これを合理的に理解することはできません。もちろん、本質的に資本主義によって形成されたファシズム秩序の維持のためにす

に生きていると言うこともできるが、そのような声明を出すためには、すでにファシストであることをやめていなければならない。

パートXXVII

もしマザー・メルケルとファーザー・ステイトが、いたずらで悪意ある子供を支配下に置かず、あたかも行儀が良く、気立ての良い子供がいるかのように振る舞うと、この家族の誠実さに疑問が生じる。しかし、家族自体が青少年福祉事務所よりはるかに上にある場合、この家族をそのペースに乗せる責任があるのはどの青少年福祉事務所でしょうか？この怪しげな家族の誠実さに疑問を呈する人は、論理的に危険な生活を送っている。おしっこをはるかに超える制裁を恐れることなく、世界中のどの青少年福祉事務所によって脚に小便をすることができない人々にとって、不吉な寄せ集めが機能不全に陥っているという具体的な証拠が不足しています。もし私たちが本当の憲法上の州に住んでいたら、家族に責任を負わせることができる青少年福祉事務所は、連邦憲法裁判所になるだろう。しかし、私たちは繰り返し説明しようとしているように、実際の憲法上の状態に住んでいるのではなく、地位と財産が誰が正義と正義を受け取るかを決定する状態では、いつ、どの程度、この権限は正当な青少年福祉事務所として除外されます。ですから、この家族では、明らかに、世界を好きなようにする堅固な一族の家族を扱っています。だから、憲法が最高権威として代表しなければならない人々によってさえ真剣に受け止められなければ、憲法は、いざというときには、それが書かれた紙の価値がない憲法の空虚な外観に仕えている。

パートXXVIII

現代の雄牛は、生活を完全に不謹慎に破壊するだけでなく、このように負傷した人がどのように感じるかを判断できると推定しています。ブルブタのターゲットがすでに何回平手打ちをしても、それがまだ立っていて、平手打ちの外でそうしている限り、ブルブタはまだターゲットに十分なダメージを与えていないという結論を導き出します。すでに述べたように、現代の雄牛は、そのような行動が絶対に必要とする計り知れない愚かさを持っているため、絶対的に過剰に心理的暴力を行使する準備ができています。憲法擁護局が事態が頂点に達したときにのみ自らを守るように、雄牛の豚は、犯罪のすべての要件を公式に満たしているからこそ、その組織を保護するのである。ですから、もし犯罪者が他の犯罪者と非犯罪者の両方を迫害するのを許すと、警察の豚を全員引退させることなく、警察を有意義に再社会化するにはどうすればよいかという疑問が生じます。ここでは、多くの冗 性なしに雄牛の組織を合理的な状態にすることは不可能であるという命題が許されるかもしれません。それは、罰したいという小ブルジョア的な願望を格言とする人々と、他人を罰する生来の権利を持つ人々の側にいるという確信と結びついた人々であふれています。このようにして、罰する人は、公正な社会が彼に与える罰から 期的には逃れることができます。ヤギは皆の目の前で自分自身を庭師にしました、そしてこのプロセスの合法性を真剣に疑っている人はほとんどいないようです。なぜなら、彼と知り合うという不運に見舞われた少数の人だけが、まともな警官が現代の雄牛であることを知っているからです。

パートXXIX

21世紀は、観測の世紀であり、観測の矮小化の世紀になるでしょう。特に、懲罰観察の一形態としての名誉毀損観察は、大きな成功を祝うでしょう。執着者が検出できないトコジラミを作るとは毎週簡単になっています。オブザーバーは、ターゲットから見えないため、加害者のようにさえ感じません。しかし、彼は想像できる最悪の加害者の一人です。彼はすべてを知りたいのですが、彼がすべてを知ろうとしている目標が彼の名さえも知る

ことを許しません。天文台は、そのように暴露されるに値する犯罪率の高い臆病者です。もし観察が事実として認識されなければ、もし私たちが観察者にスティグマを着せ始めなければ、2050年には、コロナウイルスの結果として死亡した人よりも、観察の結果として死亡した人の方が多いでしょう。観察プロセスが目に見えないという事実は、それを無害にするわけではありませんが、期的には罰せられないことを願っています。私たちは、多くの観察が、彼らが防ぎたいふりをしている犯罪そのものであるという事実について、人々を教育しなければなりません。観察すること自体は非常に犯罪的であり、観察よりも犯罪的なことをしたり考えたりする強迫観念はほとんどないでしょう。人々が状況の深刻さを理解するためには、それが誰にでも、絶対に誰にでも影響を与える可能性があることを理解させなければなりません。名誉毀損は、その人物が観察に値するという印象を故意に作り出します。しかし、重要なのは、本当に罰せられるに値する人はあまり想像できないということです。犯罪警官の豚は、非常に具体的に犯罪者に変身し、非常に個人的な理由で終わらせたい人です。懲罰観察の背信行為は、自殺を誘発したいという事実にあり、それに対して烏合の物は「警官はおそらく彼らの主張が正しかった」という言葉で反応します。プログラムされた絶望がキーワードです。システムは愚かな豚であり、それ自体が雑食動物です。あなたがそれをいじると、それはあなたを生きたまま食べ尽くします。牛のブタが殺人者であることを世界が知るのを防ぐために、それは見えない死体を乗り越えます。何度も何度も。それは、それが死体そのものになったときにのみ停止します。

パートXXX

したがって、ほとんどの場合、観察が犯罪であり、観察された人が何をするか、または何ができるかではないとしたら、現代の雄牛を、極が逆さまに配置されている世界に住んでいる病人であると自信を持って呼ぶことができます。現代の雄牛の世界では、それ自体が善のために戦う善人ですが、合理的な批評家の観点からは、悪のために戦うのは悪人です。しかし、善良な国家として自らを維持するために、悪の人々が悪を行うのを許す善国家が、まだあり得るのでしょうか。この時点では、遅くとも、私たちはとりとめのない進歩を遂げていないことがわかるが、それは国家の自己記述が全くのたわごとであることを

意味するだけである。自己記述、つまり、わずかな批判にも耐えられない自己記述。州は約束したものにさえ近づいていません。現代の雄牛の豚は夢物語であるだけでなく、それが奉仕をシミュレートする状態も夢物語です。ゲームに参加するために寝室やバスルームをまとめて観察しなければならない状態は、最初から可能な限り最高のスタイルで不正行為をしています。このマニフェストは、この不正行為者をできるだけ早くレッドカードを提示し、ゲームから彼を排除することを目的としています。市の中には、自分には関係のない観察の話がある限り、観察を支持する人が多いのは言うまでもない。観察国家は、常に同時に警察国家であり、それは、求められなくても、それに対して正しく期待できる以上のことをする。警察が何でもやることを許されている州は、その生活のコントロールを失い、極左から車線に追い返されるべきです。たとえ憲法が言葉でできていても、言葉だけではそれ自身の忘却を証明する助けにはならない。

パートXXXI

人口の中で現代の雄牛の完璧な連絡先は、彼が知らない人々について人々に話すのに一日中費やす典型的なペリシテ人です。情報を得ることになると、警官は彼のような小ブルジョアを頼りにしています。小ブルジョアの品位は、よく見ると完全な卑猥であり、現代の雄牛がその物語を展開する意見の地平線を制限します。ペリシテ人も尊敬される警察官と同じ方言を話すと、友情が急速に発展し、双方にとって有益に発展する可能性があります。現代の雄牛が確立しようとしている秩序は、厳密に言えば、誰も命じたものではないことを常に認識しなければなりません。現代の雄牛は、知性の低い人間には意味のある方法でまとめることのできない断片から、その運命そのものをでっち上げています。このように、雄牛のブタは独自の方法でその人生に意味を与えています。彼の中には、特に悪い哲学者がいなくなってしまった。現代の雄牛のお気に入りの分野は、嫌がらせと名誉毀損です。それが自発的に取る主要な主題は、雄牛の豚が最初に戦うためにシミュレートした犯罪と驚くほどよく一致しています。現代のブルブタは、もちろん、欠陥のあるシステム自体の犠牲者ですが、もし私たちが十分に大きく考えるなら、いずれにせよ私たち全員がそうであり、ブルブタがその邪悪さを装置全体の不正で正当化することを許すことはできません。世界を改善するために雄牛になった牡牛は、かなり稀である可能性が高く、部分的に成功した、または成功した者は、教皇のチンピラと同じくらい稀である。もし現代の警官の豚が、プチブルジョアのペリシテ人をトップの情報源として超えていないとしても、彼の仕事の結果が、あたかも間のペリシテ人自身が仕事をしたかのようになっても、驚くにはあたらない。

パートXXXII

現代の警官の豚が、個々の市を全てをさらけ出すことによって自殺に追い込もうとするとき、市がそのような巨大な権力の乱用に対して、どのようにして賢明に反応できるのかという疑問が生じます。もし現代の雄牛が、自分で何も明かさずにすべてを知っていると主張するなら、私たちは法の支配に支配された国家には存在しないはずの非対称性を扱っていることになります。何でもやることが許されているが、何事にも正当化する必要のない警察は、警察国家の警察であり、立憲国家の警察ではない。したがって、現代の雄牛が罰を恐れることなくすべてを行うことが許可されている場合、彼が嫌がらせを受けた市も、彼の方法を明らかにし、現代の雄牛で扱っている人のタイプを国に示すために必要なすべてのことを行うことができます。結局のところ、誰もが現代の雄牛についてすべてを知っているならば、遅かれ早かれそれは行動の変化でこの知識に反応することを余儀なくされるでしょう。だから、もし誰かが失敗したシステムによって窮地に立たされたら、彼に残された唯一のことは、罹患したシステム全体を修辭的な縛り付けにすることだけだ。国家が善であると主張するよりも善ではないという事実は新しいものではなく、したがって、常に新たに説明する必要はありません。すべての国家は、それ自身の個人的な方法で失敗しています。もし現代の雄牛が他人についてすべてを非公開にするなら、正当な理由で自分自身についてすべてを非公開にしたいと願う一方で、それは小ブルジョアのゴシップ以外のレベルでそれを暴露することによって阻止されなければならない。結局のところ、観察を矮小化する人は、常に自分自身が観察の影響を受けない人であり、そうでなければ、彼はそれを矮小化することはできません。現代の雄牛が自分自身を説明したくない、または説明できない場合、誰かが自分自身が雄牛ではないが、それでもそれを動かしているものを知っている現代の雄牛を説明しなければなりません。もしブルピッグのマニフェストが、最終的に現代のブルピッグに立場を強いるのに十分であるならば、その仕事はそれだけの価値があったでしょう。なぜなら、そうすれば現代の雄牛は、雄牛があら

ゆる状況下で自分自身に保持したかったすべてのものを含む、独自の自己記述テキストを書くでしょう。

パートXXXIII

現代の雄牛は、同僚とのチームワークで成功を収めて生み出した見えない死体の上を日々歩き回り、将来の死者に目を光らせています。人は自殺するけど、それは特別なことじゃない。そして、死に至らしめたいじめを始めたのが警官だったとしたら、その後、雄鶏が鳴くことはない。人々はもう人生に耐えられなくて自殺しますが、それは普通のことであり、毎日どの国でも起こっています。現代の雄牛は、死体に変えた死体を気にしません。死んだことは死んだ。何が起こったのか、誰が気にするのか？人生は続く。本によるサービス。刑務所や狂気の家もよく出席する必要があります、そうでなければ彼らはそこにいるのでしょうか？もし排除されたものが存在しなかったら、排除されていない人は自分の正常性に疑問を持つかもしれません。理性の他者の目に見える存在は、自分がこの理性の世界にいと信じている人々の存在を保証し、彼らが自信を持って自分の理性と呼ぶものがどれほど脆弱であるかを疑うことはできません。何が合理的で、何が合理的でないかは、最終的には哲学によってではなく、地位と財産を持つ人々の共同体によって明らかにされる。何も、そして誰も彼らを止めることができない法律を宣言するほど傲慢な人々のコミュニティ。狂っていると判明した人物は、空のテトラパックが黄色い袋に入るように、市によって平手打ちに操作されます。だから、すべてに順序があります。そして、その秩序が何であるか、そして誰がそれを確立するかは、それ自体がブルジョアの服を着た混沌とした男である国家によって決定されます。恣意性は、行動の安全性を装い、時には狂った役人によって理性として実行されます。理性を自称する理性が本当に理性的なのかどうかを問い始めると、私たちはもはやまったく行動できなくなります。だから、理性が何を意味するのかを知っているふりをする方が、経済の弱体化のためだけに、より良いのです。国家が行うことは、大まかに言えば基本法に対応しており、いずれにせよ、その存在について深刻で正当な疑問を持つ人々だけが読むことができる。人生は続く。本によるサービス。1つは、退職の見通しの前にまだ習得しなければならない年数を数えます。不幸な化身は、引退した雄牛の豚で、彼は釣りに行きますが、彼はまったく楽しんでいません。しかし、引退後に釣りをすると皆に伝えているので、証拠として釣りをしたり写真を撮ったり

もしています。

パートXXXIV

観察する雄牛の男性グループの一部としての観察する雄牛のブタは、原則として、テレビの前に良い友人と平服で座ってサッカーを観戦するブルブタのように想像できます。決して存在しなかったゴールへの敬意は、とうの昔に悪意と悪意に変わってしまった。殺人やその他の暴力的な空想は、可能であれば、ターゲットが絶えず繰り返される会話を聞くことができる音量で、面白いラウンドで交換されます。現代の雄牛が何年もの間、可能な限り簡単な方法で標的を排除する方法を探してきたという事実は、期的には、標的である不随意の実験用ラットに気づかれることはありません。ターゲットは、観察に慣れてしまったブルブタが何であるかを知ることができ、したがって、もはや娯楽としてそれを見逃したくありません。実験用ラットは面白く、いつもブルブタが予想しなかったことをやっています。時には犯罪小説よりも優れています。ターゲットは電話で、おならをしたり、自慰行為をしたり、寝たり、うんちをしたり、コーヒーを飲んだり、インターネットをサーフィンしたりします。非常に興味深い、すべてが関連性があり、録音はテープにあり、何も失われず、すべてがライブでコメントされており、ほとんどサッカーのようです。

パートXXXV

私たちが今疑っているように、現代の雄牛は、真実よりもはるかに感覚を、科学よりもはるかにスペクタクルを重視する環境の俳優と共謀しています。科学は、すでに述べたように、スティグマを傷つけ、強化するのに役立つ場合にのみ使用されます。もし雄牛が、根絶したい相手に対して十分な力を持っていないとしたら、科学は、どのようにして雄牛の恣意性に客観性を与えることができるかという問題で相談される。最初から自分の考えに従って世界を形作るために騙してきた雄牛の豚は、今では彼の強盗のピストルが別のトリックによって合理的な議論に変わることができると不合理に期待しています。現代の雄牛

は、すべての人々の中で、今では合理性を望んでいます、これまでは常に合理性からかけ離れた行動をとってきました。雄牛の豚は、水が首に向かって上昇する可能性があるという疑い始めているため、今、精霊のトリックを望んでいます。今や、ただの存在以上のものが危機に瀕しています。いずれにせよ、その信頼性を証明したことの無い信頼性が危機に瀕しているのです。

パートXXXVI

もし現代の雄牛がやっていることをやっているのに、やっていることをやっていないかのように振る舞っているとしたら、カールスルーエではどこかの時点でやっているのだと、人は考えるかもしれない。しかし、そうではありません。カールスルーエでは決してしません、なぜなら雄牛の豚はそれがすることをするからです。カールスルーエでツツタン教を行えるようになるためには、誰かが雄牛の豚が何をしているのか、そしてそれが何をしているのかを証明できなければなりません、それは雄牛の豚が公式には行っていません。牛豚が何をしているのか、そして知っている人もできない、なぜならカールスルーエはおそらく牛豚が何をしているのか、そしてそれが何をしているのかを知っているからだ。理解できる理由から、ブルブタが何をしているのかをできるだけ知らない人はできるだけ少なくする必要があります。あまりにも多くの人々がそれを知っている場合、雄牛の豚は、それが何をしているのかを知っている人々がそれが何をしているのかを言った場合、彼らが何をしているのかを知らないことを誰もが学ぶことを確実にするためにあらゆることをしなければなりません。不良と狂人だけが警官の豚が何をするかを言い、幸いなことに誰もそれを信じません。少なくとも、カールスルーエで良いことをするのに十分なセンスとボールを持っている人は誰もいません。だから、現代の雄牛は、自分がやることをやり続け、やることをやらないふりをして、やることをやっている。そして、それは常に行いますが、雄牛の豚は誰にも知られずにドイツの寝室を歩き回っています。

パートXXXVII

彼の種族の中で最悪の種類の警察官、現代の雄牛を呼ぶと、私たちは不公平になりますか？いいえ、そうではありません。現代の雄牛は臆病で、残忍で、卑劣に振る舞うため、十分に不利に説明することはできません。それは共感に値しない、なぜならそれは自分自身をかき集めることができないからだ。それは、常に上から詳細にそうする許可を得ていな

いののに、伝記を恣意的に終わらせます。多くの場合、必要なのは、現代の雄牛に行動を起こさせるために黒い羊を追ひ払おうとする狂ったブルジョア一族だけです。もしブルブタがやりたいことをすることが許され、野生のピットブルテリアのように解き放たれた大混乱を引き起こすことが許されるなら、国家はもはや法的平等を主張することができず、それについて私たちに笑われることになる。もし雄牛がやりたいことをすることが許されるなら、法の前で誰もが平等になることは不可能です。だから、もし国家が実際には存在しない平等を広めるなら、国家全体としては、その無能な警官以上に尊敬に値することはほとんどない。したがって、州がルールが存在を強調するために例外を設けた場合、それを止めなければなりません。なぜなら、あなたがそれについて真剣に考えているなら、平等は例外を容認しないからです。なぜなら、もしすべての人を平等に扱うと主張しながら例外を設けると、すべての人を平等に扱うふりをし続けるためには、ごまかしをしなければならないからです。もし国家がこのように自分の足を撃つなら、私たちはそれも適切に足につまづくことを確認しなければならず、後で常にすべてを正しく行ったと主張できないようにしなければならない。もし国家が自らの足を撃ちたいのであれば、私たちはその発砲を確認しなければなりません。おそらく数ヶ月後、州は注射後に彼の膝がどれほど痛かったかを覚えており、注射を繰り返すのを控えるでしょう。もし国家自体が犯罪性を隠蔽するために犯罪者にならなければならないのであれば、公の場で効果的な方法で国家が犯罪者にならないようにしなければならない。もし国家がロバであるなら、私たちはその中に這い込むべきではなく、愚かなロバにふさわしい蹴りを与えるべきだ。お尻も正しい方向からの圧力で再び立派なお尻になることができます。国家は再社会化のチャンスに値するが、現代の雄牛はそうではない。それは絶望的なケースです。

パートXXXVIII

名誉毀損の観察は、人格の暗殺であるだけでなく、誰かを故意に死に追いやる継続的な試みでもあります。名誉毀損の観察は、永久的な殺人の試みです。それは、無条件の抹殺意志の啓示であり、それ自体は警察の措置ではなく、それ自体がすでに最も残忍な種類の違法な刑務所である。名誉毀損の観察は野蛮の成果であり、いかなる方法でも矮小化したり相対化したりすべきではありません。もし誰かが名誉毀損の観察を受けた場合、それはその人が社会から排除されるべき証拠に過ぎません。名誉毀損の観察を行う法執行官は、通

常、匿名で難攻不落のままです。彼らは自らを闇の神と化し、目的地で地獄のような次元の訪問を行う。絶滅を目指してプログラムされた絶望。だから、現代の雄牛が何をするかをするとき、それをあるがままと呼ぶには言葉による攻撃だけでは不十分だ。もし現代の雄牛が、対象に想像を絶する悲愴さと痛みを与えることを許されるなら、雄牛そのものが終わらせなければならない悲愴さである。特定のタイプのファシストとしての現代の雄牛は、法の支配が未来を持ちたいのであれば、現代の法国家の全体的な星座から取り除かれなければならない。立憲国家には、自分たちが何をしているのか、なぜそれをしているのかを知っている警官が必要です。現代の雄牛が知識人になるとは期待できないが、自分自身の任務、権利、義務を理解するのに十分なほど内省的であることは期待できる。しかし、もし雄牛が何のために雄牛なのかを知らなければ、国家は、それが何のために雄牛であるのかを、それが何のために与えられるのかを説明することはできない。

パートXXXIX

ブルピッグ宣言は、そのような不快なテキストを書くことさえ楽しいことがあるにもかかわらず、それを楽しむために書かれているわけではありません。ブルブタ宣言は自己防衛の行為であり、あまりにも長い間踏みにじられてきた基本的権利の主張です。ブルブタ宣言は、1年にわたる全体主義的な抑圧の中で成熟し、いわばついに爆発した。最終的に何ページになるかは、現代の雄牛の手だけに委ねられています。もっと早く撤回していたら、そもそもテキストは書かれていなかったでしょう。しかし、今では存在し、おそらくそれから恩恵を受ける人々がいます。ここに描かれている雄牛の豚は、自分自身を非合法の標的にするためにあらゆることをしてきたので、誰も傷つけることはできません。現代の雄牛に危害を加えることは、スズメバチがあなたを刺そうとしているときに殺すことに他なりません。愚か者と思われずにこのスズメバチを殺したことを真剣に正当化したいと思う人はいないでしょう。ここで説明する雄牛の豚は存在し、そのように機能し、その存在がわかっている場合にのみテストすることができます。これは、記述され、調査された幻影ではなく、現実の人間のタイプであり、多くの変種では、誰にも止められずに非常に具体的な方法でいたずらをしています。テキストが現代の雄牛をより注意深くするのにさえ役立つなら、すでに何かを得ています。雄牛の行動を止めたり、遅くしたりするものは

何でも重要です。なぜなら、彼が立憲国家の公務員としての存在が既にスキャンダルではないという事実は、基本的に既にスキャンダルだからです。

パートXL

現代の雄牛が市 の脳を読むことで何度も失敗しようと試みるとき、それは失敗していることにさえ気づきません。ブルブタは、その個人的な説明基金で他人の行動を説明しようとしませんが、多くの場合、チンパンジーの行動を理解できる方法で解釈するのに十分です。愚かな人は自分が愚かであることを知らない。しかし、賢い人は自分が賢いと疑い、さらには知っています。雄牛の豚は、まったく自由に使えるわけではない手段で、この橋の架けられない溝を克服しようとしています。だから、ブルブタは、あたかも自由に使える手段があるかのように振る舞い、自分が関与できない人々の行動を説明しようとするだけなのだ。雄牛の豚は、自分では作り出すことができない説明を見つけるように専門知識で教えられています。ブルブタは今、監督を始めることさえできない科学装置に依存しています。それは、それが考えているように、とにかくその目標にできるだけ重く負担をかける方法を探しているだけです。そこで、雄牛の豚は、たくさんのキャンドルのうちの1つでヒットを狙って、次々とスモークキャンドルに火をつけます。雄牛の豚は人間の存在で宝くじをプレイし、ノンストップで負けますが、宝くじの当選者のように感じて止まりません。現代の雄牛は、すでに述べたように、再社会化することはできません、それはそれを恥じることなく取り返しのつかない損害を引き起こす損傷です。現代の雄牛の豚は、差し迫った黙示録の先駆者です:私がそれについて知っていると言わなければ、何も可能になりません。私は、自分の人生が生きる価値があると感じられないという事実に耐えられないので、人生を生きる価値のあるものにするすべてのものを喜んで奪います。私が持っていなければ、あなたも手に入れることはできません。雄牛の豚は愚かで、嫉妬深く、悪意のある子供で、彼が中絶する前に中絶した方がよかったです。

パートXLI

ヨーロッパの警察官の間には、観察への依存症があります。現代の雄牛は、一度あなたの上に自分自身を観察したら、それはそれほど速く停止することはできません。結局のところ、観測の終わりにターゲットがどのように反応するかを観察したいのです。雄牛の豚は中毒になり、探すものや失うものがないプライバシーに夢中になっています。現代の雄牛は、観察前には知らなかった存在の世界に精通しています。それは、ブルブタが理解していない世界は単に存在しないため、これらの世界を全力で破壊したいと考えています。どこへ行けばいいのでしょうか?いったいどうしてそんなことが可能だったのでしょうか?現代の雄牛はどのようにして地位を確立することができたのでしょうか?NSUの大惨事後、その調査はNSUの犯罪そのものよりも破滅的ではなかったが、警官の豚はその能力を試すべきだった、大きな過ちから学ばなければならなかっただろう、それは自分たちの仕事をするのができ、そしてやるべきだったことを国に示すことができたし、そうすべきだった。しかし、起こったことは逆で、汚名を着せられ、隠蔽され、隠蔽され、失敗が続いた。国が知ることを許されていないことは、国家機密として何十年も閉鎖されており、それが公式に知られるようになったときには、もはや誰にも興味を示さないことは確かです。誰も知らないはずのことは、それなりの理由で、ただ金庫にしまわれ、私たちがまだ想像もつかないような問題を抱える未来に放置されているのです。このようにして、草は国家犯罪を超えて成することが許され、発生源保護が発動されます。パンデミックは、これまで安定していると思われていた国家がいかに脆弱であるかも示しています。メルケルが永遠に放置される局面で、現代の雄牛は気づかぬうちに生死の審判者になってしまった。今、いたずらな臆病者は彼が望むことは何でもすることができます、ママは彼の世話を怠ることによって悪い子供を甘やかしました。今、それは世界にあり、もはや一日まともな大人にすることはできません。彼のタイプがあまりにも多いため、場所を元の状態に戻すために何千人もの警官を解雇しなければならないという理由だけでも。

パートXLII

もし、誹謗中傷の観察が疑いなくそうである絶滅の観察が、現代の雄牛によってのみ行われるとすれば、これは間接的に、観察下にある者から最初から防御の権利を奪うことになる。彼はすでに自殺しているため、基本的権利を主張する権利を行使する時間がなくなったことがよくあります。ブルブタの計算は再びうまくいきました:それは心理的にゴールを終わらせるだけでよく、最終的には物理的な部分自体を引き継ぎました。誰も自殺を雄牛の豚にさかのぼることはできません。マフィアもこの方法で殺人を行います。目に見える痕跡は残っておらず、すべてがきれいで、ケースは閉じています。次に雄牛の豚が誰を流通から外すかは誰が決めるのでしょうか?確かに、幹部会の机のしっかりと閉められた引き出しにウィッシュリストが不足することはありません。

パートXLIII

もし現代の雄牛が市を侮辱する権利を広範に利用しているとすれば、公式にはもちろん、その権利は全くないのだから、実際にこの権利をどのように説明しているのかという疑問が生じる。だから、現代の雄牛は彼の義務を果たす代わりに、彼に合わない人々を殺すことを好みます。しかし、現代のブルブタは、法の支配の下で主主義国家の合法的な暴力専門家として機能していると主張し続けているのに、どうすればこれを行うことができるのでしょうか?現代の雄牛は、すでに述べたように、妄想的であるだけでなく、急性の統合失調症でもあります。それは、真の立憲国家では公式には全く規定されていない役割を果たしています。では、なぜ誰も現代の雄牛を防げなかったのでしょうか。それは彼の職業を理解しておらず、まったく必要とされていない人です。なぜ現代の雄牛は、自発的に受け入れられた職業を毎日欠席することが許されているのですか?もちろん、今、私たちは毎日何百人もの命を奪うパンデミックの大惨事の真只中におり、現代の雄牛の異常に対処する時間はほとんどありません。しかし、ある時点で、この国に平和が戻ったとき、市が実際にどのような警察力を望んでいるのかという疑問が許されるべきであり、もし彼がこの本に書かれているような現代の雄牛を見たいと主張するなら、彼自身が統合失調症にならざるを得ないでしょう。

パートXLIV

匿名で難攻不落で圧倒的な現代の雄牛は、理由もなく監視しているが、自分が徹底的に監視されていることに気づいていない。勝ち目がないと分類されたターゲットは、ブルブタが何をしようとしているのかを知っており、それについて報告することができます。これが現代の雄牛の100パーセントの優位性が終わるところです、なぜなら、今やそれはついに説明の必要性に持ち込まれるようになり、そこからはもはやそれがその行動を通じて自分自身を操縦したほど簡単には抜け出すことができないからです。遅かれ早かれ、雄牛の豚はそうすることができずに説明をしなければなりません。それは今、この時点までそれをカバーしてきた人々の助けに依存しており、ゴールからのコントラがあるとは予想できません。雄牛の豚はホストなしで計算を行いました。今、彼らに支払わなければならないかどうかは、共謀している人々の修辭的スキルにもかかっています。しかし、事態は今、予想以上に深刻化しています。現代のブルブタが有害廃棄物として処分され、引退後に誰にも害を及ぼさないようにしないと、生きている限り損害を与えることとなります。悪い警官は、少なくとも3回は悪いと表現することができます:仕事が悪い、人として悪い、主主義が悪い。有害有害廃棄物。人々を鎮めたいと願う役割を果たす牛豚は、それ自体が緊急に鎮圧が必要な豚です。それが失敗すると、強打は、雄牛の豚が何をするかによってすでに持っている強打と同じくらい暴力的になります。チッ!

パートXLV

非対称性は全体的です。現代の雄牛のブタの完全な不可視性は、その観察対象の完全な可視性とは対照的です。現代の雄牛に見守られることは、逃げ場のない24時間7日の仕事です。ブルブタは主にターゲットが睡眠中に何を言うかに興味があるため、休憩は問題外です。だからこそ、私たちはそれを明確な良心を持った典型的なファシストと呼ぶことができるのです。現代の雄牛は理解するためにそこにいるのではなく、破壊するためにそこにいます。それは、絶滅の可能性に有利なものを理解しているだけです。それは理解したいことだけを理解し、予想されるように、それは常に小さすぎる。現代の雄牛は、啓蒙するために並んでいるのではなく、啓蒙を不可能にするために並んでいます。現代の雄牛は、啓蒙の絶望の生きた証拠です。それにもかかわらず、私たちはそれを悪魔と呼ぶことはできません、なぜなら彼は陳腐ではないからです。しかし、現代の雄牛は完璧な陳腐さです。

パートXLVI

現代の雄牛が何でもできるが、何もできない、すべてを知りたいが何も知らない、すべてを隠したいが、期的には見えないままでいられないとしたら、それはまだ誰も彼がそうであるとささやいていない神風に匹敵します。雄牛の豚は、彼が何に対しても答える必要はなく、法の支配によって統治される国家にはまったく存在しないはずの免疫、つまり破壊的で役に立たない愚かな人々の完全な免疫を享受しているという信念で就任しました。雄牛の豚は、自分の目標が、何も説明したり、自分自身を説明することができなくても、すべてについて自分自身を説明することを期待しています。現代の雄牛は、法の支配の盲点に巣を作っています。法の支配は、自分たちが見えないこと、雄牛の豚が見えないことを知らない。しかし、彼は現代の雄牛の現象を受け入れることで、目に見える絨毯の膨らみが認識できなくても、もはや絨毯の下に押し流すことができない何かに自分自身を巻き込んでしまったと感じています。愚かな俳優の想定される狡猾さは、遅かれ早かれ国家の負担になります、なぜなら、期的には、その無能さを隠すのに十分な不可能な狡猾さになり得るからです。しかし、もし雄牛がもはや見えなくなるほどのことをしたとしたら、国家は、自らの能力を超えずに、負担となったこの負担をどうすべきかという疑問が生じます。無能さは、それが人、組織、または国家機構全体の無能であるかどうかに関係なく、説明するのが困難です。しかし、確かなことは、その時がついに来たとき、国家が最高レベルで面目を失う準備ができていなければ、国家が現代の雄牛であると公言することはできないということだ。結局、国家は現代の雄牛の制定をその過ちとして認めざるを得ない。

パートXLVII

愚かな男が一般的に最高の形に達するのは、自分が邪悪だと信じているときだけであるように、現代の雄牛の豚は、憎む人々の屈辱の中で最も輝いています。愚か者は自然に自分

の周りの世界の邪悪さに適応する傾向があり、その中で可能な限り最善の方法で生き残りたいと願っています。その限界は、この戦略が幸せな生活と全く両立しないという認識を妨げます。愚かな男は、自分の事業が絶えず失敗しているのは、彼の信念に反して、彼個人にまったく興味がない敵対的な世界のせいだと考えています。彼は、失敗がすべての人々と事実に対する彼の根本的な誤解に直接関係していることを理解しておらず、常に自分自身がすべてのものの尺度であると考えているため、つまり、自分の信念を批判的に検討することができないため、彼は混乱した頭に起源を持つ抵抗との生涯にわたる戦いを戦います。なぜなら、彼は通常、もっと良いことをしているからです。愚かな者の人生は、彼自身の偏狭さが彼に課したマインドファックとの絶え間ない絶望的な戦いです。愚かな人はいつも不利な立場にあると感じ、その結果、人間として成し、最終的にはあらゆる点で不利な立場にあると表現されざるを得ないのは、彼がそれを理解できないまま自分自身を不利にしたからです。彼の視点から見ると、彼の欠点の責任は他の人にあり、したがって、彼が不幸な人であるという事実は他の人に責任があります。彼がこの不正に対して、傲慢にも彼の心境に少しも興味を持たない他の人々に復讐するために、彼ができると思っている最低限のことがある。だから、愚か者は、少なくとも彼の想像上の敵の生活を、彼が考えるよりも困難にするために、できる限りのことをする。現代の雄牛は、気さくな動物からその軽さを奪うために必要と思われることは何でもする準備ができています。彼らもまた、愚かな人間であることがどれほどくだらないかを本当に感じるができるように、雄牛そのものと同じくらい辛い思いをすべきだ。

パートXLVIII

もし国家が愚か者たちに観察を許すだけでなく、彼らにあからさまに命令するのであれば、誰も驚かず、ナンセンスしか出てこないと後で文句を言うべきではない。愚か者は、愚か者の手段でしか世界を解釈できないので、その結果は愚かさ以外の何物でもあり得ない。イギリス空軍自体は、ほとんど例外なく愚か者で構成されており、国家がその愚かな行動を通じて、自らを温和な和平者として区別することを非常に容易にした。したがって、テロの段階の後、すべ

てが適切な方向に進んだという確信に安住することができました。しかし、それは真実の半分以下です。テロリストの暴力に対する正当な行動を通じて、国家は、いわば、国家に対する革命的な思考、すなわち、よく調べてみれば全くまとまらない二羽の鳥を一石二鳥で殺してしまったのである。ハッシュから始めると、最終的には夢中になります。国家に逆らって考えると、結局はシュタムハイムに行き着くでしょう。ですから、それをしないで、賢明なことをしてください。しかし、州がRAFに勝ったのは、それが簡単な敵だったからであり、その基本的な見解が間違っていたからではありません。ドイツ連邦共和国はまずイギリス空軍を破り、次にドイツ民主共和国を破った。今や、その勝利の行進を止めるものは何もないが、それは、少なくともここで政治的になる権利を考えないのであれば、正しい場所に主的な心があるという不当な確信からなる、自身の自己満足的な無頓着さから成り立っている。そして、メルケルはとても美しく謙虚なので、彼女がいるのは良いことです。平和、喜び、パンケーキ、そして突然、彼のすべての違法な特権を得るのに十分な時間と平和を持っていた現代の雄牛の豚がいます。21世紀へようこそ!

パートXLIX

その後、NSUは州に十分に左に位置付ける機会を与えた。しかし、問題は、彼が左にも右にも十分に離れていないということです。何よりも物事が困難になると、彼は自分の道を踏み外します。国家は、自分自身をより良く見つけ、定義するために、政治的テロを全く渴望している、なぜなら、それは、それ自体が明確なプロフィールを持っていないからだ。メルケル国家は、メルケル自身と同様に気まぐれだが、この好ましくない特性を様子見の慎重さとして売り込む能力を備えている。簡単なら、誰でも明確なエッジを見せることができます。しかし、本当の芸術は、それが困難なときにそれを行うことです。だから、もしドイツ連邦共和国が、市が一斉にスパイされ、警察の心理暴力にさらされている国家であるならば、それは、市に法的確実性を保証する正義の主主義としてではなく、そのような国家としても知られるべきである。国家が市に対して自己説明を要求し、それが自らでは達成できないとき、人は、国家が提供しなければならない以上のものを実際に要求する権利は何かと疑問に思います。愚かな主流派によって疎外されてきた人々は、常に自己正当化を強いられるが、群れの牛たちはそれを免れている。本当の残酷さは、主流派を騙して、いざとなると自分たちには基本的権利があると信じ込ませることができることだ。疑問がある場合に国家によって無制限に無視されるのはまさにこれらであ

るという事実は、マニフェストが読者に近づけたい論文の1つです。現代の雄牛は他人の基本的権利を気にせず、何よりも匿名で無許可で人々を屈辱することができることにある自分自身のことだけを気にします。

パートL

もし国家が招かれざる客として私たちの寝室を覗き見しているのなら、私たちが静かに地下室に行って死体を調べるのを止めるものは何もない。彼は強力ですが、それは神だけであり、幸いなことに彼は存在せず、それだけで現代の雄牛の存在を証明しているように見えるため、彼は決して全能ではありません。神がそれを許すはずがない。一方、国家は、多かれ少なかれ意識的にそれを行います。しかし、現代の雄牛の豚となると、それを支持する州でさえも保護する必要があります:現代の雄牛の豚は、州から直接委託された以上のことが起こっています。それは意識的な創造というよりは偶然であり、極端な形の退化です。もともと市 から悪を遠ざけるはずだった人が、市 が守られるべき悪になってしまったのです。現代の雄牛は危険から身を守るのではなく、それ自体が大きな危険であり、文明の継続的な存在に対する危険です、なぜならそれを駆り立てるのは純粋な野蛮さ、個人的な嫌悪感、無制限の憎しみ、そして雄牛の分類の地平線を超えるすべてのものに対する野生的な生活だからです。したがって、それが獣が生きることを可能にしたことを、たとえ不本意であっても、その出現は容易に防ぐことができたということを、国家に思い出させる必要がある。音なしで現代の雄牛を追い払うことはできなくなりましたが、それを止めて無害にすることができます。それはビオトープから追い出され、不毛の開放地に解放され、もはや他人を辱める機会はなく、その低いニーズを満たすための食べ物を見つけることもできなくなります。現代の雄牛は、それ自身の装置に任せるべきだ、なぜなら、それはそれにとって最悪のことだからだ:愚かな人は自分自身に何も提供できないので、自分自身に対処できない。彼は、生きていると感じるために、破壊的に他者と関わる必要があります。だから、寄生性の現代の雄牛を、それが餌を与える宿主体からできるだけ早く追い出し、それが い時間から惨めに死ぬように、それを自身の装置に任せて罰しましょう。

パートLI

現代の雄牛は国家にとって大きな負担です。彼はまだそれを知らないだけです。それは単に首の厄介な痛み以上のものであり、それが行うことは最も重要な憲法の原則に反しています。遅かれ早かれ、関係者全員が大きな不利な点に対処しなければならないため、現代の雄牛自体がその活動の不利な点に参加することが許されることは避けられません。もちろん、それは常にその活動を矮小化している、なぜなら、自分たちが二本足の災害部隊であり、陶磁器店の象よりも多くのダメージを与えることができることを認めたくないし、できないからだ。何が雄牛を破壊するのは、匿名性から伝記を變形させる限り、雄牛そのもののほど目に見えないわけではない。損傷は目に見え、ブルブタが人間の変形行為を行うことを許される時間が くなるほど、視認性が向上します。現代の雄牛は、ある時点で締め切りがあり、その後作業が修正され、最終的に等級付けされるため、 期的には隠れることはできません。残念ながら、雄牛の豚は動かすことができません、それは悪い5を受けています。

パートLII

現代のブルブタが私たちのプライバシーを違法に侵害した場合、私たちはその専門分野に合法的に侵入するかもしれませんが、実際には隠すことができるよりもはるかに多くのことを隠すことになることがわかります。現代のブルブタの専門分野を公にすれば、公務員としての地位を利用して、私的には立ってられない人々を傷つけるために、なぜ公に正当化できるのかを正当化できるのです。なぜなら、彼らは今やインターネット上で、自分は何も理解していない、それについて少しも気にしていないと書くことができるからだ、それどころか、理解の欠如から美德を作りさえし、自分自身を反逆者と誤解し、大きなものを風車と誤解し、大きなものを風車と誤解し、彼らはまったく大きなものではない。それは本当に戦う必要があります。あなたは彼の背信を証明することができるように現代の雄牛のプライバシーを侵害する必要はありません、なぜなら彼が彼のいわゆるサービスで何をしているのかの評価はかなり十分だからです。現代の雄牛は、その行動について独自

の議論さえ持っていないので、その上で行動する力が、議論で行っている卑劣なことを擁護する立場にないのに、その上で行動する力がその存続を保証すると、どうして期待できるのでしょうか?現代のブルブタは、記録的な速さで溶けていく流水の上にはいますが、周りを批判的に見回し、現状の安定性を確認する能力がないため、陸上にいると考えています。また、難治船が偶然通過することのない海の中の場所に漂流します。現代の雄牛は、世界中の他の多くの無学な人々と同じように、奇跡を信じています。奇跡が起こるとき、ただ一つのこと、つまり偶然があると彼に言わなければならないでしょう。

パートLIII

現代の雄牛は主に言語を使って働いていますが、言語でも取り組むことができることに気づくことができません。それは多くの場合、苦痛者としてその目標から見えないままであるため、言語によってさえそれを可視化することはできないと誤って想定しています。私たちがここで彼を扱っているという事実だけでも、現代の雄牛は決して言葉で分析される準備ができていないことを十分に証明しています。現代の雄牛を社会的な害虫として理想的に捉えているのは、方言を話す変種で、地域に根ざし、子供の頃から地元の小人たちの空想に親しまれています。もし私たちの言語の境界が私たちの世界の境界であるならば、やや傲慢に、しかし非常に正当に、特定の言語の境界を共有する人々は、互いに特定の偏見も共有している、つまり、同じ世界に住み、そこでくつろいでいると仮定することができます。ある地域で世界や同胞の人間がどのように見られ、非難されるかは、しばしば冒瀆的な方言のフレーズによって反論の余地なく決定されます。この村では、村人などから人間として扱われるためには、3世代にわたって住まなければならないません。しかし、ここに住んでいると、結構です!それはどういう意味ですか。さて、現代の雄牛は、特定の効果呼び起こすために言語を非常に具体的に使用しますが、通常は警察官であり、言語学者や言語哲学者ではないため、メタレベルでの言語の使用についてわざわざ反省することはありません。もちろん、彼にもそれを期待したくはありません、なぜなら、もし雄牛が博士論文を書いた後、35歳でしかキャリアをスタートできなかったとしたら、誰が利益を得るのでしょうか?しかし、私たちの期待でそれを圧倒することなく、雄牛から何を期待できるのでしょうか?犯罪者として登場していない人々について、ある程度の敬意を持って語ること

が期待できます。この期待は誇張されており、非現実的ですか?もちろん、現代の雄牛は、憲法上の原則に関する知識を示唆する偏見ではなく、成した偏見に基づいて働いているからです。したがって、現代の雄牛は人間であるだけでなく、主観的な先入観に対する感受性において、最悪の意味での人間です。そして、このように編み上げられた人々は、ほとんどの場合、私たちが知らない理由で自分自身を善良な人々と見なすほど愚かです。

パートLIV

今では明らかなように、現代のブルブタは不寛容な反多元主義者であり、反エリート主義者そのものではないにしても、ここでエリートが知識人ではなく経済主義者であることを理解している限り、反知性主義者である。雄牛の豚は、いわば、所有者とファーストネームで呼ばれている、なぜなら、それは彼らがそれが彼らによってどの程度必要とされているかを知っているのと同様に知っているからである。つまり、一方では警察に関心のある市、他方では、警察を十分に知っている市で、警察に対して十分な根拠と正当な分離をもって彼らを扱わなければならない市である。前者は機会あるごとに警察に頼り、後者は他に方法がないときだけ頼る。貪欲で、自尊心が強く、不謹慎な小ブルジョアジーを厄介な倒錯と見なすなら、現代の雄牛をこの倒錯の不可分な部分と見なさざるを得ない。それについて十分に知らずにできるだけ多くのものを所有し、決定したい人々はプログラムされた混乱であり、したがって、不注意に素朴と呼ばれることなく、条件の改善を信じる人々と仲良くなることは決してありません。現代の雄牛は、そのルールや制限を理解することさえ気にしないので、文明を気にしません。それは、尋ねられても木を特定できなかった森の斧として機能します。斧は、オークを平らにするか、白樺を平らにするかは、平らにすることに成功している限り、気にしません。有害な現代の雄牛は、他のことをほとんど理解していないため、害虫として理解している害虫を取り除くことに着手しました。しかし、残念ながら、警官の豚は人工知能ではなく、有機的な愚かさであり、すでに校庭で我慢できなくなった人々を、勤務中の小ブルジョアとして判断するほど騙されている

る。今、雄牛の豚はついに彼らに復讐することができます、なぜなら、州はそれがここで休憩監督者であるべきだと理解していないため、攻撃的な喧嘩屋の仕事にスパナを入れなければならないでしょう。今、解き放たれた雄牛の豚は、監督なしで世界に存在し、すべてのささいなことに無関心を通じて、学生のようにほとんど狂ったようにそれを運転した人々の生活を困難にするために出ています。今、雄牛の豚は、正当な理由で、過去に彼のタイプを真剣に受け止めることができなかった人々から楽しみを奪うことを楽しんでいきます。なぜなら、実際には、雄牛の豚はそれが最も値するいじめを恐れているからです。この当然のいじめから逃れるために、それは予想して、潜在的ないじめっ子として恐れている人々をいじめます。雄牛の豚は愚かなままでしたが、ついに彼がかつて校庭にいたように無力ではなくなり、彼に決して与えられるべきではなかった力を備えていました。

パートLV

今、メルケルはついに去り、彼女がいつも最善を尽くしていたことは、存在が必要だったはずの場所に留まることだった。メルケル時代は、援助提供の失敗の時代としてドイツの歴史に残ることになった。何も悪いことをしなかったが、多くの悪いことを防ぎなかった人が特徴です。メルケル首相の下で、現代の雄牛は現在の次元に成り上りました。醜く太った豚を、自分で屠殺する危険を冒さずに屠殺場に連れて行く力と手段を誰が持っているのでしょうか？ここでのマニフェストは、一定の効果を持つだろうが、決して権力のある愚か者の権力を危険にさらすほどの可能性はない、なぜなら、彼らは、金で法的救済策を買い、威嚇力で雄弁に身を守る方法を知っているからだ。そして、国家自体が、おそらく均衡感覚を失った肥えた甘やかされた豚になっていたかもしれないということを、誰も大声で言うべきではないし、ましてや紙に書くべきではない。しかし、いずれにせよ、私たちはそのような敗北国家の重みの下ではほとんど息をすることができないので、そしてアメリカ人が好んで言うように、自由に生きるか死ぬか！そして、彼はとても正しいです。メル

ケルの終焉は、21世紀に向けて温まり始めたばかりの現代の雄牛の終焉ではありません。その過程で首を折る可能性は極めて低いです。

パートLVI

しかし、現代のブルブタが絶対的な優位性と戦略的優位性の立場から行動するとき、私たちは何を手にしているのでしょうか?彼の愚かなおしゃべりさ、無限の軽率さ、そして、結局は標的にとってさえ秘密にならない愚かな秘密作戦で、どんな犠牲を払っても仲間の市 にとって自分を重要視する必要性。愚かさや認識への渴望の客観的に不利な組み合わせは、現代の雄牛が何度も露出する可能性があることを期待させ、したがって、サディスティックな単細胞生物を最終的に止めるために必要な仕事にスパナを投げ込むことを可能にするジョーカーです。それは、主の御前でノブレイナーへの余分な光を何度も消すために必要であり、そうすれば、彼は神のように振る舞うが、それでも人間であり、非常に脆弱な存在であることを理解させる必要があります。現代の雄牛の愚かなおしゃべりさがついに彼自身の破滅となると、ある時点で、彼は愚かな雄牛自身よりもはるかに不当にはるかによく知られている人々を故意に知らしめていることが知られるようになります。そして、マニフェストが現代の雄牛を最終的に知らしめ、それが幻ではなく、実際に存在する脅威であることを示すのに役立つだけなら、その努力はすでに価値があるのです。遅かれ早かれ、現代の雄牛が自分自身の狂気を隠すために健康な人々を狂人として様式化していることを誰もが知るでしょう。そうすれば、現代の立憲国家が、狂人に最初から完全に圧倒されていた任務を任せたことは明らかになるだろう。現代のブルブタは、大きなシステム上の欠陥を通じて巨大な権力を所有するようになった敗者です。この敗者が自分のステージで敗北を喫する頻度が高ければ高いほど、敗者の不正な力がゆっくりと減少する可能性が高くなります。そして、これを最後まで考え抜くと、国家には数年後の選択肢が2つしかない:現代の雄牛であると公言するか、法の支配に基づく主権国家であることを主張し続けるか。ですから、 期的には、現代のブルブタは、淡々とペダルをこぐ人ではなく、コミュニケーションに関連するものを何も持たずに全世界に聞かれないと願う大声のプロレタリアであるという事実に、私たちの幸運はあります。だから、この暴動の達人ができるだけ早くみんなの神経を逆なでし、ある時点で誰も彼の叫び声を聞きたくないので、独り言だけを話すように冷静に確認しましょう。クソッタレ、現代のブルピッグ!観察したいなら、自分自身を観察してください。誰もあなたを必要としていない、誰もあなたを見逃さない。膝をファックして、クリップを撮って、誰も気に入らないようにインターネットに投稿してください。

パートLVII

もし現代の警官の豚が、愚かな小ブルジョアとして、何でも欲しがっているが何もできない愚かな小ブルジョアジーの代理人であるならば、すべては二つの可能な方向にしか発展できない:啓蒙と解放の方向、すなわち現代のブルブタから離れるか、それとも 主的ファシズムの方向、事実上の無能力な市 から 主主義を奪う筋金入りの資本主義的暗号ファシズムの方向か。彼は自分が生きていると信じており、その成功は市 の愚かさの増大に比例する可能性が高い。人々と、彼らが自分自身と環境について何を作るかに関しては、可能な限り最大の悲観主義が常に適切です。もし誰かがあなたが期待できる以上のことを成し遂げたとしても、これはルールを証明する例外と見なすことができます。人間は何よりも、すでに低い期待を持ってこの世に出て行く人々に、これらの期待でさえ高すぎると説得する芸術家です。自分自身の中の人間とは、自分を正しく評価する人が、あらゆる手段で自分自身から遠ざけようとするものです。安っぽい時代精神の波動に共鳴することに成功しただけの雄牛は、彼が単純な人として見つけ、当然のことながらもはやテレビのコミッショナーにはならず、はい、誠実な公務員でさえありませんが、最良の場合、彼が自分自身に敬意を払う時代精神を説明することができなかった時代精神の雄牛です。なぜなら、それはあまりにも深く彼に絡みつき、あまりにも深く彼に閉じ込められているからだ。現代の雄牛は、彼がどれだけ自分自身を疲れ切らせても、結局、彼が自分自身と他人から作り上げたものは常に悲愴さと失敗の輝かしい成果です、なぜなら、何も理解していない人々は、奇跡でない限り、賢明な人々から賞賛や賞賛を受けることさえ何もできないからです。しかし、現代の雄牛がまだその場所に立っており、最終的にそして永遠にそれを失うのではなく、力を得ているように見えるのは奇跡です。暗い時代が待ち受けている、少なくとも彼らのよく計算された終末論的な恐怖を取り除こう、なぜなら彼らは野蛮な陳腐さだけを餌としているからだ。

パートLVIII

もし、自分の寝室で自分の性行為について方言を話す半類人猿にコメントされることを喜ぶ人はいないと思うなら、そもそもなぜ絶滅観察が行われるのか不思議に思うでしょう。そもそも、雄牛の豚は刑務所ではなく、実際に起訴されるべきなのに。国家が手に使えるものを何も持たない人々は、法廷審問が行われない前に、現代の警官の豚によって単純に罰せられ、彼らが自殺の餌食になるか、少なくとも狂気に陥ることを期待して、父なる国家が議論の苦痛に陥らないようにする。しかし、このことから、国家は、その自己定義をより良く弱体化させることができるようにするために、立憲国家のふりをしているだけであると結論せざるを得ないだろう。国家が主張するような国家ではあり得ないという事実は、非常に陰謀論のように聞こえ、それは疑わしい。しかし、真実は、国家自体が存在しない陰謀を信じているということです。これには、決して起こらない左派への革命的なシフトについてのパラノイアが含まれます。国家はそのような空想に対して武装しようとしませんが、それらは現実の脅威としてはナンセンスです。そして今、それについてのジョーク:国家が右目で明らかに盲目であるのは、左に対する恐怖がはるかに右の恐怖よりもはるかに大きいからであり、それだけで犯罪に関するすべての統計を証明するはるかに正当化されるでしょう。そして、これはイギリス空軍の歴史だけに関連しているのではなく、左翼の恐怖はイギリス空軍よりもはるかに古いからだ。この中立性の欠如の基盤は、最悪のケースは左派のクーデターであるという保守派の潜在意識の確信にある。右からの打倒は、もしあったとしても、2番目に悪いケースになるだけだろう、なぜなら、右は強打の後の黒人を含み、左はむしろ含まないからだ。この州は決して中立ではなかった、45歳になっても、それはそれにとってかなり良いことだっただろう。国家の心の状態を理解したいのなら、その構成を見るのではなく、それは形だけであり、その恐怖を見て、それから魂でそれをつかむことができ、それから内容を見るのです。

パートLIX

ベルリンの壁崩壊後のシュタージの葬儀が公式に行われたことで、国家はシュタージのスパイ活動を決して終わらせたわけではなく、それどころか、さまざまな後援の下でシュタージを新たなレベルに引き上げ始めた。今や、勝利国家が、あらゆる告白にもかかわらず、いまだに信頼していない、あるいは、もはや信頼していないものは、崩壊しつつある。パラノイアは治療されず、敵の新しい神話で養われます。自らを信頼していない国家は、今や、同じ理由で同じことをするように信頼している人々をスパイしている。現代の雄牛の出現のための繁殖地は、特に**2001年**以降、新たな敵のイメージが世界観に統合される可能性があるため、ほぼ最適です:文明のイスラム主義者の敵。文明の明らかな敵は、自分自身の文明に対する疑問を管理可能な範囲内に保つために、常に素晴らしく利用することができます。市 がテロリストをどのように想像するかをできるだけ正確に知っていると、常に役立ちます。これにより、国家自体が、よく調べてみれば、全く本物の文明ではない、あるいは少なくとも決して完璧な文明ではない文明を守るために、隠されたテロリストの特徴を持っている可能性があるという危険な考えを人々が得るのを防ぐことができる。国家を**100**パーセント信頼していると、国家自体がそれすらしないので、失望するリスクが極めて高くなります。何よりも、遠い昔にファシズムを放棄した国家を信用してはいけないので、忘却が、誰も予想していない方向から微妙に新版を始めるほど大きくなる可能性がある。

パートLX

では、あなたは完全な現代の雄牛が欲しいですか?、あなたは尋ねるかもしれませんが、そして、未知のペリシテ人に**20**分以上故意に観察されたことがある人なら誰でもすぐに答えるでしょう:いいえ、絶対にありません!観察は心理的な暴力であるだけでなく、常に必然的に物理的な暴力につながる、遅くともターゲットが初めてクローゼットに行き着くとき、健康な人には必要のない薬を飲むように勧められます。現代の雄牛は、意図的に健康な人々

を病気の人に変えます、なぜなら、精神医学的診断は、臨床的事実で次の観察を正当化することになると、それらがどのように生じたかに関係なく、まったくないよりはましだからです。クリニックでの滞在は、ブルブタが実際に目指していた自殺ではなく、そうでないものはまだあり得ます。結局のところ、連邦レベルでの強気の汚名は、遅かれ早かれ、誰もがひざまずき、雄牛のブタを考え、バグのある寝室でドイツのセックスを見ながら、満足そうにソーセージサンドイッチをかじるのです。雄牛の豚は、冷たいビールを添えて、勤務中に七面鳥のサラミを食べるのが好きです、ああ、雄牛の生活は美しいです。

パートLXI

もしテキストが、多次元的な有害性を解決しようとするタイプの人々を対象としているとしたら、何を達成できるのだろうか？マニフェストは、彼らが言うように、現代の雄牛に良い毛を残しません。今では、ここで紹介されている雄牛の豚が、なぜそれ自体が哀れな犠牲者であり、悲しい存在なのかを、多くのページで説明することができます。しかし、私たちは本当に共感を欠いている人々に対して共感を育みたいのでしょうか？私たちは不寛容な者を寛容に扱い、最後にはもう一方の頬を彼らに向けるべきでしょうか？いいえ。我々はここで戦わなければならないレベルにまで沈みたくはないが、もしイギリスがどこかの時点でドイツ人を爆撃して瓦礫と灰と化さなかったならば、彼らは自転車のチェーンなどを持っていたら。では、マニフェストで何ができるのでしょうか？簡単に言えば、最良の場合、マニフェストは、テキストが存在しない場合よりも、現代のブルブタがファシストの仕事をするのをより困難にします。雄牛を抑制し、速度を落とし、より慎重にするものは何でも引き受ける価値があります。私たちはそれを破壊したいと告白します、なぜならそれはそれ自体を破壊し、非常に理不尽だからです。しかし、健康な領域に損傷を与えることなく、進行がんを体外に切り取ることはできません。現代の雄牛は、すでに社会の体に非常に深く、分散して巣を作っており、今では私たちが知っているように、仕事を続けるのを妨げられないように、常に 間人を犠牲にしています。それは臆病で、それゆえに、本当の闘争心よりも見せびらかしを約束する男らしさを誇示するのが好きだ。物理的な力を使っても、試合前に相手の劣等感がすでに確立されている場合にのみ、それ自体から出てくる。公式には暴力の専門家ですが、そのため、ドローンパイロットが戦争地帯でモニターで500キロの距離からジョイスティックで 間人を撃つときに示す勇気を証明しています。卵が股間に横たわっていて、いわば鋼で保護されている場合、太った卵を作るのは簡単です。現代の警官の豚は、他の多くのファシストと同様に、良くも悪くも耐えなけ

ればならない。しかし、もし私たちがそれと戦う方法を見つけたら、私たちは彼らを連れて行くべきです、そうでなければ誰も彼らを連れて行かないでしょう、そしてある時点で、そして全くの絶望から、ブルブタは、とにかく本当の友達を獲得する方法を知らないのです、すでに半分視界に入れている人々とまだたむろしています。結局のところ、現代の雄牛は、友情と愛を知らないからこそ、あるべき姿になれるのです。しかし、それはそれが何であるかを決定したので、同情に値しません:退屈ながらうた。

パートLXII

また、現代の雄牛は、権力者がそれを防ぐ方法を知らなかったために可能になった不可能な人間であるとも言えます。愚かさが行動への熱意に対応するとき、そこからは分別のあるものは何も出てこない。現代の雄牛は自分自身を合理的だと考えていますが、カントはおそらくそれが英語の「おまんこ」にすぎないと考えています。しかし、もし私たちが教育の欠如と良識の欠如との間に相関関係を確立しようとしても、そのようなものはなく、もし左翼がそれを主張するとしても、彼らは真の左翼ではない、あるいは少なくともマルクスを正しく理解していたであろう人々ではないからである。普通の人々でさえ、単純な方法で非常にまともになることができます、なぜなら、私たちが住んでいる状況でさえ、最終的には抑圧の単純な事実の常により簡単に分解できるからです。悪い普通の人々とは、彼らが日常的に経験する権力の乱用を再現する人々にすぎません。アドルノが小ブルジョアジーに対して特別な恨みを抱いているのは、当然のことである。ほとんど何もできないが、どうしてももっと権力と所有物を手に入れたい人、這い上がったり降りたりする人は、道徳律を気にしないために、本当の潜在的な危険を抱えています。道徳は、自分たちの権力の乱用を矮小化するためだけに彼らのサークルで使用されています、なぜなら彼らは何も良いことを望んでいませんが、残忍さの代償に関係なく、すべてのものをより多く望んでいるからです。小ブルジョアジーは、決して起こらない未来のために生きており、したがって、現在のすべての可能性を見逃しています。このように生きる人々は、知られている唯一の喜びがシャーデンフロイデであることを知っています、そしてこれは彼らが加害によって被害者の地位を失うことができると信じている被害者のための安価な記事です。自分が何者で、どこに所属し、誰を避けなければならないかを知っているプロレタリアがいて、もっと多くない自分を憎む人よりも百倍も同情的だ。ここで考える際の誤りは

すぐに明らかになる:攻撃的な小ブルジョアジーは、自分がもっと持っている未来に自分自身を見るのが好きで、自分が魔法のようにはないことを理解していない。不動産の目標を存在の目標に結びつける人は、彼が始める前からすでにすべての可能性を台無しにしています。現代の雄牛は、すべてを欲しがり、何もできない小ブルジョアです。どうやら何でも許されているという事実は、マニフェストが捧げられている基本的な問題の一つである。ほとんど理解せず、ほとんど何もできない人々は、決して最大の抑圧力を持つ人であるべきではありません。致命的なエラー!

パートLXIII

絶滅観察の思想と実施は、ファシストであるだけでなく、最良の意味でのファシストであり、100パーセントファシストである。もし 主的であると主張する立憲国家が、国家がこのように自殺を引き起こす意図を持って、今や何百人ものドイツ市 を侮辱しているとすれば、それは同時にファシズムを容認しないと主張することはできない。結局のところ、彼はそれを容認するだけでなく、的を絞った方法で、つまり、現代の雄牛そのものよりも、おそらくコミュニティ全体にとってはるかに危険ではないと思われる人々を減速させるために、ファシスト的な方法で行動するのです。したがって、ファシズムは容認されているだけでなく、市 には見えない無数のマイクロファシズムという形で、日々、意図的に実践されている。ファシストの実践は、法の支配の下での訴追を装っていますが、もしそうであればそうであるだけでなく、ここですでに説明したように、刑事制度でもあります。だから、もし国家が自分の行動を正当化できなければ、結果としてそれが正確に何であるかを正当化することもできない。そして、もし彼がそれにもかかわらずファシストの拒絶者を模倣するならば、彼が積極的にファシストのやり方で活動しているなら、彼がどのような権利でそうするのかを尋ねるかもしれない。現代の雄牛は、私たちが覚えているように、それが何をするかはしませんが、それが何をするかをしないかのように行動しますが、なぜそれがそれを行うのかを説明することができないまま、それが何をするかを必死に続けたいと思っています。そして、もしそれがここに述べられている通りであるならば、なぜカールスルーエでまだうまくいかないのか、当然のことながら問い続けることができるだろう。もし国家が部分的なファシストであるならば、私たちはまた、それがそうであることを知り、読むことを許されるべきである。そして、もしそれが起こらなかった

としても、ヨーンマークの州には何か腐ったものがある。

パートLXIV

現代の雄牛が自分自身を主張しようとして失敗する緊張には、ある種の非対称性があります。もし知識人を、彼らに対する有効な犯罪行為なしに終わらせたいのであれば、奇妙な魔女狩りで、自分たちを支えるのに十分な能力を持つと考える人々の専門知識にかかっている。だから、現代の雄牛が、自分を入れることができない人々を殺そうとすると、そのための地平線がないために、必要な地平線を持っていると信じている人々と対峙する。その間に見ることができるように、ほとんど成功していません。さて、現代のブルブタは、流通から外したい人々に対して法的手段がない場合、何をしますか？それは、彼らが制裁可能なセクシュアリティを持っていると仮定しています。なぜなら、それがその目標を達成する唯一の方法だからです。これらの人々を理解するためには、雄牛の豚自体が彼らのようでなければならぬでしょう。しかし、もしそれが彼らのようであれば、人々を迫害したり、屈辱を与えたりはしないでしょう。すでに述べたように、これは1950年代のアメリカの共産主義者迫害の文脈において非常に模範的でした：国家が、国家に反対すると考える自由なアメリカには人々しかいないという印象を持っていたという事実だけで、たとえ彼らがいかなる形の犯罪者でなくても、あらゆる手段で彼らと戦うのに十分でした。が目立ちました。ペリシテ人は、自分の世界を全く気にしない人々がいることを、生まれつき耐えられないのです。一方、不本意ながらペリシテ人の殲滅の視界に入っている人々は、ペリシテ人が存在し、彼が彼らを地下に潜らせようとしているという事実、とっくに慣れてしまっている。ある年齢から、彼は自分の人生よりもはるかに死を好む人々に囲まれていることを十分に認識しています。ペリシテ人が劣っているのは、これらの人々が彼の内側で何が起きているかを知っているが、彼は彼らの内側で何が起きているのかを知らないからだ。これは主に恥についてです。ペリシテ人は、他人に馬鹿げていると思われることに耐えられません。今や彼は、これらの人々を迫害し、孤立させ、殴打し、あるいは殺すことさえできる。しかし、これらすべては、彼がそうすることで感じる恥の基本的な問題を解決しません。なぜなら、たとえペリシテ人が自分の選んだ敵の一人を殺したとしても、彼はこの種の元経験者が他にもいること、そして彼が生きている限り、彼ら全員を武力で排除することはできないことを知っているからです。ペリシテ人は、この恥が彼に引き起こすものを破壊する意図で破壊したいと思っています。残念ながら、この苦境から本当にそして決定的に脱出する唯一の選択肢は、ペリシテ人の自殺でしょう。その後、ブルジョアジーが時々自殺すると、彼はそれを利用して大劇を作り、自殺を引かせたり、暴れたりします。他人の人生を生涯地獄にしてきたペリシテ人は、自分の人生がどれほど地獄であったかを全世界に示したいと思っている、なぜなら、静かできれいな出口は彼の

ものではないからだ。

パートLXV

迫害、罰、絶滅の種類は、おそらく人類自体と同じくらい古いものです。ここで生じる興味深い疑問は、なぜ一部の人は、他人を放っておく人々よりも、他人を叱責することにもっと求められていると感じるのかということです。大まかに言えば、警官には2つの非常に異なるバリエーションがあります:一方では、実際に意図されているように法の支配に奉仕する警官と、勤務時間外に自分の生活をどうしたらよいかわからない雄牛です。後者は、私たちが想像できるように、現代の雄牛です。しかし、現代の雄牛は、警察の情熱と、存在に対する欲求不満から権力の乱用を混同しています。良い警官は、銃を片付けて数時間、再び 間人に戻れると幸せです。一方、現代の雄牛は、小道具がないと裸で無力感を感じます。それは勤務中だけ完全に自分自身と一緒にあり、それは勤務中のろくでなしとして、情熱的には警官ではなく、単にそして残念ながら退屈ながらただからです。現代の雄牛は、それほど力がなかったら、ほとんど私たちの同情に値するでしょう。しかし、それが最終的に無力化されたとき、私たちはそれを恥じることなく、それを哀れむことさえできます。

パートLXVI

支配する人々が中途半端に真剣であるが、支配の存在を確保しなければならない人々が深刻であるよりも疑わしい場合、これは永遠に隠すことのできない意見の相違を生み出します。現代の雄牛が50年後に厄介者と見なされるか成功するかは、現在と未来の支配者がそれをどの程度非難するか、または正当化するかにかかっています。問題はすでに明らかで、支配者たちは、現代の雄牛を法の支配の下で当然のことと宣言することができなかったが、彼ら自身を非常にばかげていて信用できないものにしなければいけない。したがって、支配者には 2つの選択肢があります:彼らは、ここで説明されているよ

うに、現代の雄牛はまったく存在しないと言うか、ここで説明されているように、現代の雄牛はまだ国家を完全に認識しておらず、それが本当に存在するなら、それはテストにかけられなければならないと言います。この宣言を注意深く読んでいる人は、おそらく今頃は、現代の雄牛は完全な狂人の想像力の産物ではあり得ないことに気づいているだろう。神の存在を主張する者は、愚かにも自分の存在を証明しなければならない。それを信じない者は、神がないことを証明する必要はありません。したがって、誰かが現代のブルブタタイプの存在を主張する場合、厳密に言えば、彼も彼の存在を証明しなければなりません。さて、この宣言を読んでいる現代の雄牛の豚は、必然的にいくつかの箇所で自分自身を認識するでしょう。しかし、問題は、この自己認識を否定するか、部分的に認めるかである。いずれにせよ、現代の雄牛は決して州に行つて言うことはありません:ここにいる、私はめちゃくちゃにしました、被害を制限するために今何をしますか?職務上の愚か者として、現代の雄牛は常に自分の行動を矮小化し、自分で選んだ敵の行動を計り知れないほど問題化しようとしします。ですから、私たちは、たとえそれが彼にとって0から10であっても、彼の過ちを否定する非常に批判に抵抗する愚か者を扱っているのです。結局のところ、愚か者は自分自身から出て、自分の失敗を外側から見ることはできません。彼は自分の愚かさの中にしっかりと固定されたままで、この不幸な固定に対する脅威として恐れるすべてのものと戦っています。彼は、自分を脅かす者たちが彼を見ていないのに、すでに脅威を感じている。彼は主の前の家であり、自尊心の点では破滅者であり、文字通り爆発する機会を待ち望んでいる時限爆弾です。

パートLXVII

憎悪に満ちた、無礼な屈辱のペリシテ人が理解していないのは、他人を無礼に扱う人々は自分自身にも敬意を持っていないという事実です。彼は、特定の目的のために、または破壊的に他の主題とのみ関係を持つことができます、なぜなら彼は幼い頃から他人を少なくとも彼の利益に対する潜在的な脅威と見なすことを学んできたからです。彼は充実した社交性の文化を知らず、仕事と私生活の儀式だけを知っていますが、それは実際に人々を動かすものとはほとんど関係がないため、環境の根本的な変化が議論の余地がない限り、完

全に社交的になることなく行う方がよいことがよくあります。結局のところ、ペリシテ人は自分が参加している儀式に疑問を抱いていません、そうでなければ、彼はもはやそれらの一部ではない可能性があります。何でも話すのは都会的ですが、もちろん都会のサークルのどこにでもあるわけではありません。方言を話すペリシテ人の変種が、自分を取り巻くすべてのものを当然のことと考えるのと同じように、適切な意味で言うことすべてを当然のことと考えています。ペリシテ人は、自分の愚かなくちばしを成させ、それを恥じることなく、それどころか、自分の精神的な禁欲を誇りに思っているように話します。彼はまさにそのようだ、と彼は疑う人に言います、そして彼がどうであるかは正しいです、結局のところ、彼にはそれを同じように見る友人がいます、なぜなら彼らは彼に似ているからです。ペリシテ人が自分自身を確立した快適ゾーンは、それが正当であると確認することを可能にする方向にのみ残されています。ペリシテ人は心が怖くて臆病で、これらの資質を反対のものとして売り込むために長い間働きます。彼の仲間は彼を信じるのは、彼らがそれを同じように扱い、他の人が冒涇的なフェイントを理解し、したがって、ペリシテ人が敵対的で脅威と認識するものを自分自身にするからです。優れた社会学者がかつて言ったように、人気があるのは、常に他人が自分自身をうまく表現できるようにする人々です。だから、ブルジョアジーに自分自身を特に良い人として見せる機会を与えれば、彼は愚かにも自分自身を信じている彼のおとぎ話を買ってくれて、永遠に感謝する生涯の友人を見つけたことになる。しかし、ペリシテ人は侮れないし、特に賢い同時代の人々は、数秒後に次善の失態に足を踏み入れる運命にあり、それがすぐに天ぷら鍋に成る可能性があります。ペリシテ人は、自分の実存的な寂しさを残酷さと嫉妬だけで満たす方法、つまり彼自身が最も恐れていることを知っています。彼はいたるところ、特に彼に全く無関心な人々の間で敵を感じるため、常に防御的な立場にあります。彼は、この無関心を打破するために、自分自身を脅威として、入念に、そして失敗に終わった方法で演出したいのです。

パートLXVIII

警察のファシストに関しても千の例外があるのと同様に、何にも正当化できない極端な屈辱的な観察に関しても、おそらく千の例外があるでしょう。連邦政府の終焉後にいくつかのことが変わることが望まれるが、特に社会主義黨員からは、決して過度に期待すべきではない。現代の雄牛は存在し、生き、行動します。毎日、毎時間、毎晩。もう少し考えて

みると、それは外交上のリスクも意味します。もし現代の雄牛が公衆に晒されたと想像してみてください。ドイツの政治家が、問題のある国で人権の遵守を要求することは、正しく笑われることなく、二度とできなかった。一方、エド・スノーデンの運命を見れば、権力者の輪には小さな変化が見られる、たとえ彼らがより大きなスケールでそれを台無しにしたとしても。そのような物語の暫定的な終わりには、悪い知らせの持ち主が彼らに対して罰せられるのであり、その創造に大きな責任を負った人々ではないということを何度も読むことができる。持ち主は今、自由世界の非公式の敵と一緒に隠れなければならないが、もしそれが逆だったら、まぶたを打つことなく彼を排除していただろう。ですから、それは非常にばかげており、罰を受けるに値する人々がでたらめから逃れるだけでなく、しばしばはしごを登り続ける理由を見ると、特にばかげます。**NSA**は謝罪もせず、改善を誓わず、二度と恥ずかしい思いをせずにスキャンダルを前進させるために、将来スノーデンのような人々からより身を守るための措置を講じる。間違いを見つけよう!

パートLXIX

もし現代の雄牛が、期にわたる絶滅観察という形で、意図的に匿名性から標的を自殺に追い込もうとしているとしたら、そしてこの作戦方法が非公式にも非公式にも精神医学によって支持されているとすれば、この慣行が知られるようになった後に、その法的に目が黒くなる可能性は必ずしも良いことではない。しかし、現代の雄牛は、何をしたとしても、目一つなく済むことを何度も認識しなければなりません。それは間違いなく変わるはずです。ここでのマニフェストが、現代の雄牛が潜在的な管理当局によってより批判的に観察されることを保証するのに役立つのであれば、それは無駄に書かれたものではありません。しかし、いずれにせよそれは無駄に書かれたのではなく、年の反省と思考の結果として、このように行動する人々に何かを返そうとする試み、つまり一種の贈り物でした。現代の雄牛は、ある時点でそれが何であることを認識されることなしには、すべてを行うことはできないことを理解しなければなりません:それは、単純な互惠の形を超えた互惠の法則があることを理解しなければなりません。もし誰かが、もはや不可能になるという一定のポイントを超えて他人を拷問するなら、ある時点で、誰かが現れて、彼の技術を開

示して彼を拷問し、ギャップもなく、言い訳もなく、矮小化や不適切な矮小化の機会もなく、彼を拷問するのを止めさせるでしょう。だから、現代の雄牛をそれが属する場所でピロリします。理論的には、それは い間略奪されてきましたが、法の支配が最終的にそれを実際に略奪するために追隨するかどうかは、それが全体的にどれだけ良いかの指標になります。なぜなら、もし国家が、重大な問題で神経を逆なでしない人々にのみ基本的権利を認め、時にはそうする人々を自由の剥奪で罰するなら、憲法によって市 に実際に保証しているものを維持し始めることさえないからだ。私たちは、国家が法の支配の語彙で自らの不正行為を定式化することになると、それが国家が主張していることであるかどうかを問うます。

パートLXX

現代の雄牛は、地下室にあるすべての死体を個人的に知っており、残念ながら病気ではあるが、自分自身を正当な殺人者と見なしている。それが作り出した、そしてそれが止められなければ作り続けるであろう死体は、彼らの死が彼らに何が起こったのかを話すことを妨げたので、死体です。彼の個々の作戦の開始時には、常にターゲットの露出があり、それが彼を自殺に駆り立てる可能性があります。このように機能しない場合、雄牛は殺人者として認識されないように、理解可能なレベルを超えて圧力を増やさなければなりません。すでに述べたように、現代の雄牛の饒舌さと尊大さは、いざというときには、私たちが袖に持っている切り札であり、目立たないようにする代わりに、群衆の中での無教養の悪い習慣を自慢する悪い癖を持っているからです。現代の雄牛は警察の一部であり、警察は彼らが何をしているのかを知っているので、現代の雄牛は、それがどれほど間違っているとしても、常に正しいことをします。現代の雄牛が本質的に卑しく愚かな人であることを考えると、それが提供する装置は驚くほど洗練されています。なぜなら、現代の雄牛の共犯者は現代の精神科医の豚であり、私たちが行き詰まらないように、このマニフェストの後に別のマニフェストを捧げなければならないからです。したがって、現代の雄牛が自分自身を俳優と見なしている不正は、システムの不正であり、そうでなければ、現代の雄牛は地下室に死体を積み上げる機会がないからです。現代の雄牛は、悪い精神科医によって悪い雄牛として保護されています。ですから、進行した状態では、善良な雄牛や善良な精神科医、つまり健康な組織にも影響を与えずに、がん性生物全体から潰瘍を切り取ることはできません。癌の広がりはその除去から保護します、そしてそれは癌がさらに広がる

ほどますます困難になります。悪い警官は、悪い精神科医が良い精神科医を持つように、良い警官とネットワーク化されています。現在、システム内には、合理的な手段で把握するのが難しい連帯があります。なぜなら、社会的なつながりは決して論理的な星座だけではないからです。残念ながら、悪い雄牛でさえ、集団精神の推進力が試されるときに疑問がある場合に自分自身を守ることができる優れた資質を持っています。だから、悪い警官は、間違いなく彼がそうであるろくでなしのように目立ちすぎないように、良い警官とうまくやっていくのに十分賢いです。

パートLXXI

現代の雄牛がその目標を社会的に斬首しようとするギロチンは、強制的な軽率さです。雄牛のブタは、他人について話すこと以外に人生で何をすべきかをほとんど知らない人々の日常会話の談話の中で、水の中を魚のように泳ぎます。現代の雄牛の豚は、それ自体がこのグループの一部であり、したがって、そもそも外部から侵入する必要がないため、これを行うことができます。なんて実用的か、と言えるかもしれません。もちろん、雄牛は最初にそのように話し、考える人々によって覆われますが、小さな人々でさえ、ある時点で雄牛が彼らに与えるローストの匂いを驚くほど野心的で反復的な方法で嗅ぐことができる鼻を持っています。腐った雄牛の豚は、ある時点で烙印を押されるようになる場合にのみ、その烙印を押される者を烙印を押されるのではなく、その烙印を押される者全員に烙印を押されるようになる。現代の雄牛は最初から信じられません。国家権力の機関としての彼の信頼性は、悪いアマチュアの光景であり、それは常に新しい最上級を提供することによってのみ補償できる。しかし、ある時点で、ブルブタは強盗のピストルを使い果たし、その後、ターゲットを撃つためにまだどの武器を使用できるかという疑問が生じます。ある時点で、最も単純な人でさえ現代の雄牛の労働慣行に不信感を抱くと、マニフェストは文明の最大の破壊者の無力化への道の良い段階に達しています。新たなスタートの一環として、責任を持って対処する方法を知っている人々に、電力を十分な方法で分配することができます。誰にも力はありません、確かに現代の雄牛と彼の子分には力はありません！

パートLXXII

だから、国家が今、無責任な愚か者たちの手に武器や虫を預けて、彼らがやりたいことを何でもやらせるとき、それは、いたずらっ子が学校でリンゴを切ることができるように、彼女のいたずら息子に果物ナイフを与える 親に匹敵する。しかし、息子はナイフを使ってトラブルを引き起こし、校庭に恐怖と恐怖を広めます。ですから、もし人々が個人的な成熟度という点では対処できないほどの力を与えられたら、彼らがそれに対して悪戯をするだけであることはすでに明らかです。したがって、システムエラーは不適切な思い込みによって引き起こされます。国家は、現代の雄牛を誤って信頼しています。なぜなら、それは正当な警察官の地位を得ることに成功したからです。しかし、その一方で、マニフェストは、無責任な傾向のある人々に責任を委ねることは無責任であることを十分に明確に説明しています。他の人々に対する大きな権力は、十分な人道的資源を持つ人々にのみ与えられるべきであり、そうでなければ混乱と大失敗はほぼ確実だからです。しかし、現代の雄牛がすでに完全に解き放たれ、外で手を出し、やりたいことを何でも許されているとしたら、この制御不能な怪物を再びひもにつないで、心理的な暴力の行き過ぎを防ぐことができるのかという疑問が生じます。もし国家自身が、この不幸を二本足で口笛で吹き返すという考えを思いつかないのであれば、現代の雄牛に対する抵抗は市 社会から形成されなければならない。たとえば、市 が彼との協力を拒否し始めた場合、現代の雄牛は、計画的なスティグマ化を成功裏に促進するために、人口を犠牲者として問題なく道具化することができなくなります。そうすれば、現代の雄牛は、誰かが観察されているのに理由があると主張できなくなってしまいます。この雄牛の策略は、自身の活動の状況から活動の正当性を証明するために、彼のために台無しにされなければならない。なぜなら、現代のブルピッグは、ブルブタが彼らを犯罪的に目立つと考えているという事実によって、人々が犯罪的に目立つと常に言うことができるからです。したがって、雄牛の豚は、最も薄い証拠が利用可能になる前であっても、誰が犯罪者として分類されるかを決定します。これは法の支配ではなく、ファシズムである:もし国家がパズルの必要なピースを欠いているなら、それは単に現代の警官の豚をそのアモック十字軍に送り込むことによって、それ自体がそれらを作り出すだけであり、それは、国家自身が何で構成されているのかよくわからない目標に何らかの形で到達することを期待している。

パートLXXIII

私たちはどうやって、善良な警官と悪い警官、善良な精神科医と悪い精神科医について、あたかも彼らの境界がこれほど明確に定義されているかのように、大胆にも語るようになるのだろうか。そうではありませんが、働く人の傾向が常にあり、それが彼が自分自身をどのように決定するかを決定することができます。何か良いことをしたいと思っている人は、たとえ元首相であっても、彼が安らかに眠っているにもかかわらず、自分が全体的に何をしているのかについて一種のビジョンを持っています。職業を持つ人々は、せいぜい、単にお金を稼ぐ必要性を超えた何かに突き動かされています。警官は常に 間人でもあり、市 、有権者、趣味人などです。 間人として、雄牛は特定の社会化、意識的または無意識的に彼が彼の奉仕中に何をするかに影響を与える特定の私的な知人を持っています。雄牛には責任があり、責任者として特権だけでなく、正確に定義された義務もあります。しかし、ここで問わなければならないのは、絶滅観察を行い、その枠組みの中で最後の汚れよりもターゲットをひどく扱う警官は、どのような義務を果たすのかということです。現代のブルブタは、どのような国家の権利によって、人々を意のままに物体に変え、まるで時間をつぶすかのように、警官がテレビでサッカーの試合を見ているかのように消費する一種の娯楽を提供する、閉じ込められた実験用ネズミに変えているのだろうか?現代の雄牛がそのような活動的な人物として示す軽蔑は、本当にファシストで、非人間的で、サディスティックです。現代の雄牛は、自分が観察されていることを知っている人々を観察すると、非常に意識的に自分自身を彼らの前に神に仕立て上げ、ターゲットに嫌がらせをすることができます。これは、噛む前に捕まえたばかりのネズミで遊ぶ猫とほとんど変わりません。したがって、このように行動する現代の雄牛は、非常に意図的な権力の乱用に従事しており、その後、原因に対して責任を持って適切に行動したとは言い難い。そうではありませんでした。それどころか、現代の雄牛は、制裁を受けるリスクなしに、自分の非常に個人的なフラストレーションとサディズムを生きるために、専門的な特権を利用し、彼がうんちをしたり、けいれんしたり、誰に知られてもいないのに眠っているのを観察された人々のことを指しています。これが国家によって望まれるならば、私たちは証人の前で私たちにこれを確認する政治家を探し始めるべきです。

パートLXXIV

現代の雄牛は、小ブルジョアのペリシテ人の視点からしか理解できません。彼に関係のないすべてのものに最も興味を持っているタイプの人から。小ブルジョアのペリシテ人は、面白くないものにしか興味がないから、自分の人生という悲劇から自分を切り離すために必要な教育を欠いているのだ。小ブルジョアのペリシテ人は、生涯を通じて彼を形作る嫉妬をすでに持って生まれています。彼は、ペリシテ人が理解していない理由で、より良い生活を送っているすべての人とすべての人をうらやましく思います。彼が真実について語るとき、それは通常、小ブルジョアのペリシテ人の運命である大きな虚偽を隠すことを意図した事柄についてである。彼が軌道に乗らないのは、それに必要なすべてのものが不足しているため、悪意のあるスローダウンとして自ら招いた停滞を非難できる人々を探しているからです。ペリシテ人にとっては、彼自身の欠点は彼自身に帰する理由はありませんが、彼の失敗は、彼の妄想が語るように、彼が敵として選んだ人々によって故意にもたらされます。しかし、ほとんどの場合、ペリシテ人の敵はペリシテ人とは何の関係もありません。これは、ペリシテ人によって、そのような無関心な人々に対する彼の怒りを大いに煽る傲慢さとして受け取られ、単に彼に、彼の物事の見方は必要ない、なぜなら誰もがペリシテ人が何かについてどのように感じているかをすでに知っているからだ、というより良い信号を送るのではなく、そのような無関心な人々に対する彼の怒りを煽る。インターネットの出現以来、最も適切な意味での呪いと祝福であり、ペリシテ人が考えていないことをさらによく知っています、なぜなら彼らは理解できないことを定期的にインターネットに書き込んでおり、彼らが世界についての印象的な理解を誇示していると誤って信じているからです。ブルジョアジーは、誰にも気づかれないことを恐れて、ますます声を大きくする攻撃的な犬のようなものです。ついに聞こえるほど大きな声で吠えたと、彼は注目を浴びることを願う。しかし、それでも彼がこの注意を受け取らない場合、彼は力によってこの一見絶望的な不注意から抜け出すために噛むことを余儀なくされます。小ブルジョアのペリシテ人は絶望的なケースであり、彼の人生のすべての表現は平凡な破壊性に終わり、ペリシテ人が他人の自殺を惜しまない場合でも幸運について話すことができます、なぜなら、圧力が押し寄せると、彼はできるだけ多くの人を奈落の底に引きずり込む傾向が

あり、失敗した人生の後に疲れ果てて戻ってきます。

パートLXXV

包囲はおそらく不可能だと、ランボーで言うことができるでしょう。現代の雄牛を物理的に包囲することはできないのは、武器とそうする可能性が不足しているからであり、単に議論的に取り囲むだけであり、いずれにせよ、武力行使の独占が優位に立ち、物理的な問題に関しては最終決定権を持っているため、常にはるかに優れており、より効果的である。しかし、現代の雄牛の精神的暴力は有限であり、現代の雄牛の豚が私たちに対して何をするかについて、私たちはそれをうまく議論することで対抗することができます。私たちは、雄牛が議論だけでは抜け出せない議論の閉じた円を形成します。私たちは、現代の雄牛が彼の友人リストにない人々に何をするかを知っているだけでなく、彼が彼の目標について同僚や他のペリシテ人とどのように話すかも知っています。それにもかかわらず、市は、彼が盲目的に信頼している警察が部分的に何でできているのかを知るべきであり、このように人々について話す人々がどのようにして特別学校の証明書を渡すことができたのか疑問に思うかもしれません。このマニフェストは、無能な警官に対して何かをしたい、彼らを無力化したい、そして、完全な匿名性から、何の良心の呵責もなく、彼らの生活を破壊するあらゆる機会を彼らから奪おうとする衝動に従っている。現代の雄牛はマスクを外して立ち向かわなければなりません、さもなければそれは容赦なく21世紀前半のここ数十年の文明の成果を破壊するでしょう。現代の雄牛が人間に敬意を払っていないなら、それは人間に解き放たれるべきではありません。もし現代の雄牛を罰することができないのは、彼が常に善良な警官を抑制なく奈落の底に引きずり込むからであるが、少なくとも彼の仕事が完全に防げない場合には、少なくとも彼の仕事をできるだけ困難にすることを確かめなければならない。だから、もしドイツ連邦共和国が主主義であるならば、現代のブルブタはそこに居場所がない。時には、すべてが実際には非常に単純なこともあります。

パートLXXVI

20世紀の遺物として、小ブルジョアのペリシテ人は、小ブルジョアのペリシテ人でないすべての人々にとって厄介な存在である、なぜなら、彼は21世紀の具体的な問題に対する答えを提供しないが、前世紀に私たちがやりたかったであろうことを不必要に続けているからである。彼は貢献するものが何もなく、貢献するものが何もないと感じ、ただ口を閉ざす代わりに、事実上彼が提供しなければならないだけのものと同じくらい皆が彼を信頼していないことに腹を立てるようになります。われわれは小ブルジョアのペリシテ人を必要としないので、彼は役に立たないから、余計な活動によって自分を必要不可欠なものにしようとする。これは必然的に恥ずかしさと恥ずかしい思いをする可能性に終わります。なぜなら、もしわれわれが小ブルジョアのペリシテ人を必要としないのに、彼が厄介者として存在し続けるつもりであるならば、彼は自分の存続の必要性を証明する方法を強制的に探さなければならないからである。彼は失敗したので、彼がすることすべてが恥ずかしいです。結局のところ、秩序に対する理解が不足しているために、誰も彼らに命じていない秩序を確立したいと願う、自称秩序の守護者は必要ありません。したがって、21世紀の小ブルジョアペリシテ人は、ピザが全く好きではないためにピザを注文していない人々に特にまずいピザを配達し、悪いピザ職人が存続するためにこのピザを食べなければならないことを彼らに明確にしようとするピザ配達員に匹敵します。小ブルジョアのペリシテ人の形をした現代の雄牛が故意に生活を脅かし、伝記を終わらせるという事実を除けば、それはただの迷惑なブローフライであり、首の痛みです。つまり、現代の雄牛には2つの特性しかなく、どちらも完全に否定的であるため、不必要です。それは破壊し、迷惑をかけることができます。完全に破壊することに成功しなかった場合、それは可能な限り迷惑です。現代の雄牛は銃声を聞いていないため、同じことを何度も繰り返すことで偶然に同じもの以外のものを生み出すことができるという狂った希望の中で、その価値のすべてに容赦なく苛立ち続けます。現代のブルブタは、非常に心を乱されたサイコパスでトラブルメーカーであり、常に彼の行動を正反対のものとして見過ごすのに忙しいです。ですから、この厄介なトラブルメーカーができるだけ早く無力化され、武装解除されることを確実にしなければなりません。

パートLXXVII

なぜなら、彼らがこの状況をこれほどオープンに扱っているという事実だけで、それが標的の権利が考慮されない絶滅観察でなければならないことが明らかになるからです。人を観察することは冗談やいたずらではありません。故意に、故意に人を観察する人々は、深刻な心理的変形を引き起こし、ターゲットに自分自身を明かさずに自殺に向かおうとします。したがって、観察は最大限に臆病で、最大限に下劣です。人々が人々を観察するとき、彼らはすでに述べたように、彼らが物に貶める人々に対して考えられる最大の軽蔑を示すため、それを秘密にしておく多くの理由があります。秘密にされていない観察は、必然的に絶滅観察です。そうでない場合、オブザーバーは、何が漏れてよいか、何が許されないかを選択することになります。絶滅観測は、その名前が示すように、ターゲットに対する可能な限り最大の損害についてのみ行われます。だから、もし誰かが他人を観察したと自慢したり、警官であろうとなかろうと、観察する人を知っていれば、その人はすでに、その観察が絶滅観察であることを明確にしていることになる。他人を辱めることで自分を重要視する人は、これ以上説明する必要のない理由で避けるべきです。私たちは、公の場で公然と語られる観察には、常に何か怪しいものがあるという認識を持たせなければなりません。彼らが公然と語られているという事実は、監視について公に話したい人々がいることをすでに明らかにしています。私たちは、現代の雄牛が法の支配とは関係のない理由で人々を自殺に追い込むほどの屈辱を与えていることを明確にするために、一般の人々を教育する必要があります。現代のブルブタは、気に入らない人を虐待するだけでなく、言葉を乱用して、気に入らない人を中傷し、汚名を着せ、破壊します。現代の雄牛は、その不誠実な目標に向けた作業を強化するためにそれらを使用するため、好きな人でさえ虐待します。もし私たちが無神論者として納得していなければ、現代の雄牛は呪いであり、議論の余地のある解剖虫眼鏡の下では平凡かもしれないと考える誘惑に駆られるかもしれません。

パートLXXVIII

現代の雄牛の豚が考え、話し、行動するレベルは非常に低いため、自分で体験する前に想像することさえできない人もいます。現代の雄牛は、あらゆる点で素晴らしい押し付けです。なぜなら、私たちはそれに耐えるだけでなく、迷惑な罰のペリシテ人を取り除きたいのであれば、自分のレベルをはるかに下回って戦う必要があるからです。私たちがそれをかわそうとすればするほど、それは深く食い込んでいきます。彼は、彼がどれほど私たちを憎んでいるか、私たちが彼の惨めな小ブルジョア世界を見下す無関心をどれほど憎んでいるかを、私たちに示そうと躍起になっている。彼が自分の愚かなおしゃべりで何も達成できなくなった場合、彼に残された唯一の選択肢は肉体的な暴力であり、それは常に彼がある程度習得したすべてです。現代の雄牛は、荒涼とした家父 制のブルジョア世界から来ており、彼は最初からばかげた方法で自分自身を人間として主張しなければなりません。このようにして獲得した男らしさは、生涯を通じて非常に不安定な足で立っており、それは昔ながらのプライドに基づいており、それがほんの少し傷ついただけで、すぐに不釣り合いな暴力の爆発に転倒します。現代の雄牛は、自尊心の低い小ブルジョアのペリシテ人として常に爆発する寸前です。それがこの状態に課す落ち着きは壊れやすく、本物ではないため、優れた観察者は、現代の雄牛と話さなければならないという不運に見舞われたときに、常に爆発の危険を感じます。現代の雄牛が私たちを一人にしてくれるだけなら、私たちは放っておくでしょう。しかし、そうではないからこそ、私たちはそれを一步一步、とりとめのない屠殺場へと導き続けなければならない、そうすれば、それはついに厄介な退廃現象としてバラバラに解体され、もはやその恥ずかしい自己主張の姿勢で誰も困らせることがないようにしなければならない。今日と明日の世界は、この一昨日の男がいなくても非常にうまくやっていける、なぜなら、今日の害虫はすでに十分に迷惑だからだ。自分の存在を正当化できない雄牛は、その存在を正当化することを誰かに強制するべきではありません、なぜなら、誰もが必要であれば、雄牛自体よりもはるかにうまくそれを行うことができるからです。

歴史の本ではほとんど触れられていない人々によって歴史が再び語られるべきであるのと同様に、警察の物語は、彼らの無能さに最も苦しんだ人々によっても語られるべきです。結局のところ、NSUの後も失敗の歴史は決して終わっておらず、まるで警察が文字通り何度も何度も自分たちの無能さを証明できるのを待っていたかのように、絶えず繰り返されているのです。もちろん、これは決して誰の個人的なせいでもなく、後で間違いを明確にする問題である巧妙な理由が常にあります。悪い警官に苦しんだ人々は常に個人的に影響を受けており、自分自身が悪いことをした悪い警官は決して影響を受けません。これは現代性の欠陥であり、個々の失敗がそもそも望ましくないスポットライトを浴びないように、失敗は常に組織に転嫁できるということです。もしアメリカの警官が誰かを膝で拷問して死なせるところを撮影されたら、他に方法がなく、この警官がその代償を払わなければならない、同僚から後悔されることもあるのは確かです。しかし、それは例外であり、警官は誰にも止められることなく、匿名で多くの境界を越えることが許されている。ドイツの警察は、100パーセントの破壊的な意図を持って、標的を絞った絶滅観測を行っている。結局のところ、観察のない中傷も説得力がないでしょう:はい、彼も観察されているので、疑う烏合の衆が満足しているなら、中傷は事実に基づいている必要があります。だから、警官に中傷されている人がなぜ観察されないのか、烏合の衆は問うことができない。したがって、消滅の観察は、ターゲットにこれ以上自己防衛の余地を残さないようにするために埋めなければならないギャップを埋めるように思われます。絶滅を目指してプログラムされた絶望。現代の雄牛がターゲットやその親友に対して何をしても、最初から彼に気づかないわけではなく、結局のところ、ターゲットは自分がお粗末な警官のターゲットであることを証明することさえできないのです。もし私たちが現代のブルブタに対抗するものが何もないとしても、少なくともそれに対して何もない理由を説明することはできるし、悪徳警官の盲目的な行動主義が不正に操作されたゲームにとって何であるかについて、注意深い読者を啓蒙するためには。完璧に締めくくられ、彼の悪名高い現代の精神科医の豚によって成功裏にカバーされたゲーム。一部の警官はろくでなしです、私たちが「いくつか」を書くとき、私たちの判断においてそれほど俟約的で楽観的であり続けることができるかどうか見てみましょう。

パートLXXX

現代の雄牛に対処できないことが徐々に明らかになりつつあるようです、少なくとも実際には、理論的には、この必要なマニフェストを書き始めなければならないずっと前から、すでにポケットにありました。ファシストのペリシテ人はあらゆる点で誇張者であり、苦痛に悶える動物をさらに10回も殴る農 のローファーのように振る舞う。だから、現代の雄牛がやっていることは全体主義だ。それは、その活動の根本的な絶望性に何の感受性もなく、最も残忍な決意で行動します。なぜなら、カントの末端まで雄牛の扱いを考えると、もし皆が基本的に全員を観察していたらどうなるか想像しなければならない、なぜなら、誰もが他の全員を信用せず、観察結果で彼らの不信を強調しようとしたからだ。もしペリシテ人が知識人を犯罪者と見なすなら、それは知識人の問題ではなく、知識人が、他方では、何らかの正当化をもって、文明の規則を誤解するだけでなく、他のペリシテ人から清い人間として自分自身を区別するという執拗な意図を持って、文明の規則を絶えず違反する根本的に変質者であると考えるペリシテ人の問題である。ペリシテ人は、すでに述べたように、フロバエで首が痛い人で、いたずらっ子のように振る舞うが、親が彼の神経を止めるのではなく、さらに大声で話す。私たちは、ペリシテ人とは何の関係も望んでいないと述べるだけでは十分ではありません。私たちは、最終的にペリシテ人を取り除くことができるようにするために、非常に原始的なレベルで何度も何度も自分自身を繰り返さなければなりません。スズメバチの巣を無害にするには、スズメバチを追い払うだけでは不十分です。あなたは、すべてのスズメバチが死にたくなければ、巣を忘れることができることをすべてのスズメバチに明確にする必要があります。

パートLXXXI

現代の雄牛の豚の形をした筋金入りのペリシテ人は、絶滅自体を観察することで彼の目標のために人生を地獄にするだけでなく、彼が憎む人々を絶望的なコミュニケーションの行き止まりに追いやるのが可能になったとして。誰かが観察されると、彼は友人や知人の大部分を失うだけでなく、狂っていると見なされずにこの事実について率直に話すこともできません。原則として、彼は精神医学的な病歴を持っており、遅かれ早かれ絶滅観察は、まだ自殺していない

人を平手打ちに追いやる。したがって、観察されている健康な人は、どちらも間違っています。が、狂っているか精神的に病んでいるふりをしなければなりません。不可能な現代の雄牛は、意図的かつ意識的にそのターゲットを不可能な状況に置きます。ブルブタの有無にかかわらず、メンバーを社会から孤立させ、あらゆる手段で彼らを屈辱的にする狂ったブルジョア一族を、ついに彼らが属する病的な場所の隅に追いやることについて考える時が来ました。愚かな人々は、結局のところ自分はたくさんあり、同意する多くの人が間違っているはずがないという議論で自分自身を擁護するのが好きです。この考え方を反駁するための例を挙げることは不必要である、なぜなら、その狂気は注意深い人々にとって自明であるからである。ドイツの狂気の家を内側から、そして患者として何度か経験したことがある人なら誰でも、知性や風変わりなライフスタイルを通じて、多くの黒い羊がそこに宿舎を構え、絶望的に彼らの一族を圧倒していることを知っています。主流派からある程度逸脱すると、人々は通常、単に狂っていると宣言され、さまざまな理由で、彼らを他に何をすべきかわからないため、精神医学の大きな引き出しに入れられます。現代の精神科医の豚は、ブルジョア一族と接触しており、反対者をどうするかということになると、彼らとの活発な交流を維持しています。精神科医は、しばしばブルジョアのクソ野郎で、世界について何も理解せず、そこに生きる人々について何も理解していません。なぜなら、彼らは、勉強した人だけがいて、それ以上は恐ろしいほど提供できるものがほとんどない世界で繁栄してきたからです。もし精神科医が共感能力を持つ真の人間であるならば、彼は例外としてその法則を証明します。

パートLXXXII

観察されることはフルタイムの仕事です。現代の雄牛が家に閉じこもった楽園は、私たちのプライバシーです。人間の尊厳は神聖なものです。現代の雄牛は、毎日、毎時間、毎分それを証明しています。現代の雄牛は、間違っただけを選んでためにその楽園から追い出されなければならない不条理です。もし我々が、それが望むことをし続けることを許せば、今後数年間で、それが生活を決定する人々の感情を考慮に入れるのをとっくにやめてしまった野蛮な資本主義経済よりも多くの生活を破壊することになるだろう。私たちのデ

デジタル技術により、私たちは少数の人々、つまりおそらくそのモンスター性を理解し、それを行動に永続的に考慮する人々にとってのみ祝福となるべきモンスターを作り出しました。技術の進歩は、新たな野蛮さに命を吹き込みました、なぜなら、それはペリシテ人の夢を実現させたからです:あなたが憎む人々が言い、行うすべてのことを聞くこと。残念ながら、ペリシテ人は、彼が聞いたことから彼の目標の思考をまだ結論づけることができません、なぜなら彼自身が彼が破壊しようとしている目標であることはできないからです。ブルジョアジーにとっては愚かだが、彼に悩まされているすべての人々にとっては良いことだ。ペリシテ人の中傷はおそらく非常に古いものです。しかし、ペリシテ人が自分の中傷と破壊的な親密な観察を組み合わせることができるという事実は比較的新しいものであり、もちろん、ペリシテ人は、私たちが現在知っているように、この可能性を惜しみなく利用しています。しかし、私たちににとって幸いなことに、ペリシテ人は他人に最も害を及ぼすことだけを行う愚か者です。私たちはこれを知っているので、これに適応することができ、したがって、ペリシテ人が彼がしていること、つまり、毎日、毎時間、毎分、外部からの切り下げによる自己強化を行うことによって、非常に正確に想像することができます。ペリシテ人は悲しい生き物です。もしそれが破壊するもののほんの一部しか生み出せなかったら、希望は実際には最後に死ぬのだから、私たちは希望を持つべきだ。この場合はそうではなく、これは絶対に絶望的なものです。

パートLXXXIII

もし全面的な監視の提唱者が自分たちのためのロビーを作り出すことができれば、私たちはついに、人類の終わりまでプライバシーの保護を忘れることができる。筋金入りのペリシテ人が、情熱的な非難者であり、人間を非難する者として、彼の小ブルジョア的憤りを街頭に持ち出し、それを国 の間に広めることに成功したとすれば、彼の勝利である。なぜなら、恐怖の広がりはおそらくすべての国で肥沃な土地に降り注ぐからです。私たちが今知っているように、現代の雄牛は危険な人々から市 を守るだけでなく、警戒と想定される知識の利点から利益を得るために、危険な人々に無害な人々に汚名を着せます。強盗として逮捕され、帰宅途中にガールフレンドと一緒に茂みから飛び出したときに殴られることができる男がいます。これは、現代の雄牛が駆除観察を行うことによって多かれ少なかれ行動する方法です。人工的な脅威が構築されており、それに対して、おそらくは有能で高度に専門的な方法で反応することができます。しかし、ここで要点を押さえると、

もしポーランドがその時にドイツへの攻撃を計画していなかったら、第二次世界大戦は決して勃発しなかっただろう。だから、このクソポーランド人は、良心に7000万人以上の人々を抱えている。残念です!多くのナチスはとっくの昔に老衰で亡くなっていますが、フェイクニュースの時代には、彼らの戦略はかつてないほど人気があります。ただ、もうそう呼ばれていないだけです。アドルフのような地震計は、60年代にすでにドイツのファシズムがいかに死んでいないかを知っていた。現在、公式バージョンは、もはや市場によってファシズムとして覆い隠されることがないほど十分に早く終わっていますが、同時に、ファシズムという用語は、それをファシズムと呼ぶ人々よりもファシストであることが多い人々によって完全にインフレ的な方法で使用されています。

パートLXXXIV

追跡、屈辱、絶滅のペリシテ人にトップクラスの観察技術を装備することは、チンパンジーに機関銃を渡し、それが慎重に扱うことを期待するのと同じくらい合理的です。もし愚か者が観察によって賢い人のすべてを知りたがっているとしたら、これはおそらく、賢い人は常に愚かな人について観察しなくてもすべてを知っているという事実に対抗するための潜在意識の試みでもあるのでしょう。愚かな人は、彼らをより賢くしようとすることによってのみ助けることができます。むしろ、彼らが賢くなるのを支援することによって、彼らがそうする意図を持っているなら、誰かが賢くなりたいと思ったときにのみ賢くなることができ、他の人がそうしたいときではないからです。もし愚かな人々が賢い人々に対して力を持っているなら、すでにここで何度か述べたように、そこから出てくることができるのは愚かなことだけだ。愚かな人は、まるで10人のグループの中で彼のようなカチカチの匂いを嗅ぐことができるかのように、記録的な速さで仲間と同盟を組む生来の傾向があります。群れの形成はとにかくダムの強みですが、賢い人々は、人間関係がいかに複雑で、誤解したり誤解されたりすると物事がどれほど早くうまくいかないかを知っているため、孤立する傾向があります。結局のところ、誤解や誤解されることは事故ではなく、人々がお互いに対処しなければならないときに常に最も起こりやすいことです。愚かな者は、悪魔が聖水を避けるように孤独を避けるが、賢い者はその中で本当に展開するだけだ。愚かな人が一人でいるとき、彼は自分に何か問題があるのではないかと恐れますが、賢い人は孤独を彼の恐れの確認として理解することができます:群れに属することよりも一人でいることで失敗する可能性はほとんどありません。群れの一部としての愚かな人は、賢い孤独な人よりも孤独です、なぜなら彼はまだ群れの中で彼の中心を逃し、彼のように無駄に彼らの幸運を求める人々に囲まれているからです。この点で、愚かな人々は賢い人

々よりも幸せであると一律に主張することも間違っています、なぜなら、本当に愚かな人と場所を交換することをいとわない賢い人を い間探さなければならないからです。

パートLXXXV

もし現代の雄牛が無限の精神的暴力を行使する準備ができているなら、私たちはそれに対する無限の精神的回復力を養わなければなりません。現代の雄牛は、心理的暴力が無期限に行使される可能性があることを理解する必要がありますが、無期限に続くわけではありません。私たちがすでにそれについて知っているすべてによると、現代の雄牛は、同じことを何度も繰り返しても新しい結果につながらないことを理解せずに、それができることを絶え間なく繰り返します。この容量では、進行方向が変わらない限り、壁に数分間繰り返し突っ込むラジコンカーに匹敵します。この比喩にとどまると、現代の雄牛のブタは、コンクリートがいつか崩れることを願って、何時間も何日もおもちゃの車を壁にぶつけます。リバースギアを知らないため、残念ながら多くの愚か者に当てはまります。

パートLXXXVI

コロナ禍は、人間の思考装置が活動するのは、すでに手遅れになってからであることが多いことを非常によく示しています。かつてワクチン接種に反対していた人たちは、集中治療室で自分が表現し、間違った行動をとったことに気づくだけです。これは後悔し、戦うべきことです。現代のブルブタを真剣に受け止めないのは、私たちがそれに対処する必要がないと思い込んでいるからです、なぜなら、高速道路を駆け抜けるとき、事故に巻き込まれると真剣に想定していないので、これは理解できます。この意味で、現代の雄牛に対処しなければならない人は誰でも運が悪かったと言えます。しかし、これはまさに、間違いを効率的に矮小化できるようにするために政治家が正しく取る態度です。したがって、現代のブルブタは、私たちの私生活で少し覗き見するだけですぐに消えてしまうだけでな

く、公に意図されていないことを公にすることで、私たちのプライバシーを完全に破壊していることを認識する必要があります。ファシストの絶滅への執着の中で、現代の雄牛は、私的なものと公的なものを分離することで文明を可能にするすべての境界を越えています。したがって、現代のブルブタが理論上、すべての市を破壊する可能性があり、おそらくこの可能性をますます頻繁に利用しているとすれば、それは私たちが決して知らない理由で、非常に多くの人々がこの権力の乱用の影響を受けます、なぜなら、ブルピッグは直接観察されたターゲットだけでなく、抑制なしに観察するすべての人々に対しても無礼であり、したがって、かなり露出しているからです。もしドイツが依然として比較的安定した基本的権利を持つ国であるならば、現代のブルブタにさらに悪戯の自由を許している国々にとって、これが何を意味するかは容易に想像できる。マニフェストは、たとえすべてが楽しいはずであっても、そのような不快なテキストを読んでも、娯楽小説ではありません。現代の雄牛は暗い未来の幻影ではありませんが、今ここで活動しており、その破壊的な利益のためにそれを無制限に利用しないには、プライベートすぎるものではありません。現代の雄牛は、文明の基準がその思考にまったく固定されていないため、可能になった不可能であり、その相対的な無知のために非常に危険です。

パートLXXXVII

絶滅観察ブルピッグは、生命の安全と安定を与えるすべてのものを攻撃するため、その目標にエスカレートする影響を及ぼします。それが行うことは、言葉の最高の意味での恐怖です。したがって、現代の雄牛は秩序を生み出すのではなく、無秩序を作り出します。それは秩序を保護するのではなく、完全な意図とそれに伴うすべてのものをもって、秩序を破壊する。現代の雄牛は救世主の役割を果たしたいと思っていますが、最終的にそれを救うのは、常に自分自身の臆病なお尻だけです。現代のブルブタは、いわば、迷惑しか達成しないという事実に反抗します。それは、自分自身の愚かさと無能さに対する怒りを、怒りと攻撃性という形でターゲットに伝えますが、ブルブタは当然のことながら、彼に話しかけることさえしないほど軽蔑しています。結局のところ、ナチスと話し合うことは何も

ありません。

LXXXVIIIがあります

現代の雄牛とは対照的に、私たちはマニフェストの目標に対して提唱するすべてのことを正当化することもできます。雄牛には基本的に2つのタイプがあります:文化を持つ雄牛と文化を持たない雄牛です。後者は、警察との彼らの提携がすでに文化であるという間違いに屈します。彼らはすでに、自分たちが公式の地位とそれに伴う権力を持っているという事実を文化の一形態と見なし、組織文化と文化自体を混同していますが、これはもちろんナンセンスです。警官が文化を持つことができるのは、彼がすでにそれを警察に持ち込んでいるときだけだ、なぜなら、警察自身が彼らのメンバーを育てていないからだ、なぜならそれは彼らの仕事ではまったくないからだ。せいぜい、警察は悪い警官を訓練してより良い警官になるだけですが、野蛮人を教養のある人々に変えることは彼らの力ではありません。だから、もし野蛮人が警察官になることができれば、それはおそらく珍しいことではないだろうが、彼らはある程度、警察への所属によって飼いなられ、文明化されているわけではない。それにもかかわらず、彼らは職業生活で自由度を利用して、無教養を生きることができます。もちろん、これはより教養のある同僚が気付かないわけではないので、しばらくすると、どの雄牛をどのタスクに使用するかわかります。市 社会と同様に、自由時間を充実させるために使う警官もいれば、勤務時間外に自分をどうしたらいいのかわからない警官もいます。後者は危険な雄牛です、なぜなら彼らの行動は理性によってではなく、動物のような衝動性によって制御されるからです。教養がない人でも、論理的には警察という職業に特別な洗練さは見られませんので、ある程度ルールを守り、不当なミスで被拘禁者を火傷にさせないと幸せです。結局のところ、無からは何も生まれず、通常の赤字を抱えた小ブルジョアのペリシテ人である警官は、彼の職業において小ブルジョアのペリシテ人と何ら変わらない振る舞いをするでしょう。残念ながら、十分な栽培雄牛がいないため、州はそのような雄牛も必要としています。公務員はまた、人々に対する権力を与えられていない方が良く多くのものが浮かんでいる労働市場から採用されます。もし現代の雄牛が、決して手に入れるべきではなかった力をまだ持っているとしたら、それに対抗できるのは良いマニフェストだけだ。

パートLXXXIX

プチブルジョアのペリシテ人の危険性は、すでにここで何度か示されているように、彼が劣等感と自信のある人の嫉妬のために積極的にコミュニケーションを取り、最終的には自己嫌悪を伴って悲しい世界を激怒し、単に信頼が不足しているために、あらゆるものやすべての人から脅威を感じているという事実に基づいています。この自己不信感により、彼はまた、彼らがまだ自分自身を彼の仲間として正当化していない場合、他の人を信用しません。ペリシテ人の友人は皆ペリシテ人であり、ペリシテ人の世界では、いわゆる友人でさえも依然として競争を脅かすことを意味するため、実際には友人ではありません。

パートXC

マニフェストは、いくつかの主要な論文の一つで、何をしようとしているのか、注意深い読者はおそらくすでに疑っているだろう。絶滅ペリシテ人がそう呼ばれるのは、彼が実際に達成したいのは絶滅であり、このタイプのファシストが絶滅プロセスの目標として望んでいる秩序について語らない限り、絶滅は秩序とはほとんど関係がないからである。もちろん、絶滅ペリシテ人は、彼の原因であるファシズムを公に告白することはできません。それにもかかわらず、ペリシテ人は、彼のペリシテ人の仲間の多くが同じ絶滅の願望を抱いていることを知っています。筋金入りのペリシテ人が望む秩序は、彼を愚か者のように感じさせるすべての人の不在の秩序です。ファシストのペリシテ人は、少なくともそれに対して四分の一にならない限り、もはや誰も彼をペリシテ人と呼べない世界を夢見ている。このタイプのペリシテ人が罰を避けるためだけに行使しない暴力は、たとえペリシテ人が文明化されているように見せるためにあらゆる努力をしたとしても、彼の明るい同時代の人々のオーラには常に明白です。ペリシテ人の世界を望むペリシテ人は、自分自身と自分が望む世界を定義することはできません、なぜなら、彼は自分が何を望んでいるかを決定することができるように、まず自分が誰であるかを知らなければならないからです。しかし、もし彼が自分のばかばかしさを認識することができれば、彼はもはやペリシテ人ではないだろう。だから、理性の才能を持つ人は誰もペリシテ人の世界を望めないし、すべてのマインドシミュレーターの王の一人であるヒトラーは、幸いにも失敗して死んだ。

パートXCI

しかし、ヒトラーの自発的な死刑執行人であり、あらゆる歴史的局面において常に準備ができており、彼がそれを逃れると確信できるとすぐに執行者として行動する準備ができていた罰と抹殺のペリシテ人は死んでいません。この点で、すべての大いなる真理は単純であり、二つのタイプの人々を区別することができます:一方では、許されれば他人を殺すであろう人々と、他方では、たとえ許されていたとしても、殺さない人々です。現代の雄牛は罰せられていると感じていますが、実際には犯罪を解決し、防止するだけであるべきです。しかし、小ブルジョアのペリシテ人として、それは、基本法と実際とそれほど関係のない法律の執行者として自分自身を演出するために、まるで当然のことであるかのように、その地位を誤解し、乱用している。現代の雄牛に力を与えたことは大きな間違いであり、法の支配がいつか再び信頼できる存在になりたいのであれば、期的にはそれを是正することを避けることはできません。問題は、現在の電力までごまかすのに十分な時間があったことです。ひどいコール時代の後には、赤と緑の同盟が生まれたが、それは実際にはこの名前に値しない、なぜならそれは赤でも特に緑でもなかったからであり、その後、さらに信じられないような16年間、連合の支配が疲れ果てて続き、今や筋金入りの新自由主義者によってひどく阻止される恐れのある連合である。現代のブルブタは、迷惑であると同時に信じられないほどのパワーボリュームに達しています。それを取り除くことができるようにするためには、まず、現代の雄牛が存在することを知っていること、そしてそれが責任を問われるまで休むことはないことを、州に明確にしなければなりません。私たちは、憎むべき単細胞生物が、私たちの鼻が気に入らないという理由だけで、私たちの伝記を終わらせることを許されることを望んでいません。小ブルジョアブルジョアジーは、厄介なブローフライとして耐えなければならないが、もし彼が我々の生活を完全に支配しているなら、彼は糞の山がどこにあるのかを示さなければならない、なぜなら、彼はその上でクロバエとしての幸運を求めるべきである。それはいくつかの点で押し付けです:私たちはそれを一生耐えなければならないだけでなく、楽しい話題を扱う代わりに、それに対して頭を悩ませなければなりません。

パートXCII

許されるなら他人を殺す人がいるように、許されれば他人を観察する人もいれば、他人を間違っていると思わずに観察する人もいます。観察は殺人の前兆であり、特に観察者が観察したものを自分自身のために保持せず、観察されたものに害を及ぼすためにそれを使用する場合。不正の第一段階は純粋で慎重な観察であり、第二段階は私的なものを破壊する目的で公にすること、第三段階は中傷的な内容の発明です。絶滅観察ペリシテ人は、したがって、可能な限り最高の心理的暴力でターゲットの生活を破壊するために必要と考える最大限の手段に訴えます。もし私たちがこのように進行する現代の警官をファシストと呼ぶなら、それは少なくとも真実です、なぜなら、すべてのファシストが殺人者であるわけではないからです、一方、絶滅観察のファシストは実際には殺人者でもあります。したがって、われわれは、われわれがファシストと呼ぶ現代の雄牛を、そう呼ぶことによって中傷しているのではなく、ファシスト殺人者と呼ぶのを控えることによって、それを矮小化しているのである。したがって、観察とは卓越した権力の乱用であり、これを信頼できて相対化できる議論はありません。ですから、もし現代の雄牛があなたについて「自分は観察されているだけだ」と言うなら、彼自身がこのように「ただ」観察されることについてどう思うか、彼自身に尋ねなければならないでしょう。現代の雄牛は、小ブルジョアのペリシテ人としては比較的愚かだが、絶滅観察が標的にとって何を意味するのかを半ば理解できるほど愚かではない。ですから、雄牛の豚は多かれ少なかれ自分が何をしているのかを知っていますが、実際には心理的暴力によって誰かを殺している過程にあるときは、比較的無害なことをしているかのように行動します。

パートXCIII

絶滅観察用雄牛は、市 がこの形で存在することを知らないため、市 によってのみ許容されます。彼は警察のファシストを例外と見なしており、したがって、現代の雄牛がとっくの昔に鎖から外されていることを知らない。この状況は、最近公開された巨大彗星が地球に向かって突進する映画と同様に不条理ですが、テキストは彗星に対して役に立たないので、それほど絶望的ではありません。現代の雄牛のコツは、まさにそれが毎日行う信じられないほどのことを明白で正常に見えるようにすることです。しかし、小ブルジョアのペリシテ人として、それは他人に対して行うことに関してのみ穏やかである。手渡すときは氷のように冷たく、ポケットに入れるときはばかげた涙。現代の雄牛の豚は怪物のような嘲笑であり、それ自体は動揺する価値がありません。もちろん、神経衰弱や自殺を追い求めている臆病な単細胞生物に関しては、これは言うのは簡単だ。しかし、もし私たちがそれを感じ、それを怪物のようなばかげたこととして扱うのをやめれば、それはそれが何をするかによって、それが欲しがる意味を得るでしょう。現代の雄牛は、理解できない人や物とつながることを切望しています。私たちは小ブルジョアのペリシテ人を必要としない、なぜなら、彼から学べるものは何もないからだ。それにもかかわらず、彼は私たちを非常に必要としているようです、そうでなければ、彼は私たちの周りでそのようなサーカスを作らないでしょう。明らかに、彼は自分の領土をコントロールしていることを私たちに示したいのですが、実際には彼が最初に脳をコントロールすることを望んでいます。現代の雄牛の姿をした小ブルジョアのペリシテ人は、われわれが彼を真剣に受け止めたり、何らかの形で彼を尊敬したりするという愚かな考えに終わらないように、いかなる状況下でもできるだけ く、大声で笑われなければならない。ナチスは殺すが、だからといって彼らが馬鹿馬鹿しくなくなるわけではない。逆に。

パートXCIV

ペリシテ人が彼の道徳観と見なす小ブルジョアの罰、この憎しみ、自己嫌悪、恐怖の混合は、彼のすべてのものと同様に柔軟である。彼は常に正しい、それは彼が憎む人々を罰するのに適したものです、どんな理由があろうとも、何があろうとも。小ブルジョアのペリ

シテ人の懲罰主義者は、意思決定者になるよう求められていると感じているが、彼はすでに履歴書を通じて、控えめに言っても、お金や権力、あるいはその両方を持つ人々だけを気にするすべての人々のように、決定を下すために生まれてきたわけではないことを印象的に証明している。小ブルジョアのペリシテ人は、まだ辞任しているが、彼はすでに権力者の尻にひざまずいている、なぜなら、彼は自分が生涯を通じて蹴り飛ばした人々によって、彼らの尻でさえ迫害されていると信じているからである。ペリシテ人の思考の根本的な誤りは、彼が敵と呼ぶ人々によっても敵として認識されると仮定していることです。だから、もしペリシテ人が彼が憎む人々にとって全く重要でないのなら、彼は少なくとも彼らの完全な敵として振る舞うことができることを望んでいる。しかし、それでも彼は成功しません、なぜなら、ペリシテ人はいつもそうでないすべての人の神経を逆なでするからです、なぜなら、単に誰も人々が考えていることに興味がなく、考えず、何も言わずにノンストップで話すからです。そして、小ブルジョアのペリシテ人は、誰も彼に興味を示さないことにひどく腹を立て、他のペリシテ人でさえも興味を示さず、彼らは皆、自分の利益を探すのに忙しいのです。ペリシテ人は、連帯のない社会システムの中で生活しており、そこでは誰もがいつでもすべての人を裏切る準備ができています。したがって、ペリシテ人の道徳性は、何よりも彼が道徳性を持っていないが、常に有利な方法で立場を取ろうとすることです。なぜなら、彼が自分の利点と考えるものは、決して人に心の安らぎを与えるものではなく、常により多くのお金やより多くの権力の前兆に過ぎず、お金と権力への貪欲は、もし存在するなら、コーラへの貪欲と同様に無限であり、すべての行がすでにより多くの欲望を暗示しているため、中毒者が再び休むことを許さないからです。彼が貪欲になるのをやめない限り。ペリシテ人は、制約と落ち着きのなさという見当違いの無駄な生活に囚われており、この悲愴さから一生解放する手段を欠いているため、常に自分が正当に抱く人々の憎しみだけが残されます。ペリシテ人は、たとえ憎しみが彼をさらに苦しめるとしても、真の情熱をもってのみ憎むことができる。

パートXCV

現代の雄牛が何でできているかは、どこまで進んで行くかによって簡単にわかります。なぜなら、それは常に個人的に行動し、それがコミットメントを持って行動するからであり、なぜなら、小ブルジョアのペリシテ人は、彼のばかげた環境に反して提起された

すべてのことを、あたかも私たちが彼と対峙することに関心があるかのように、常に個人的に受け止めるからである。しかし、私たちは彼のことを気にしていないので、そうしません。たとえば、誰も彼にこのマニフェストを読むように強制しません。彼がとにかくそれを行うのは、彼の目標に対して何かを汚い手に渡すチャンスを期待しているからです。ペリシテ人は、他人を汚すことで自分を浄化できると信じていますが、彼自身は常に最も汚れています。小ブルジョアのペリシテ人の汚い考えは、彼の行動によって最も明確に明らかにされますが、彼はまだそれを全世界から隠すことができると考えるほど愚かです。現代の雄牛の偏狭さは、このマニフェストの可能性を非常に過小評価しているという事実によって実証されていますが、そのようなテキストを出版する可能性は、私たちの立憲国家の相対的な完全性の明確な指標であると指摘しています。したがって、この国では表現の自由は可能ですが、サディスティックで下品な雄牛に対する法的措置は認められていません。そこで問題となるのは、10年か20年後に現代の雄牛が舞台から姿を消すのか、それとも彼の仕事の実践についてのテキストを出版する権利を私たちが持っているのかということである。信号機連合に続くものは、右か左かの明確な傾向を示さなければならない、なぜなら、政府のすべての人々は今、もはやウィッシーウォッシーが機能しないことを十分に知っているからだ。20代は、間違いなくより環境に優しくなり、最良の場合には、より左翼 主主義的になるだろう、全体の世紀の調整ネジです。デジタル化は、多くの人が愚かになり、おそらくは少数の人が賢くなります。不安定に働き、不安定に生活している人々のさらなる(知的だけでなく)貧困化は、すでにプログラムされている。特権的なエリートは、悲観的に、つまり適切に評価されれば、より貧しくなることなく、より環境に優しくなるだろう。教育や、それを理解し、それに反抗するための他のすべての手段が不足している人々は、それをコントロールする人々によってさらに利用され、遠隔操作されることになるだろうが、多くの場合、明らかに悪意のある計算を示さずに、下降運動はシステムの一部である。システム内の誰も、どのグループも、どの人も、もっぱら善でも悪でもありませんが、システムは、生活の質を目指さず、システムを維持することだけを目的としているという点で悪いです。したがって、このテキストの改革提案は、最初は現代の雄牛を無力化し、文明の没落をさらに加速させないように、その手からそのおもちゃを奪い取るだけです。5歳の子供が近所の猫を刺すために、狩猟用ナイフを手にするのはしません。

パートXCVI

軍隊や警察で特に居心地が良いと感じる人々は、一般的に私たちを懐疑的にするべきです。なぜなら、そのような親近感と密接に結びついた秩序への愛は、しばしばファシズム的な特徴を持っているからです。それは、それを感じる人だけでなく、特にそれを奇妙に感じる人も含めて、疑問を抱くべき秩序への愛です。組織を指す秩序への愛は、それを維持する人々がそれに屈せず、それが目的のための手段であることを理解している場合にのみ正当化されます。私たちは、秩序そのものを愛することを病理化するところまで行くべきではありませんが、この秩序がすでにすべてを意味している人々、つまりその包括的な理由を理解していない人々には、特別な注意を払うべきです。現代の雄牛は、私たちが想像できるように、外部秩序を非常に愛しています、なぜなら彼と一緒に魂と精神は永久に無秩序にあるからです。結局のところ、それは秩序を作り出すのではなく、自分自身を優越しているように様式化し、秩序のような効果を持つはずのこのばかげた感情から無秩序を作り出すために、怪物に成熟した表面的な秩序を乱用するのです。現代のブルブタは混沌とエスカレーションで、悲しいピエロで、彼が泣き始めるのか何かを壊そうとしているのか、はっきりとはわかりません。任務中の小ブルジョアのペリシテ人として、現代の雄牛は、それが何であるか、そして持っているものに決して満足しない。それはより高いものを目指して努力しますが、それはまるで呪いのように絶えずそれに抵抗します、なぜなら、雄牛の豚がそうであり、行動し、考え、そして望むすべてのものは原始的な性質のものであるからです。私たちは、この道化師、道化師の悲喜劇を理解していません。したがって、現代の雄牛の豚は、疑わしい全体的な心理状態にある躁鬱病の道化師であり、国家は権力、武器、バグを装備して、それを取り巻く他のほとんどすべてのものと同じくらい異質な秩序を確保します。現代のブルブタは、ほとんど知らず、ほとんど何もできないが、すべてを欲しがり、自分自身を世界のへそと考えている小さなトランプであり、少なくともセラピーセッションを超えて、この自己評価を決定的に正当化することはできません。さて、もちろん、もしそのようなサイコパスがすでに世界で最も重要な人物だったのなら、どうして小さな雄牛の豚が小さなトランプのように振る舞っていると非難できるだろうか？トランプは防がれるべきだった、ちょうど現代の雄牛が現在のサイズに成すべきではなかったのと同じように。私たちはここで、非常に非現実的と思われずには、どんな作家も発明できない歴史的な不条理を扱っているのです。現代の雄牛の豚は不条理な真空の中で発達しており、手首を平手打ちすることなく何が許されているかにしばしば驚かされます。愚かな人々は、権力であれ、お金であれ、残酷であれ、文明が要求する限界が

ないため、境界を知らない。トランプは歴史的な事故であり、制裁なしに 期的に自分自身を高いレベルに維持するには、愚か者が高すぎたため、修正できるものでした。しかし、現代の雄牛はブルジョアジーの子分であり、攻撃的で噛みつく犬で、汚れ仕事をするヒーローとして振る舞うのが好きです。ブルジョアジーは、平和がある限り、この茶番を信じている。現代の雄牛は通常、取り除く必要があるすべてのものよりも汚れているという事実は、寛大に、そして陽気に見過ごされています。その自己イメージにおいて、現代の雄牛は英雄的なトイレマンに似ていますが、彼が何をしなければならないのかを詳細に見たい人は誰もいません。問題は、私たちが推測できるように、自称トイレヒーローは彼の頭がたわごとでいっぱい、したがって彼の種族を排除するための低い内発的な動機を持っているということです。彼は、理性的な人間が真剣に努力できないファシストのペリシテ秩序のために戦っている。既成のブルジョアジーは、いまだに自己中心的で世間知らずで、自分たちがどのような放火犯を連れてきたのかを本当に理解できない。しかし、現代の雄牛は深刻な問題として永遠に見えないままではできません、そしてマニフェストが少なくとも問題を認識することを可能にする始まりにすぎないならば、その執筆はすでに価値があります。

パートXCVII

さて、われわれは、小ブルジョア支配のペリシテ人がいかに悲しい道化師であるかを、ほとんど徹底的に取り上げ、あらゆる側面から明らかにした。ですから、私たちの生活に永続的に存在することの利点について考える時が来ました。もしペリシテ人が存在しなかったら、私たちは全く異なる目標を持つ全く異なる人々になっていたでしょう。結局のところ、ペリシテ人の勝利は、彼が彼のすべてのエネルギーを使って私たちの生活をできるだ

け困難にすることです。それは私たちのエネルギーを奪い、かなりの数の人々をいじめて特定の死に導くことに成功しています。しかし、私たちはペリシテ人に耐えることを学びました、なぜなら、彼の種類のものが多すぎて、期的に彼にうまく別れを告げることができないからです。この迷惑なブローライの絶え間ない存在は、たとえ偶然であっても、このリーグのバカが彼の哀れな波で立ち往生しないようにするために、私たちが自分自身に取り組みなければならないことを常に私たちに思い出させます。現代の雄牛は、安定した自己イメージを作り出す知性を持っていないため、決してそれ自体と同一ではありません。仕事では常に私的なペリシテ人であり、私生活では警官のペリシテ人です。現代のブルブタは、直接地獄から逃れることができたロールモデルに基づいています。しかし、すでに確立したように、それは悪魔になるために必要なものを持っておらず、他の完全な愚か者の恒久的な自己肯定感なしには全く生き残れない原始的な群れの動物である。現代の雄牛は、以前は社会的に受け入れられていた人々を恐ろしい成功を収めて不機嫌な一匹狼に変えますが、愚か者は沈黙と孤独に対する生来の恐怖を持っているため、それがそれに対して行われた場合、それが何をしているのかに対処することができません。小ブルジョアのペリシテ人は、年にわたって考え、話し、行動することによって自分自身が操作してきた絶望に直面することだけを恐れています。彼が本格的なバカとして行うすべてのことは、この誤った方向性の認識によって微妙に影が薄くなり、もし彼を1年間監禁し、他のバカとの接触を通じて彼の低いレベルにとどまる機会を奪ったら、私たちは自分自身について考えることを余儀なくされたであろう全く異なる人物を作り出したでしょう。したがって、ペリシテ人は再社会化され、彼から文明の本格的なメンバーを作ることができる。しかし、それを実現するためには、まず彼を彼の壊れた愚かな世界から連れ出し、彼自身に立ち向かわせる必要があります。しかし、これには私たちにどのような利点がありますか？ペリシテ人について考えることによって、彼の無意味な存在を分析することによって、私たちは権力がどのように機能するのか、資本主義に翻弄される人間が無駄に逆らおうとする力は何か、一般的に、そして世界中の暴力が、人々自身が多かれ少なかれ意図的に築き上げた人間不信の構造とどのように結びついているのかを理解することを学びます。誰も生きてここから出られません。しかし、だからといって、私たちが自分の存在を合理的に形作ろうとするかどうかは重要であるという事実は変わりません。ペリシテ人は表面とファサードのファンです、なぜなら彼にとって彼が見、征服し、所有するものだけ、またはそれが彼の理解に反するならば、損傷し破壊することができるからです。したがって、個々のペリシテ人の誤った方向性を非難するのは間違っているでしょう、なぜなら、彼の行動や考えることはすべて理解の欠如に起因する可能性があるからです。ペリシテ人の悪意は、悪魔の力の結果ではなく、世界に対する普遍的な過度の負担の平凡な結果です。人々は、どんな犠牲を払ってもサポートを求めています。ペリシテ人は、自分に提供されるすべてのものに直接支援を求め、非ブルジョア人は、この行動が決して心の安らぎにつながることはないことを知っています。また、非ペリシテ人を幸せな人と考え

るべきではありませんが、原型的なペリシテ人と比べると、彼は可能性に満ちた生活を送っていますが、ペリシテ人は可能性を認識していないため、俗的な生活に疲れ果てなければなりません。では、ペリシテ人がいない方が幸せなののでしょうか?はい、確かに少しはありますが、もしペリシテ人がいなかったら、私たちは人間についてあまり知らず、何を犠牲にしても避けなければならないことについて知らなかったでしょう。ペリシテ人は、人間の人生がいかに致命的にうまくいかないかを教えることで、それがどのように成功するかを示しています。ペリシテ人は、もし彼がまだ私たちを完全に破壊していなければ、私たちを新鮮で目覚めさせ、したがって、私たちがこの世界で自分自身を快適にするのを妨げます。しかし、これらすべてが、21世紀に私的な領域にチャンスを与えるためには、現代の雄牛が無力化され、武装解除され、デバッグされなければならないという事実を変えるものではありません。

パートXCVIII

疎外された人々は常に、すべてのことに対して自分自身を正当化しなければならず、ペリシテ人は無駄に正当化しなければならない。この多言語を話す難 は、旅の途中で何度かろうじて死を免れたかもしれないが、ブルジョアジーからは、自分が本当は誰なのか、何ができるのか、ここで何を望んでいるのかという問いに直面している。老舗のペリシテ人は、ある程度うまくやっていくために、そこの通訳に相談しなければ、他の連邦州に送ることはほとんどできなかった。同じ論理で、現代の雄牛は、あらゆることに対してすべての人に正当化を要求しますが、要求された場合、自分自身を正当化することはできませんでした。ペリシテ人は、自分自身について、そして自分が何をしているのかを考えれば、まったくペリシテ人になれないので、自分を正当化することはできません。ペリシテ人の伝記は思考の欠如の結果であり、ペリシテ人の思考の最初の誤りでさえ、彼がこれまでに行ったことはすべて深刻な反省の欠如によるものであるため、人々は自分自身を何も

正当化できない誰かに自分自身を正当化しなければならないということです。最も低いカスは、おそらくすでにドイツ人であり、男性であることを誇りに思っており、まるでこれらの二次的な資質に何か個人的な貢献をしたかのように思っています。したがって、現代の雄牛の出発点は、この不吉な権利が天国のためにどこから来るのかを正当化することができずに、正しい立場にあることです。ペリシテ人は、自分が正しいと感じているのは、彼らが実際には非常に脆弱な独善性に動揺しないように、すべてにおいて彼に同意するペリシテ人に囲まれているからです。ペリシテ人は正しいから正しいのであり、彼が正しいからこそ、彼は常に正しいのです。彼は、そうでなければ疲れ果てる可能性のあるすべてのことで自分自身のために簡単にし、常に彼が特に困難な時間を持っていることを他の人に知っています、なぜなら、彼自身の勤勉さと彼自身の勤勉さの表示は、すでにペリシテ人によって誠実さの証拠と見なされている、勤勉さだけでは全く意味がないにもかかわらず、結局のところ、33歳から45歳までのドイツ人も特に勤勉だったので、ただ、期的な成功を彼らに負担させるような方法ではなかったのです。どう考えても、ペリシテ人の愚かさが理解できないので、税金を払い、無傷の生活のうわべを維持できる限り、国家がペリシテ人がやりたいことを何でもやらせているのは、いっそう驚くべきことだ。

パートXCIX

気質の面では、原始主義者はファシストですが、このタイプのすべてのファシストが罰ファシストとしても活動するわけではありません。この点で、ペリシテ人は、彼の恥ずかしさの良し悪しに応じて、行動を起こす準備ができている眠っている人とも言えます。絶滅観察に關与しているペリシテ人は、あらゆる手段とどんな犠牲を払っても彼のターゲットを破壊しようとすることによって、彼の破壊する意志を完全に明らかにします。破壊する意志は、いわば、ファシスト・ペリシテ人の秩序への意志にすでに組み込まれている。ファシストの秩序への強制は、すでにこの強制と両立しないと思われるすべてのものに対する憎悪を含んでいます。誇張された外部秩序への衝動は、ペリシテ人の基本的な心の状態である致命的な障害から生じます。結局のところ、ファシストのペリシテ人は人間にならなく、人間であることは彼を圧倒しますが、物や物、道具や機械です。それは雪崩や滝のようになりたいと思っていますが、細流の可能性しか備えていません。彼の気弱さで、ペリシテ人は価値あるものすべてを誤って判断し、したがって些細なことを最も重要視します。そして、もし彼がこの弱さのために行儀

の良い人々から嘲笑されるなら、それは彼の限界を知ることができずに、優れた人に彼の限界を示すという彼の野心に拍車をかけます。物や人をコントロールすることは、ファシストのペリシテ人の信条であり、なぜなら彼は自分の内面をコントロールすることに成功していないし、それを抑制することさえ成功していないからだ。したがって、ペリシテ人は時限爆弾であり、幸いなことに爆発することはめったにありません。しかし、それが発火した場合、彼は彼と一緒にいるすべての人とすべてを奈落の底に引きずり込みたいと思い、とにかく彼は一生懸命努力します。この点で、ペリシテ人が破壊の可能性を最大限に発揮するのを可能な限り防ぐことが国家の任務であるとも言えます。テロの真の可能性は、一見正常で順応的な人々の中に眠っており、国家がまさにこれらの理由でテロ容疑者と呼ぶ人々には、むしろ稀である。国家は、小ブルジョアのペリシテ人に大きく依存している、なぜなら、国家自体が、実際には眠っている者として、より重要なことをしている人々にとって重要でないすべてのことを世話することによって、全体的な秩序創造機能を果たしているからである。小ブルジョアのペリシテ人は、ある程度までは組織の名誉管理人であり、そのため、雇われた用務員には思いつかないような仕事を引き受けるのが好きだ。ペリシテ人は、他人を効果的に困らせることができるように死体を越える首の信じられないほどの痛みですが、私たちは彼に一つのことを与える必要があります:彼は事実上、他人には時間の無駄のように思えるであろう彼の人生のすべてを行い、したがって、この疑わしい機器ではユニークですが、否定的な兆候があります。

パートC

私たちは今、現代の雄牛とファシストのペリシテ人としてのその機能の概要を取得し、その日を祝いたい、パート100は、やや大きな弧で、到達しました。一方には、小ブルジョア警官ペリシテ人、もう一方には小ブルジョアブルジョアブルジョアペリシテ人がいる。どちらも非常によく考え、行動し、感じており、いわばあらゆる点で一つの世界に居心地が良いのです。勤勉さと秩序は、それがどれほど無意味であろうと、詳細にどんなばかげた目標であろうと、主要な美德として称賛されます。悪い警官は、彼のように、より幸運な人々が笑顔で無視するす

すべてのことについて話すことに主に関心を持っている生き物と常に接触しています。彼らは、全体像を把握するために作られていないため、あらゆる小さなことに一生懸命ドリルします。この好ましくない共生関係が、鋭利な武器は言うまでもなく、巨大な権力と最新の技術装備を持つ人々と無関係であったとしても、これらすべては悲劇的なことではありません。これらのスーパーヒーローの手には、それが何を意味するのかを少しも気づいていないにもかかわらず、信じられないほどの屈辱の可能性があります。カフカの裁判ではまだフィクションであったことが、このように真実になりました:これらの非合理の英雄に同情しないという不幸を持つ人のための実存的な規模の訪問。原子爆弾が発明されるやいなや、すでに実験が進められていました。それは、絶滅の包括的な観察と何ら変わりはありません。ボタンを押すだけで、いわば、この勤務中の完全な愚か者の集合体は、どんな人間の伝記も終わらせることができるのだが、それはところで、スノーデンのエドの本で既に説明されているが、それほど詳細には紹介されていない。したがって、多くの人々の生活は半類人猿の手に委ねられており、彼らは本質的にあまり知らない屈辱的な観察で時間を過ごします。生きている人々への過度の関心は、それ自体が小ブルジョア的であるが、たとえ小ブルジョアという概念が以前に存在していなかったとしても、それがすでに起こったときには、それは小ブルジョア的である。小ブルジョアジーは、残りの人生で激しさを欠いているため、大きな情熱で愛し憎む。公人や彼が同意なしにそう仕立て上げた人々は、ばかばかしいほど感傷的に尊敬されているか、完全に誇張され、最後の毛穴まで憎まれているかのどちらかです。ペリシテ人がハリウッドに憧れるのは、メディアで知っていることに比べて、自分の人生が無意味に思えるからだ。人生は最高の大ヒット作よりも面白いことができるという事実は、あなたがペリシテで無駄に探している認識です。ペリシテ人は自分の人生で何も作ることができないので、彼は自分の人生を匿名で愛したり憎んだりできる人々に縛ります。彼は友人や知人ではない人々との関係を確立し、それによって彼がこの練習なしでは達成できなかった強度を生み出します。精神医学の観点からは、これは人間関係の妄想であり、日常生活で何の関係もない人々を病的に参照する人々は、精神病患者として分類されるべきです。彼らがグループとして行動する場合、彼らは自分自身を正常で健康であり、彼らがしていることを正当で適切であると考えているため、気づくことができないグループ精神病によって団結しています。しかし、プチブルジョアジー全体を巨大な精神病棟に閉じ込めることはできないし、ましてや治すことはできない、なぜなら、彼らは奇跡的に常にその生活様式の合法性を確信しているからだ。もちろん、多くの小ブルジョアのペリシテ人も、自分たちが心の平安からどれほど遠いかを感じているため、クローゼットに閉じこもってしまう。しかし、少なくとも同じくらいの頻度で、そこで小ブルジョア暴徒にいじめられてきた人々は、クローゼットに閉じ込められる可能性が高く、私たちはこれまで彼らのいじめの可能性を合理的に徹底的に示そうと試みてきました。ここで働いているメカニズム自体は、大多数の精神科医がこれを理解せずに、非常に人間不信で病的であると説明することができます、なぜなら、常に健康であると考えられている人々は、明らかに自分の生活をコントロールしている人々であり、特に彼らが部外者に彼らの成功を示唆する自由に使える財源を持っている場合です。かなりの数の精神科医自身が、無防備な人々に解き放たれる前に、精神医学的評価を受け

なければならないだろうが、それはもちろん、強力で武装した現代の雄牛にも当てはまる。権力の配分が不十分なため、権力者は自分たちの意思決定力を正当化することなく、このゲームで誰が悪いと見なされるかを決定することができます。これらの相互関係は複雑であり、革命を避けたいと思い、代わりに組織の改革可能性と対応する主要人物の資格の最適化を信じるなら、複雑なもののすべてを単純に解決することはできません。可能性を秘めた伝記は非常に不注意に浪費され、医師は問題を抱えた人を見ますが、彼が通常社会学者や社会心理学者ではないため、それらが生じた社会的文脈は見ません。しかし、精神医学が社会的文脈を無視し、哀れな豚を技術的に密輸し、その結果、彼らがより良くなることなく、何度も何度もそこにたどり着く限り、私たちは全体について違った考え方をしなければならない。歯車は、鈍く回り続けることに満足している孤立した歯車以上のものになりたいのであれば、どのような時計が刻まれているのかを理解しなければなりません。

パートCI

もし私たちが今知っているように、小ブルジョアのペリシテ人が、真剣に受け止められるためなら何でもする馬鹿げた悲しい恐怖の道化師であるが、彼の言動のすべてを通じてますます滑稽になるだけだとしたら、誰も彼の言葉で彼が何であることを説明できない

という問題があります。彼のレベルで行動する人々は、彼らが知らないので彼に話すことができず、知っている人々は彼が理解しないだろうから彼に教えることができません。愚かな人々は、他人がどれほど愚かでないか想像できないだけでなく、いや、賢い人々でさえ、最も愚かな愚か者が本当にどれほど愚かであるかをある程度理解するまで、時には何十年も自分の人生を必要とすることがあります。最も愚かな愚か者が本当はどれほど愚かであるかを知らずに、愚かな者の手によって一生苦しんでいる、あるいは苦しんできた賢い人々さえいます。マニフェストは、愚かさに関しては下向きの制限がないという事実について読者を常に啓蒙したいと考えており、そのため、一部の人々は彼らが話すことができることに当然驚くでしょう。コミュニケーション能力は、すべての場合において祝福ではありません。何も理解せずに、何でも話して、ほとんど何でも害を及ぼすタイプの人があります。まあ、愚かな人々が自発的にインターネット上に自分の考えないことを書いているので、インターネット時代以前には評価するのがそれほど簡単ではなかった、愚かさがどこまで進んだかについて、私たちはより良い感覚を持っています。それについて少しばかりけているのは、デジタル化自体が愚かさを生み出し、それがデジタル手段によって大部分明らかになるということです。したがって、愚か者が今、すべてについて公に自分自身を表現できるという事実は、啓蒙を生み出すのではなく、その逆で、インターネット上でさえ愚か者は自分たちの間にとどまり、アナログ生活と変わらない、Twitterの教授は通常、RTLの警笛と議論しないため、2つを結びつけるトピックは単にないからです。今や誰もが潜在的にすべての人とつながっていますが、環境はこれまで以上に彼らの間で残っています。取り戻せる世界の知識は日々新記録を更新していますが、フェイクニュースや偽情報の力は絶えず増大しているため、知識の量は何かについて知っている人に反比例していると考えることがあります。これらの仮定はどのような予測を示唆していますか?いずれにせよ、ホラーピエロは自分でステージを離れることはなく、認識のために無駄に戦います。だから、私たちは彼を笑う。

ペリシテの小ブルジョア罰は彼の生涯を大切にしない、
彼が破壊的な占領に多くの時間を費やすことをいとわないという事実によって容易に見ることができます
他の人と。私たちは、
ブルジョアのペリシテ人だけでなく、実際には客観的に見ても優れた人々です。
理由もなく他人のプライバシーを侵害しない
だろう。罰のペリシテ人は、まぶたを打つことなくこれを行うだけでなく、
彼は自分の人生を軽蔑していますが、それは彼が人生全体を軽蔑しているからです。
彼の想定される敵のそれはなおさらです。小ブルジョアジーにとって重要な分野は、
彼が熱心に研究している他人のセクシュアリティは、まるで
賞。彼の興味を通じて、あらゆる場所に生きる人々のセクシュアリティに興味を持つ
この点で、ペリシテ人は彼の優先事項が何であることを証明しています。ザ
生まれつきセクシュアリティとの関係が乱れているシュピーサーは、次のことに着手します。
人々を錯乱状態としてさらけ出し、彼はサディスティックに屈辱を与える。私たちはできます
ペリシテ人のセクシュアリティにどれだけのサディスティックな部分があるかは容易に想像できます
一方、彼は愚かであると同時に、他人の欠点を探します。私たちは
逆に、小ブルジョアのセクシュアリティを探求すると、その結果は
恐怖の、あらゆる点で衝撃的、ひどく下品で完璧
侵襲。しかし、私たちは人生でもっと良いことをしているからそうするものではありません。やらなきゃいけません
スーパーマーケットやあなたが話すことができる他のどこでもそれ
私たちの親密な生活が、そのようなことを行う人々は明らかにであることを知っています
非常に悲しい範囲のトピックがあり、そうでなければ彼らが対処する必要のないもの
このステータスはありません。私たちは人々の中にいることに慣れてしまっています
彼らのようになるのを避けるために、できる限りのことをしなければならないことを常に思い出させてくれる人生。
成る。これは、お好みで言えば、うまく機能している懲戒処分です。
観察されている人は、彼に忠実なふりをする人々に囲まれています。しかし、
友人と呼ぶ人を観察させる友人は、友人ではないだけではありません。
友達ですが、巨大なろくでなし、臆病者で嘘つき、詐欺師、そして
観察されたものを直接観察する人々よりも優れているとは言い難い。現代の
ブルブタは恐怖と共働き、観察するとすぐに恐怖が生じます
注意を引くのは不快で、観察された人は他の動物から病気の動物のように避けられ、孤立

して取り残され、自分自身と彼に無関心です
宿命。無傷の生命で、現代の雄牛の豚はそうします
また、観察された人の人類に対する一般的な信頼を故意に破壊します。
しばらくすると、観察されている人は誰も信用する理由がなくなります。
彼は愚かだったので、大勢の人にライトの後ろに導かれた後でも、彼はそれをするでしょう。
観察下にある人は、自分が人に期待できないことを知っています。
したがって、はそれに応じて動作します。いずれにせよ、彼はこの基本的な態度に失望しています
もうあまり頻繁ではありません。

CIIIの

絶滅観察は、すでにここで述べたように、罰則制度である。ザ
刑務所の受刑者は有罪判決を受けており、彼が投獄された理由を知っています。ザ
不運にも絶滅観察の対象になるという不運な人は、多くのことをよく知っています
何年もの間、彼は自分が見えない檻に閉じ込められていることをまったく知りませんでした。自己
彼らが中世に見える檻の中で群衆の前で展示したもの。
少なくとも彼は自分に何が起きているのかを知っていたので、より公平に扱われました。ゴール
絶滅観察は、その事実について明らかにされたことはありません。
罰が実行されます。それは、その基本的権利を、それについて知らされることなく奪われてきた。
知らせる。彼の人生と、街頭で彼について考え、語られるすべてのこと、
下品な雄牛の手中にあり、どんな激しさでも瓦礫に対抗する
ターゲットを扇動することができますが、それに対して何もすることはできません。それ
現代の雄牛がその手に持っている破壊的な可能性は全体的です。
ですから、私たちが注意を怠り、自分自身を守らなければ、21世紀になっても
愚かな者は、賢いものを完全に手中に収めている。違いは、
愚かな者は、不公平な手段を使わなければ賢い者を弱体化させることができない
仕える。賢い人は、愚か者が基本的にどれほどひどい立場にあるかをすでに知っています。
なぜなら、彼らは自分の脳を制御することさえ成功していないからです。ザ
違いは、愚かな人は賢いものを終わらせなければならないということです
賢い人は、彼らの愚かさを持つ愚か者がすでにいることを知っている
十分に罰せられます。賢明な人々が支配するとき、彼らはそれを知っている場合にのみそうします。
彼ら以外の誰もこれ以上うまくやることはできません。愚かな人々が支配するとき、彼らはそれを

楽しむため、そして誰も彼らがそうするのを防げないからそうします。支配するのが好きな人でも
もっとうまくやれる人はたくさんいますが、まったく勝てないはず。良い支配者
彼らの良いルールについて、まだ最大の疑問を抱いています。悪い支配者は
ナルシスト的に支配の役割の、そしてそれが非常に満足のいくものであると感じています。1
他人の上に立つことに充実感を見出す雄牛は、悪い雄牛です。ザ
良い警官は、彼が時々の名の下に立場を取ることを余儀なくされていることを率直に後悔しています。
違法な行動をとった人々を国家化します。現代の
しかし、ブルブタは、自己拡大がすでに彼の究極です。彼はうまくいっていない
国家秩序についてですが、ファシストの専制政治についてです。それはそれを感知するからです
実際には何もない、それはこれ以上のものを達成するために執拗に努力しています
何もないので、さらに無効になります。

文明

農村の小ブルジョアジーに対しては特に注意が必要です。大きいながら
都市、小ブルジョアの無意味さ、ペリシテ人の多かれ少なかれコンセンサス
、老舗の田舎の小ブルジョアは、しばしば次のような電力負荷を蓄積することができます
尊厳は彼の道徳的体質に近づいていません。アーバン
小ブルジョアジーは既成のブルジョアジーから敬遠され、田舎の小ブルジョアジーは忌避される
彼とオープンイヤーに会う可能性ははるかに高いです。ここでは、次のものも役割を果たします。
地域の方言は無関係な役割を果たしています。検察官まで方言を知っていれば
自称村の保安官が話すと、同盟関係が浮かび上がることがあります。
驚くよりも吐かせること。彼らは同じ意見を持っているので、同じ意見です
パーティーは、同じ言語を話し、どのようにするかについて同様の考えを持っています
物事は一般的に実行されるべきです。田舎出身の小ブルジョアペリシテ人は、
すぐにそれらなしでより良いのお尻の足首まで
告知。潤滑剤として、彼は時々前述のものを使用します
類似点。穏やかな都市市 はブルジョアジーに与えませんが、
彼の直腸にだます機会、田舎の市 は感じます
時々、哀れな愚か者の信頼性に媚びへつらい、そしてそれによって彼に明らかにする
都会の小ブルジョアが夢見ることさえ敢えてしない可能性。それ
農村の小ブルジョアジーは、CDUが

ダイヤル。農村部では、評判の良い社会学者によって承認された法律が施行されています。
全国的な恐怖を見るときに、より詳細に調査しない方が良いでしょう
避けたい。いわば、決定が下された老舗の野蛮人がいます
生と死、誰もこれらの構造を疑う必要はありません
描かれるでしょう。この狂気の中で育つ若者がいるかもしれません
学校を卒業した後、彼らが距離を離れるのを見ることを余儀なくされています
もし彼ら自身がこの狂気の一部になりたくないのであれば。田舎の
領土は、控えめに言っても、主要な人物によって非常に大きく支配されています。
憲法の地面に両足を置かないでください。これへの関心
現状維持をしている人はほとんどいません、なぜなら、それが気に入らなければ出て行けばいいと言うからです。だから
残念ながら、しかし、領土の力の下では、それは容易ではありません
老舗の野蛮人のうち、想像以上に多くの人々が苦しんでいます。以来
小ブルジョアのペリシテ人は、外国のあらゆるものに対する日常的な残酷さを除けば、そうではない
提供できるものがたくさんありますが、彼はまた、この残酷さを積極的に利用しています。

CV

絶滅観察は、最大限の心理的暴力を通じて目標を達成することを目的としています。
物理的。観察初日から始まっている殺人未遂事件です
そして、観測が終了するまで終了しません。の自殺は珍しくありません。
ターゲットは、オブザベーションの終了点をマークします。次のように仮定できます。
誹謗中傷と汚名を着せるための多大な努力
先んじる。現代の雄牛は、絶滅観察を組織しています。
静かに人を追い払いたい人々から依頼されました。以来
悪い警官はすぐに観察に夢中になり、特に彼が知的な上でそれを行うと
目標、観察は、各観察日が
さらなる観察の必要性の正当化。アクティブな人
殺人者ではないにせよ
有罪判決を受けました。ある意味で他の人に影響を与える人々
したがって、彼らの自殺を引き起こすとされている人は、客観的に殺人者です。
宣言された目標は、髪の毛を傷つけるかどうかに関係なく、誰かを殺すことです。絶

滅観察の目標は、意図的に

例外的な心理的状況、それはの最初の段階で

精神医学的な滞在は避けられません。ターゲットがすべてのストレスに圧倒されている場合

他の人は明らかに危険です、これは現代のブルブタで大丈夫です、

それは、記録可能な事実をこのように作成できることを望んでいるからです

そして、雄牛の手札に遊び、それが持っていると言わせます

この人の観察は、良い鼻を持っていることを証明しました。原則として、

最初は穏やかな雄牛が攻撃性に変わる闘牛

これにより、その戦いと殺害が不条理でも不条理でも少なくなります

.だから、現代の雄牛はここでエスカレートし、さらには行動します

それはこのようにストレスの下に置かれた目標を除外することは決してできないため、過失

他の人に身体的危害を加える。しかし、現代の

ブルホッグ、彼の焦点はターゲットの破壊にあるので、

これは、巻き添え被害が受け入れられるほど強く優先されます。それ

したがって、絶滅観察牛豚は、それが正確である限り、殺人者です

積極的に自殺を誘発することにより、誰かを死に至らしめることに従事しています。

ドライブ。それが殺人者のように罰せられるかどうかは、未来が示さなければならないでしょう。

パートCVI

数年後、観察下にある人は、一般的に人々にどれだけ期待できないかを正確に知っています。彼らのほとんどは、どんなに小さなことでも、そうでなければ不利益に脅かされているなら、望む人を裏切ることをいとわない。現代の警官の豚は、議論を通じて自分の目標を把握する知性に欠ける、衰弱した心理的テロリストです。それは不公平に、匿名で、絶対に圧倒され、個人的なリスクを冒す意欲なしに行動します。それは、勤務中の臆病者であり、主人の前で卑劣なろくでなしであり、他の愚かな人々の支援なしにつまずかずに3歩歩くことができなかった典型的なナチスです。恐ろしいほどのばかばかしさが、なぜ、そして何の権利をもって決定的に説明できる人もいない、恐ろしい屈辱の力を手に入れたのです。愚か者たちの経済は、ちょうど加速したばかりのようで、絶対的な気候崩壊の前に、誰かがそれを止められると示唆するものはほとんどない。最善の解決策は、賢い人と愚かな人を地理的に分離し、愚かな人がついにその卑しさによって賢い人の創造性を遅らせたり、完全に不可能にしたりしないようにすることです。愚かな人は、賢い人の生活を困難にするためだけにこの世にいると考えることがよくあります。なぜなら、たとえ他に

何もできなくても、ほとんど魔法のような方法でそれを行う方法を知っているからです。彼らの実存的な障害により、愚かな人は彼らが妨げることができるすべてのものを妨げます、なぜなら彼らは誰もが彼らと同じくらい障害者ではないという事実に耐えられないからです。最大の愚か者でさえ、優れた者のためにスープを台無しにするのに十分な創造性と狡猾さを持っています。もし愚か者が愚か者でなかったら、悪魔がそれに手を貸したと考える人もいるかもしれません。もし愚か者たちがカメラですべてを観察できるようになったのに、その観測結果を賢い生命を防ぐためだけに使っているとしたら、それが地球規模で何を意味するのかを計算するのは簡単だ。私たちは、そう遠くない将来、諜報活動が犯罪として扱われる暴徒支配に向かっています。知性も理性もない現代の雄牛は、知性とは何の関係もない純粹に量的な群れの優位性を利用して、奴隷にされた人々の精神を、今到達した鎮静レベルに保っている。愚かな秩序が勝ち、金持ちによって祝われます。無心が勝利を収め、現代の雄牛の豚はニヤリと笑う。

パートCVII

この文脈で最初に思い浮かぶのはショーペンハウアーではないだろうが、ある時点で、ブルジョアの名誉には何の価値があり、したがって、誰かがそれをもはや保持しなくなった場合、それは何を意味するのかを書いている。名誉のない人生は可能ですが、疲れ果て、前の人生とはほとんど関係がありません。暴力による損失を主な目的として、この名誉を他の人々から奪う人々は、自分自身に名誉がありません。彼らは、自分自身がそれなしではやりたくないものを他人から奪うことによって、それを正確に証明します。したがって、暴力的な名誉の強奪は、根本的な名誉の欠如の表現にすぎない。他人の名誉を傷つけることによって自分自身の名誉を得ようとする試みは、ばかげており、小ブルジョアのナンセンス以外の何物でもありません。特にクリスチャンは、多くのことと同様に、もっとよく知っているはずですが、彼らは基本的に何も知らない、何も知らないということさえも常に証明しています。現代の雄牛は、ボタンを押すだけで一晩ですべての市の名誉を奪うことができるため、現在、大規模な名誉強盗に従事しています。ここで良い雄牛と悪

い雄牛について話すのには理由がないわけではありません。悪い警官だけが、他の存在と速くて緩く遊んで、彼自身が経験したくないことを彼らに行うことができます。願わくば、現時点で現代の雄牛が非常に不名誉であるという事実を立証する必要はないが、いずれにせよ安全のためにそうする。純粋な観察を通じて人々が自己を誇張することさえ野蛮です。絶滅の観察は、野蛮の最高レベルであり、いかなる形態の心理的暴力によっても超えることはできない。全滅の観察を通じて、ターゲットはすべての名誉を奪われるだけでなく、睡眠や人が合理的に存在するために必要なすべてのものも奪われます。絶滅観察は、現代の雄牛が殺人を犯すのに忙しいことをすでに証明しています。目立たないようにする代わりに、この卑怯な形の全面的な屈辱が依然として必要な防衛のための勇敢な行為であるかのように、その巨大な優位性を自慢します。現代の雄牛は、人間の命を無意味であるかのように弄び、この悪名高い状況でも自分自身の重要性を増そうとしています。現代の雄牛は、名誉の欠如という意味で不名誉であるだけでなく、自分の過ちを見ないだけでなく、疑うことを知らない烏合の衆に最大の不名誉を特別な名誉として売り込もうと努力しているという点で、深く腐敗しています。観察が現代の雄牛を望ましい目標に導かない場合、それは観察を止めませんが、ターゲットの崩壊を加速するために観察と中傷の圧力を高めます。現代の雄牛は、卓越した小ブルジョアのペリシテ人であるため、彼は正しいこと以外には決して関心がありません。最大の不正に深く入り込めば突き進むほど、その立場を執拗に主張するようになるが、それは最初から馬鹿げている。したがって、それだけでなく、現代のブルブタを原型的なファシストと呼んでいます。ファシストは彼の世界観に反するすべてのものを取り除くために出かけています、活動的なファシストはそのようなことを考えるだけでなく、巨大な心理的暴力の形で行動でこの態度に従います。既成のブルジョアジーが警察を信じているのは、彼らがこの警察が誰なのか詳細に知らないからだ。おそらく、著名な文化人が、警察が単に合法的な訴追を行っているだけではないことを公の方法で明らかにするためには、まず絶滅観察の対象にならなければならないだろう。現代のブルブタは、犯罪者が一般的に敵を弱体化させるために行うすべてのことを行います。しかし、それは、彼らが敵対する人々に、彼らの不本意な反対について知らせる良識さえ持っていません。それどころか、彼らが警察に知られなくなってからとっくの昔に手がかりを得る前に、生活を台無しにすることを好む。現代の雄牛が、いつの日か、この脳を割るような行為が実際に何であることを詳細に教えてくれることを願うばかりです。

パートCVIII

現代の雄牛は、恥ずかしさを避けるために努力することで、自分自身を最も恥ずかしく思います。もし自らの過ちを認めれば、希望はあるだろう。しかし、そうではないので、それは絶望的なケースであり、権力の絶対的な剥奪によってのみ修正できる体系的な誤りです。それは、彼の奇妙な愚かな世界観に有害な影響を与える可能性のあるすべてのものを避けようとする、一般的に小ブルジョアのペリシテ人とも同じです。彼の近視眼的で利己的な優位性の掴み取りにより、彼の全生涯は、外部からの介入なしには逃げ場のない生涯の不利な状況になります。精神医学と大差ないが、警察は構造的な問題に対処しなければならない:彼らは主に自分たちが必要だと思うことをするが、ビジョンがあればできることはしない。私たちは、真の持続可能なビジョンを一度もたらすことができなかったヨーロッパに住んでいるので、ヨーロッパの国 国家内の機関がより良い結果を出せるとは期待できません。しかし、問題は、不快で欠陥のある構造で機能することを余儀なくされた人々は、彼らが行うほとんどすべてのことにおいて、それが完全に正しくない、異なる可能性がある、異なるべきだと認識しているため、不快に感じることです。彼らが確実に過小評価しているのは、その勇気があれば、身近な環境にいる個人が確実に改革派の革新者になれるという事実だ。どういうわけか勢いがなくなってしまい、それがどんなに小さな変化でも何かを正しい方向に変えたという良い感覚を生むことがあります。誰もが、非常に多くの人が、多くの正当化を持ちながら、毎日一日の終わりを楽しみにし、毎週週末を楽しみにしている限り、つまり、日常生活がもたらす痛みが、すべてが再び最初からやり直す前に軽減されるべきタイムアウトを待ち望んでいる限り、誰もが自分自身のために停滞するだけでなく、ある意味では全体のために停滞するのです。これは、各個人に悪影響を及ぼします。社会主義はあまりにも何度も失敗してきたので、もう一度チャンスを得るに値するわけではなく、資本主義は失敗を止めず、アナキズムの構造が小さなスケールでしか機能しないことを知っているほど賢いアナキストにのみ与えられるものであり、アナキズムの構造は決して大規模ではなく、それを十分に、驚くほどよく信じている小さなスケ

ールでしか機能しないことを知っているアナキストにしか与えられない。すべてのシステムは間違いです。

パートCIX

十分な理由なく他人のプライバシーを破壊し、したがって彼らの生活を破壊する人々は、たとえそれが50年かかるとしても、彼らが死ぬまで観察されるべきです。観察は軽微な犯罪ではなく、有形の犯罪であるという認識を最終的に作り出さなければなりません。人を観察する人は、通常、善意で観察しているわけではなく、たとえ現代の雄牛のように信じられないほど愚かであっても、自分たちがやっていることは決して小さなことではないことを知っています。観察とは、対象者を巨大な心理的暴力を持つ別の人物に変える、全体的な自由の剥奪である。警察官でも、警察官の上司でもない誰も、観察を通じてすべての生活を故意に破壊する力を持つべきではありません。絶滅観察を生き延びた人々はまだ生きていますが、観察されていなかったら今の自分ではないのです。だから、観察が些細なことであるという証拠はまだ提供されておらず、天国のために、自分自身が一分間も観察されることなしに他人を観察する人々によって、決して提供されていない。ですから、観察を当たり前のように受け止めていると、それが具体的に何を意味するのかは、実際に観察されている人以外には誰も知りません。あなたが自分にしたくないこと、他の誰にもしてはならないという冒涔的な黄金律でさえ、問題を警告するのに十分でしょう。他人を観察したり、さらに大量に中傷したりする人々は、残りの人生で心理的な完全性に対する権利を賭けたものであり、したがって、あらゆる侮辱に値する。観察を通じて十分な理由なしに他人を侮辱する人々は不潔な烏合の衆であり、彼らもまた不潔な烏合の衆のように、つまり少なくとも完全に無関心に扱われるべきです。小ブルジョアのペリシテ人は、より大きな原ナチスのように振る舞うことができるが、それでも病的には自分自身の善良さを信じている。これは、小ブルジョアのペリシテ人が、根本的に、そしていずれにせよ、自分自身と自分の生活を健康で正常と考えるほど愚かであるために、まだ診断を受けていない精神病患者であるという事実と大いに関係しています。本当の危険は、クランクとして信用を失墜させられる人々ではなく、本当の専制政治は、通常、まだ不明な理由で、自分自身を主流派の一部と見なす人々から来る。

パートCX

したがって、われわれが確立したすべてのことの後、われわれは、小ブルジョアのペリシテ人が国家社会主義者の眠りにつく者であると、誇張せずに断言することができる。暴力の全面的な解き放つ可能性は、消費と悪い娯楽によって一時的に鎮静させられているブルジョアジーの中に眠っています。誰かがまた掃除に来るべきで、それを適切に行うために、保守的な常連客のテーブルで彼らがつぶやくのが聞こえるはずです。軍事的平和がい間優勢であったとしても、平和に対する真の愛は、ましてや平和への愛が、ペリシテ人に完全に届いたことはない。彼が声に出して考えていないとき、つまり一日中、彼が話すすべてのことをどれほど正しく評価しているかを誰もが最終的に理解できるように、単純な心のペリシテ人を王にする順序がなければなりません。小ブルジョアジーは、地球上で物理的に生き残るためには、考えることができないという生きた証拠だ。それは、お金と権力以外は気にしない狂ったペリシテ人であることが、世界で最も普通のことであるかのように、制限された基本的な態度に寄り添っています。プロレタリアは、階級意識と名誉をはるかに正確に持っている。彼は自分が底辺にいることを知っており、まるで彼が一人前の人間ではないかのように、彼を何もしない人々を当然のことながら憎んでいます。一方、小ブルジョアジーは、上流階級を軽蔑せず、自分の貧弱な地位を向上させるために彼らの尻を這い上げる。小ブルジョアジーは、彼がわずかな優位性を約束しているように見え、すでに述べたように、常にすべての人やすべてを裏切る準備ができているなら、どんなたわごとでもします、なぜなら彼は1ユーロショップで彼の道徳を買ったので、古いものが、些細な地位目標の追求における彼自身の進歩という意味で、役に立たなかった場合、いつでもそれを再び買うことができます。小ブルジョアジーの道徳は、もっぱら個人的利益の道徳である。しかし、小さな利点を追い求める人は、より大きな文脈に対するビジョンを決して発展させることはできず、したがって、はい、まさにこの理由、それがすべてである理由であり、比較的低いランクを占めています。良い上司、良い上司は一目で尻の這いずり人を認識し、この理由だけで彼らをあまり遠くまで昇進させません、なぜな

ら組織には自分の昇進によって一生懸命働くように奨励されている人々よりもエッジの効いた従業員がたくさんいるからです。情熱のある人は、なぜ利用するのが好きで、常にこれら以外のことを念頭に置いており、お金と人気で報われるだけでなく、彼が生きる小さな植物がどのように成 するかに喜びを感じるために彼が行うことを行う人は、そうすることで微妙な喜びを感じます。単純なペリシテ人には、精神的な運動能力を持つ人間とは少しも想像できない。

パートCXI

私たちはすでに、現代の雄牛の豚、つまり人口の3分の1未満の男性を扱っていることをよく知っています。この男は自分自身を誇り高く誠実だと言っていますが、よく見ると、不安と不誠実さに満ちています。小ブルジョア的な男性のイメージは、明らかな矛盾に満ちています。部外者にとっては面白い光景であり、ペリシテ人自身にとっては最大の悲劇であり、彼は自分の計算がうまくいかないのではないかと疑っています。あまりにも多くの不確実性があるため、彼にとってはそれらを特別な怒鳴り声で隠すのが最も簡単であるように思われます。ペリシテ人の花嫁は、ファンとして彼にそのままでいるように励ましますが、彼は地区リーグに昇格することは決して成功しないことを彼よりもよく知っています。だから、この単細胞生物は彼がバイエルンの選手だと思っている一方で、彼がチームを選ぶときにはたいてい校庭に置き去りにされ、正義の理由でもっとプレーすることが許されていたことを誰もが知っている。結局のところ、ペリシテ人は、自己反省が彼の世界では厳格なタブーと見なされているため、完全にブルジョアになることができるだけです。彼は彼であり、くちばしが大きくなるにつれてゴロゴロと鳴き、話します。多くの良い資質を持つ本物の男。私たちは、夫婦のベッドでのこのプラスチックの自信が、そうでなければおしゃべりな人が沈黙を保つことを好む要件とどのように衝突するかについて、かなり正確な考えを持っています。男らしさのサーカスが深い眠りの中で数時間休憩したとき、壮大な男にどんな夢が取り憑かれたのか想像できます。私たちは本当にペリシテ人と場所を入れ替えるつもりはありませんが、彼が自分自身について確信が持てないことを認める勇気があれば、彼を尊敬することができます。しかし、彼がベータの近くでプレイせずにアルファに行く限り、彼には何もできません。結局のところ、チェーンスモーカーであろうと、酔っぱらいであろうと、ブルジョアであろうと、あるいはそのすべてである

うと、自己破壊は禁じられていません。紛争、戦争、テロは一般的に、認めざる自己不信の結果と見なされることがよくあります。ブルジョア環境には、劇の核心に影響を与える可能性のある弱点を認めるよりも死んだ方がましなタイプがいます。弱さよりも死んだ方がましな主人公は、攻撃される前に自分自身を考え、自分の死を信じずに生きたという事実から死にます。ブルジョアは 期喫煙者で、がんにならないことにすべてを賭け、死ぬ直前にがんを否定することができ、医師ががんの診断に確かに間違っていると確信しています。

パートCXII

プチブルジョアの被害妄想として、現代の雄牛は、それが愚かであると同時に、彼の意見では、それを十分に真剣に受け止めていない人々に対する目を持っています。おかしいことに、小ブルジョアは、可能な限り最高のばかばかしさの落とし子として、彼が私たちに説明できない理由でばかっているように見えないように、過度に必要としている。彼が頭の前にある恒久的な板と同じくらい見過ごされることのない巨大なばかばかしさを開発するのは、まさにこの必要性からであるという事実は、彼の原始的な闘争心を目覚めさせ、それは肉体的な暴力が、話す能力の欠如のためにさらけ出されたと感じている愚かな人にとって唯一の方法であるように思わせます。他人を放っておくことができない小ブルジョアジーは、常に自分を放っておくことができない、なぜなら、彼は、他人の心の状態に対して自分に対して無関心であるのと同じように、自分に対しても無関心な人々が世界にいるという事実を、単に乗り越えることができないからである。多くの科学者が人間の些細な機械の可能性を断固として排除するとしても、明確な良心を持って些細な機械と表現できる小ブルジョアさえいます。結局のところ、小ブルジョアの取るに足らない機械は、その環境の中で、同じように機能する他の機械の一つである:あなたは私から何かを欲しがっている、そのためにあなたは私にこれまたはあれを与えなければならない。もし君がそれを私にくれなかったら、たとえ私が約束したものを君に与えたとしても、私たちは問題を抱えるだろう。あなたが私を好きではないことを私に理解させるなら、私たちも問題を抱えています、なぜなら私はすでに私を好きではないあなたを憎んでいるからです、あなたはとんでもないろくでなし!そんなに簡単に逃げるわけにはいきません!何が私のことを嫌いだと思いますか?私、なんて思いやりのある人なのでしょう!その後、この些細な機械にそれが間違っていることを理解させることができます。人はそれをまったく嫌いではありません

ませんが、それを深刻に嫌うほどの興味さえ持っていません。小ブルジョアジーは、相手が信じられないほど傲慢で、すでに最高の敵意に輝いているにもかかわらず、彼のことに
ついて考えさえしないことに気づいた。今では、愚か者が爆発する恐れがあるため、非常
に危険になります。彼は内部的にはノンストップで爆発し、特に彼のレベルで彼と戦いた
い敵がすぐに見つからない場合、外面的にも爆発します。今、ペリシテ人は、彼の自尊心
に少しでも疑問を投げかけることができるすべてのものを破壊したいだけです。残念ながら
、吸盤は、誰も気にしない野原で爆発するのではなく、文明内で爆発することがあまり
にも多いのです。だから、ペリシテ人から何も奪わない方が良いです、彼は自分自身さえ
持っていません。何よりも:彼の未知の精神疾患を手放してください、さもなければ、愚か
者はあなたを悩ませ、あなたが息をしている限り離さないでしょう。

パートCXIII

部外者として、小ブルジョアの外見的な印象に騙されてはならない。彼のマナーの良さ、
清潔さ、礼儀正しさは、環境を本当に動かしている野蛮さを隠すためにのみ使用されま
す。嫉妬、憎しみ、貪欲、純粋な本能、理解できない卑しさは、外側の形の後ろに消える
ことになっているので、誰もがこれらの人々は、フィルターなしで口から出てくるすべて
のナンセンスにもかかわらず、特定の文化を持っていると考えています。小ブルジョアジ
ーが外面的な形態に付加する重要性こそが、彼の生活意欲の真の理由を明確に示してい
るのである。したがって、小ブルジョアジーの文化は、つねに真の文化がまったく存在しな
いことの目に見える証拠であった。ペリシテ人は本当の文化について何も知らないので、
彼は無意味な形以外の何物でもない洗練を描こうと努力しています。すべてには名前と意
味があり、知らないことは辞書で調べることができますが、翌日には、前日に辞書で正確
に調べなかったという不幸に見舞われた人々の間で新たに獲得した豊富な知識で輝くだけ
です。小ブルジョアジーは、尊敬され、人気があり、尊敬され、さらには賞賛され、どん
な犠牲を払っても同情されることを望んでいます。しかし、問題は、彼が部外者に対し
て、彼の哀れな「私は善良な人間」の演技を考えると、彼を気の毒に思わない理由を与え
ないことだ。完全に狂気の自己イメージ以外に提供できるものがほとんどない環境は、そ
の人工性と人工性をすぐに認識するすべての人々によって当然のことながら避けられま
す。彼が友好的であれば、ペリシテ人と少し言葉を交わすことができますが、彼の世界と

人間に対する墮落した見方に対して譲歩することは常に絶対に避けるべきです。もしあなたが小ブルジョアのペリシテ人に心を開くと、彼はあなたが愚かにも明らかにしたすべてのものを彼のエンドウ豆の脳に蓄え、次の機会にそれをあなたに対して使うことができるようにする。それについて本当に悪いことは、彼が人々と接する際にどれほど墮落し、利己的で、憤慨し、不公平に振る舞うかにさえ気づかないことです。彼は信じられないほど愚かで、自分が住んでいる世界を、自分が見て非難できるすべての人の世界だと考えています。ペリシテ人の世界と共通点のない別の世界に他人が住んでいると考える一歩でさえ、彼にとっては完全に圧倒されます。ですから、もし私たちがこのタイプの人に権力を行使させることを許すと、彼はその権力を100パーセント乱用するでしょう、なぜなら彼は自分自身と彼の言動のすべてを理解し始めさえしないからです。このタイプの人、放っておくとすべてを汚染する疫病です。すべての啓蒙が失敗したことの証拠は、小ブルジョアのペリシテ人の存在である。われわれは小ブルジョアのペリシテ人を根絶することはできないので、われわれは彼に、いやいや、原則として、特にひどく我慢しなければならない。

パートCXIV

21世紀の現代の雄牛は、時々通りの気分を調整するだけでなく、文字通りそれを作り出すことを理解することが重要です。勤務中の小ブルジョアのペリシテ人は、誰かが平和に暮らすことを許されているのか、それとも常に押しつけがましいコメントを伴っているのかを、彼の手中に収めている。だから、私たちは低俗な学校の失敗に大声で監視されているだけでなく、現代の雄牛によって間接的に抑制されています。それは、雄牛があなたに照準を合わせているときに通りであなたを待っている気分直接影响到を与える情報と偽の情報を群衆に供給します。現代の雄牛は、私たちが今知っているように、控えめでも専門的でもなく、知的に無視された小ブルジョアジーの下半分と同じ品種です。今、私たちは一般の人々が私たちについて何を考えているか、何を言っているかはまったく気にしないかもしれませんが、あなたがあまり気にしなくなるまで、数年かかります。なぜなら、あなたはプレイしなくなかったお粗末なゲームがどのように機能するかを正確に知っているか

らです。通りに蔓延するムードは現代の雄牛の仕業であり、したがって、警察が誠実さを
持っていると考え人々が想像するほど恣意的ではありません。評判の良い雄牛に会う確
率は、彼が何をしているのか、何を言っているのかを大まかに知っている人で、気さくな
見積もりによれば、おそらく25パーセントです。したがって、警官と関わることはできる
だけ少なくするのが常に最善です、なぜなら、完全な吸盤に遭遇するリスクは比較的高い
可能性が高いからです。マニフェストは、はっきりとした想像力の結果ではなく、処理に
何年もかかった現代の雄牛のタイプの具体的な経験に基づいています。現代の雄牛がクソ
をやったとしても、何も取り戻さないが、それでもクソをもっと作る、まるでもっとクソ
でクソを間引くことができるかのように。なぜなら、現代の雄牛は分別を持って機能せ
ず、非常に偏見があり、時には国家社会主義的な態度さえ備えているからです。小ブルジ
ョアのペリシテ人を月に撃つことができないのと同じように、現代の雄牛を月に撃つこ
とはできない。問題は、小ブルジョアのペリシテ人が、もし彼が銃や盗聴器で警察ごっこを
することを許されるなら、彼が自分の生活と呼ぶ非武装で権威のない愚かさをするより
も、はるかに危険だということだ。このマニフェストは、単細胞生物に無害な課題を割り
当てるのではなく、単細胞生物に大きな力を与えた場合に何が期待できるかについての私
たちの見解を鮮明にすることを目的としています。州内での現代の雄牛の役割は、警察が
意図した役割とはまったく一致していません。

パートCXV

警察の品位を信じることはブルジョア的だ。さて、決してすべてのブルジョアジーが悪い
わけではありません、なぜなら、ブルジョアジーなしでは文化はどうなるのでしょうか？そ
れとは対照的に、プチブルジョアジーは、本質的には、自分たちを社会のへそだと思っ
ている、よそよそしい、横柄なガラクタたちから成り立っているが、彼らは下品でつまらな
いもの以外には何も提供できないが、ブルジョアジーは 主主義社会にとって不可欠であ
る。しかし、警察の誠実さを信じることは、現代の警官と彼を盲目的に信頼する教養ある
市 との対比を理解すれば、ナイーブであると同時に間違っている。したがって、警察の
少なからぬ部分が 主的ではなく、ファシストの秩序を代表しているということを市 に

説明しなければならない。すべての人を監視することが許されている現代の雄牛は、あまりい間監視されておらず、特に愚かな人々をい間見失っていた場合、その間に彼らが自発的に良い方向に変化していないと仮定する必要があります。現代の雄牛の豚は、あまりにもい間自分自身を正当化する必要がなかったので、生まれることができました。今では、その怪物的な尊大さのために、もはや誰にも説明を借りていないと思い込んでいる怪物です。不思議なことに、怪物を見ると、その存在は正当なものだと思う、そうでなければ誰かがそれを防いだらうからだ。しかし、残念ながら、怪物自体はそれ自体の正当化ではありません。現代の雄牛は、あらゆる点で退化した警官であり、国家が彼女に巨大な権力を委ねるほど怠慢だったため、自分自身をオリジナルと見なす警官の風刺画であり、信頼を持つ人がこの贈り物を自動的に信頼できる方法で扱うという誤った信頼で。しかし、そうではないだけでなく、まったくそうではありません。テロリストとしての悪い警官のケースです。彼に平和を期待する人は誰でも、同じ素朴さを利用して、彼の損失に対して自分自身に保険をかけることなく、街の有名なギャングに高価な価値のあるものを貸すことができる。

パートCXVI

知的障害者の方言を話す人が、彼らの障害者の方言で私たちのことを話すのは、我慢できません。彼らは明らかにそれを助けることができないので、私たちは彼らが話すことと呼ぶものによって毎分彼らの霊的な真空を確認する強い恒久的な必要性を感じているという事実を受け入れなければなりません。私たちは、なぜ人生の目的が他の人々と関わることにある人々がいるのか理解したことはありません。しかし、そのようなことの動機がどれほど悲しいものであるかは、合理的に判断することができます。結局のところ、現代の雄牛は、国家の大きな失敗と巨大な無能さの表現であり、賢明な計画の結果ではなく、ましてや心理学の専門知識の結果でもない。

小ブルジョアの野蛮人は、真の専門家の手にさえ落ちるべきではなかった責任を与えられている。ですから、もし現代の雄牛が誰かについて、自分は観察されているだけだと言うなら、彼自身が観察されることについてどう感じているかを尋ねなければならないでしょう。私たちは今、愚か者がバグを扱うとき、それは単なる観察にとどまらないこと、そし

て悪い警官の形をした愚か者は愚か者であるだけでなく、常に愚かな獣でもあることも知っています。現代の雄牛の豚で、州は事前に公に措置を発表することなく、通りのプレカリアートを人口の寝室に宣伝しました。だから、現代のブルブタタイプのガラガラ騒ぎの大集団を21世紀のSAとして想像することもできる:ラブルに力と機能を与えれば、ラブルはそれがどんな種類のガラガラなのかをみんなに証明するだろう。善意の警官が、腐敗したファシストと最初から同僚として折り合いをつけなければならなかったら、どれほどのチャンスがあるかは容易に想像できる。めちゃくちゃな警官志望者の群れを騒がせる愚かさは、大きな引き寄せ効果をもたらし、おそらく最強のキャラクターだけが永久に対抗できるだろう。SAが警察内で権限を剥奪されなければ、その権力は論理的には拡大し続けるだろう。もしマーセンがVSの であつたとすれば、我々の腐敗した秩序の力の下層部では、不可能なことは何もない。一昨日の男は、明日の世界で暖かく乾燥した場所を確保し、誰も気にしていないようです。国家におけるファシズムは、不愉快な偶然ではなく、特に小さな精神による野蛮な計算であり、誰も召喚したくはない。卸売市場からの意見を持つみすばらしいプラスチックの人々に私たちの名前を発音してほしくない、なぜなら彼らがそうするたびに、私たちの怒りは少しずつ大きくなり、私たちの怒りは結果なしにはならないからです。

パートCXVII

ナチスと話すことは意味をなさない。ナチスが戦闘ブーツと爆撃機ジャケットを着た都会のナチスであろうと、CDUに投票する愚かな地方の小ブルジョアであろうと、違いはない。ナチスが会話を求めるとき、それは常に彼がひどい状況にあるという兆候であり、常に何か怪しいものがあります。そして、どんな状況下でもナチスが立ち往生しているこのクソから彼を助けるべきではない、なぜなら、彼がクソを去った途端、彼はナチスの愚か者として行動し続けると想定しなければならないからだ。ナチスは、絶望的な状況にあるときにのみ、議論を求めます。しかし、他に方法がないときだけ話したい人は、原則として言説から除外されるべきです、なぜなら、事前に会話を考えている生き物だけが談話に値するからです。伝記をバグで終わらせる残忍なペリシテ人は、理性的な人々のように扱われるべきではない。彼らが突然5時から12時に会話を求めるとき、彼らは常にそうであ

ったように、自分自身の問題をまだ心に留めています、なぜなら彼らは基本的に他人の問題についてたわごとを言わないからです。国家が愚かな 衆が武装警官になるのを防げなければ、この烏合の衆が卑劣な行動をとるのを防ぐことはできない。多くの理由から、クリエイティブな人々を最高のパフォーマンスに駆り立ててきたのは、常に愚か者であったと考えることができます。ですから、もしあなたがクリエイティブな人を探しているなら、基本的には彼の創造性を邪魔するために彼の周りに集まる愚か者を見つけるだけでいいのです。『ブルピッグ・マニフェスト』は、おそらくこれまでに書かれた警察について書かれた中で最も豊かなテキストです。消滅の観察は被害妄想ではなく、い間実践され、現実でした。多くの警官ファシストは、まだ誰も彼らに教えていないので、おそらく自分たちがファシストであることさえ知らないでしょう。観察は決して単なる観察ではなく、人生に対する意図的な攻撃であり、心理的完全性の意図的な破壊です。観察は恐怖であり、したがって、些細なこととして扱われるべきではない。観察された人自身だけが、このように生活がどれほど残酷で冷酷に台無しにされるかを知っています。したがって、私たちは、観察を矮小化し、他の人々がそれらを送った地獄に直接送ろうとするすべての人々に指を差し伸べなければなりません。だから、絶滅観察がテロ行為として罰せられないのであれば、絶滅観察よりもはるかに無害でありながら、比較的厳しく罰せられるものが無限に考えられるのに、一体何が罰せられるのか疑問に思うことになる。現代の雄牛は、どんなにお金がかかっても行かなければなりません。ばかげた連邦がついにこれ以上何も言うことがなくなった国で、有害なナチス警官の豚をきっぱりと流通から排除する十分な理由を動員し、彼らが悲しいブルジョアのパブで平和に死ぬまで飲むことができるようにすることが望まれます。

パートCXVIII

現代の雄牛が誰にも罰せられない殺人者であるならば、雄牛の宣言は、現代の雄牛の豚が殺人を犯すことを明らかにするテキストです。これから何が起こるか、そして続くべ

きことはすべて、悪い雄牛に行動力を与えた人々次第です。なぜなら、私たちは愚かな獣に対して、できるだけうまく説明すること以外に何も手にしていないからです。なぜなら、それは毎日、あらゆる理解を絶えず無視することによって、新たに自らを非難するからです。現代の雄牛の生活を困難にするためには、暴徒の支援が必要だ。しかし、それは完全にその手中にあり、このことをよく知っているので、想像を絶する権力の地位でやりたいことを何でもできるのだ。現在の不安定な状況から抜け出す唯一の方法は、他のヨーロッパ諸国にすでに初歩的な形で存在しているように、よくできた左翼ポピュリズムだろう。68年代の人々でさえ、彼らが助けたいと思っていた人々が彼らを憎み、軽蔑し、戦ったという問題を抱えていました。この点については、ほとんど変わっていません。左翼政治家はおそらく、知的で、無血で、労働者の世界の生活とはほとんど関係のない別の世界に住んでいる人々のように見えるだろう。左翼政治家は優れた知識人であり、彼らの決まり文句は、彼らの貢献に熱心に耳を傾けるのではなく、普通の人々を嫌う人々にもっと対応しています。しかし、抑圧と搾取の原則は、人々が支配され、束縛される経路が変わったとしても、必ずしも複雑になったわけではない。社会を改革したいのであれば、小ブルジョアの尻這いではなく、権力者との対決をためらわない心と頭脳を持つ人々が必要です。教育と人格を備えた真の保守派がほとんどいないという事実は、一歩前進する上で役立つかもしれない。保守政治が盛んになっただけでなく、左翼過激派からもある程度の尊敬を得られるオーラで、そのオーラが漂っていた人々も姿を消してしまった。合衆国の自己解体は遅れていたが、少なくとも実現しなかったわけではない。今、解決すべき問題は、常に人気を見ている人々ではなく、真の問題解決者だけが解決できるものです。実際よりも多くのリーダーシップを発揮する政治指導者は、もはや必要ありません。未来は中年、特に知的な若者のためのもので、彼らはアクションの類似物を非常に自信を持って老けて見せ、彼らを右に任せることができるほど、彼らの尻に十分な火と軽蔑を持っています。結局のところ、気候の崩壊を遅らせるだけでなく、人間の生活をいくらか改善することができれば、それ以上に良いことは何ですか？

また、必要であれば、誰が合法的に誰を観察することが許されるべきなのかについても、根本的に考えるべきです。結局のところ、観察者は常に観察されている人に対する自分の道徳的優位性を前提としています。しかし、道徳的に優れた人々が、自分たちのことを何でも知ることが許されていると信じて神のように振る舞うことを考えると、最初に頭に浮かぶのは、自分の醜い方言を流暢に知らないサディスティックで小ブルジョアのペリシテ人です。この国で絶滅観察を行うタイプの人々は、確かに誰よりも道徳的に優れているわけではありませんが、嘔吐する準備ができていると感じた場合にしか想像できない最も原始的なプレカリアートのハビトゥスを持っています。現状では、この国の人々は絶対的な烏合の衆による全面的な監視下にあり、この暴徒が彼らをノンストップで監視する権利が何を持っているのか、誰も彼らに教えてくれません。観察とは、他の人生に対する最大限の自己拡大であり、せいぜい教育を受け、人間であることについて何かを理解している思慮深い人々がそのようなことを行う資格があるのであり、観察によって自分の最低の本能をノンストップで満たすことを許されているナチスの警官のペリシテ人ではない。国家がこの質問に答えることができないのは、問題があるとき、常に分業を議論として悪用し、すべての犯罪を矮小化することができるからである。それは常にろくでなしのように振る舞う個々のろくでなしがたくさんあるだけなので、最終的にトップのろくでなしを突き止めて責めることはできません。ブルジョア一家は、現代の雄牛豚や現代の精神科医豚に協力し、誰もが常に他の関係者全員を指すので、誰もテーブルを叩くようなボールを持って、この無能で臆病なペリシテ人の集合体全体が、誰も笑わないくだらない冗談だと認める必要はない。この国では、多くの理由から、観察の話題がまだ適切に考えられていないと疑われる場合、この問題に近づくことができます。現代のブルピッグは単に自分自身に力を与えただけで、この墮落したホラーピエロのアプローチを試し、将来性交しながら下品な野蛮人に監視されることを本当に望んでいるのかどうかを考えるとという考えは誰も思いつきませんでした。もし私生活でめちゃくちゃなペリシテの靴下に見られているような気がするなら、手を挙げてください、なぜなら靴下はすでに準備ができていて、彼らが最終的に自分の生活に対処する必要があるように、より多くの目標を探しているだけだからです。

パートCXX

観察するほど愚かでなければならない。観察が殺人の前兆であるならば、健康な人々は他人のプライバシーを侵害することに自然な嫌悪感を持っていると仮定できる。もし彼が他人の観察を無害なものとして認識するなら、特に彼がペリシテ芸術のすべてのルールに従ってターゲットを中傷する意志を持っているなら、彼の頭の中にはかなりの量のたわごつがあるに違いありません。アイスクリームを買うかのように、他人から基本的な生活の自由を奪う人々は、非常に危険であるだけでなく、客観的に見ても病気です。しかし、不条理なことに、観察下にある人々は、他人を観察する人々よりも精神医学的にひどい扱いを受けることがはるかに多いのです。ですから、観察者に圧力がかけられず、観察された者に対してますます圧力がかかるだけなのに、観察者の初日から全く絶望的な状況にあり、その状況について一言も知らされていないのに、実際には何が間違っていたのかを自問しなければなりません。自由の剥奪は、特に犯罪的に目立ったことのない人々に影響を与える場合、大きな罰です。なぜなら、現代のブルブタは、すべての人を平等に扱わないだけでなく、その小ブルジョア的背景を他の人々との取引の基礎とすることによって、最も極端な方法ですべての人を不平等に扱うからである。21世紀の最初の5分の1は、権力の行使が人口の最下層に到達したことに気づかなければならないとき、ほとんど終わっていません。このマニフェストを誇張された狂気と考えるすべての人々は、遅くとも数年以内に、警察が取り返しのつかないほど腐敗し、反中立的に行動していること、そして、ポケットに十分なお金があり、適切な知人によって絶滅観察が容易に開始できることに気づくだろう。誰がファシスト資本主義で生きることが許され、誰が許されないかは、究極的には、司法によってではなく、法的正当化を必要としない完全に主観的な理由で、さまざまな環境のブルジョア家族によって決定される。さらに、観察の不誠実な点は、ターゲットが狂人または犯罪者として分類されることに対して何もできないということです。観察に賛成か反対かの決定は、生命に賛成か反対かの決定です。したがって、市の命に何の価値もない雄牛は、できるだけひどく、十分に扱われるべきであり、それに対する正当な嫌悪感によって自分自身が起訴される責任を負わないようにすべきです。

パートCXXI

もう少し大きく、より社会的に考えると、私たちの社会もまた、小ブルジョアのペリシテ人が広範囲に耳を傾けるほど好ましくない設計になっていると言わざるを得ません。階級がさらに誇りと尊厳を持っていたとき、はい、階級はそれ自体が不利ではなく、ゴシップ好きの愚か者たちは、彼らの些細なおしゃべりで階級の境界にさえ侵入しませんでした。今や全てが一緒に過ぎ去り、愚か者たちは、自分たちが考えているナンセンスを相互に確認するために、あらゆる障壁を越えて互いにネットワークを築くことができる。問題はまた、誰かを愚か者と呼ぶことはもはや全く役に立たないということだ、なぜなら、すべての愚か者はすでに、どんな状況下でも自分自身が愚か者になることはできないという信念の中で生きているからだ。不器用な娯楽のゴミと文化的な可能性を秘めたコンテンツとをまだ区別できる少数の人々は、大きな経済力を持たない文化的エリートです。結局のところ、お金を優先するか教育を優先するかは、最終的には一生の決断です。ブルデューから知っているように、教育にはお金と時間がかかりますが、お金がたくさんあり、したがって時間も持っている非常に多くの人々は、これらのリソースを使用して彼らの助けを借りて教育を受けていません。だから、私たちが主に扱っているのは退廃的な経済エリートであり、それを模倣する愚かな小ブルジョアジーよりも下品ではないが、そのステータスシンボルは10倍かそれ以上の費用がかかるということを除けば。多くのタイプのクライマーにとって、目標は本でいっぱいの中ではなく、空虚でいっぱいの別荘であり、その前に、できればそれを作った人が5年間で稼ぐよりも高い車です。私たちが家を出るとき、90%は極端に陳腐なものに過ぎず、私たちの社会で人々が行うすべてのことの90%は経済的な理由があり、お金以外の何かを求めているなら、私たちはエキゾチックな地位を持っていることを思い出さなければなりません。ペリシテ人は単に精神病と呼んでいます。これは現代の雄牛に関連して何を意味するのでしょうか?まあ、そのような社会で公式に歯車として機能する現代の雄牛の豚は、歯車の周りで何が起きているのかわかりません。現代の雄牛は、ただ現代の雄牛になりたいと思い、そうし、思考や感情を持つ存在に最悪の結果をもたらします。

パートCXXII

何十年も私たちと向き合う人々と、不快な退屈に悩まされずに一分たりとも話すことができなかつた人々と接すると、微妙な不均衡が生じます。人々が主に他の人について話すとき、これは通常、下層階級の明確な指標です、なぜなら、さまざまな理由で何もすることがない人々の生活よりも退屈なものは何ですか？人々が興味深いことを扱うのではなく、人々について話すとき、私たちは大きな実存的真空の表現を扱っています。さて、これを行うのは田舎のペリシテ人だけでなく、簡単には馬鹿のレッテルを貼ることができない尊敬される都市生活者もいます。それはまた、単なる低能な反対意見よりも一般的な何かについてのものです。マニフェストの1つのテーゼは、人々が人々について話す方法はすでに破壊的な危険を秘めているということです。もし誰かが数年後に大都市の近所を去ったとしても、その人が親しい仲間からさえ一般的な欠点を証明されるのは、ほんの数週間の問題です。自分の自由意志で自由奔放な世界を去った人の何が悪いのか疑問に思います。その決定が彼に何か問題がないことを示しているかもしれないという考えは、感傷的に取り残された人々の誰にもめったに思い浮かばないことです。最も偉大な反ペリシテ人のサークルでさえ、小ブルジョアの思考パターンや行動は珍しいことではなく、結局のところ、人が軽蔑するものの反対が自動的に楽園になるわけではありません。特に都市のカウンターワールドは、自分たちの不適合を何度も証明するために、メンバーに大きな圧力をかけています。自分たちが楽園に降り立ったと素朴に信じているすべての人々は、まだ彼らの前には反世界の幻滅という厳しい学校があり、特に精神をひどく不安定にする十分な薬物が関与している場合、そこからしばしば死ぬ人もいます。対抗世界では、あなたが残した世界のルールを常に反映しなければならないため、対抗世界があなたが元気に逃げた世界よりも大きな地獄にならないように、期的に合理的に幸せに存在できるようにするためには、優れた知性と粘り強さが必要です。ペリシテ人でないだけでは十分ではありません。ある時点で、なぜ自分がそうなりたくないのかを正確に知らなければならない、そうでなければ、かつて抑止力の模範であった人々と全く同じになってしまうリスクがあります。結論:代替的な生活様式を研究し、創造することに無条件のイエスですが、一方で、すべてがはるかに疲れ果てており、それを知らなければ、そのために簡単に壊れてしまう可能性があることに注意してください。多くの壊れた人々はゴシップによって壊れている

ので、ゴシップをするときは目を開けてください。遅かれ早かれ、冒涇する者もまた冒涇されるでしょう。恥ずかしさで口を空にする前に、このことを考えるべきです。

パートCXXIII

現代の雄牛は地下室を拡張しなければなりません。彼のキャリアの初めには、彼はこれほど多くの死体が作られるとは思っていませんでした。今では50歳前後になり、すべてが20年前とは全く違うものになっていることがわかりました。ブルブタは、参加し、変化をもたらし、さらにはロールモデルになりたかったのです。幸いなことに、彼のきれいな制服を着た 間人は、彼の仕事がどれほど汚いかを理解していません。雄牛の豚は人間性への信頼を失い、仕事と余暇の間を神経質に回転し、勤務中であろうとなかろうと、それはまったく関係なく、すべてが無色の何かに組み合わされ、昼夜を問わず疲れ果てた魂に重くのしかかります。雄牛が放つはずの整頓は、彼がまだ感じる事ができるすべてのものとはますます対照的になります。警官は最近、彼が時給をいくら稼ぐかを計算しました:哀れな、裏社会が時折与えるボーナスでさえ、友好的に目をそらしたり、親切にしたりするために。悪い警官は、自分が誤解のために自分の人生を犠牲にしたことを理解し始めます。今、彼は、攻撃的かつ残酷に誤った信念を否定することからなる前方への飛行だけを見えています。悪い雄牛がうまくいっていないなら、他の誰もうまくやっていないはずです。フラストレーションと憎しみは、これらすべてがまったくない方が良いことをすべてのジェスチャーで確認するライフスタイルに固まっています。サービスウェポンオプションは常に準備ができており、引退するとクイックリデンプションビークルを手に入れるのがより困難になりますが、雄牛は、彼がそれをしたくない、またはもうできないときに自分自身を助ける方法を常に知っています。悪い警官が去る前に、彼はさらにくだらない人々の悲惨さを数回経験したいと思っています、それにより、一日の終わりがその意味を取り戻すことができます、なぜなら他人のさらに大きな痛みはしばしば痛みに対抗するのを助けるからです。雄牛の豚はゆっくりと息を吐き、彼がまだ近くの狂気の家ではなく自分の机に

座っていることに一瞬満足しています。

パートCXXIV

私たちは、より効果的に人々を傷つけることができるようにするために、決して人々を観察することはありませんが、私たちは自分自身が愚かではないという確信に甘んじてはなりません、なぜなら、この確信を内面化することはしばしば愚かさへの第一歩であり、それはまた、将来のすべてに致命的な影響を与える可能性があるからです。客観的に、そして愚かなナンセンスと表現される明確な良心を持つことができるすべてのものに加えて、最も教育を受けた人でさえ安全ではない無数のささいな愚かさがあります。ですから、大学にはある種の愚かさがあるのですが、それは、大学内で起こるすべてのことが、そこで起こるのだから、すでにどんな愚かさもないという幻想に基づいているのです。そうではないことは、知性に完全に酔いしれて大学生活を終えていないすべての人々に知られるべきです。大学のコーストは、しばしば恥ずかしい独善性に満ちています。これは、大学が知的現状の究極として黄ばんでいるという事実と関係があります、なぜなら、それを上から不適切であると暴露できる考えられる権威がもはや存在しないからです。それは、世界に対する最初の軽蔑の最後の言葉を自分自身で主張する風刺の特定の機関と大差ありません。彼らはまた、貧しい高校の卒業生レベルで面白くないナンセンスを生み出すこともあります。しかし、理由なくして何かに敬意を払わないという基本的な態度は、単に人々を侮辱するすべてのものに関して絶対的に正しいし、私たちが知っているように、それは多くのことであり、残念ながらこれがこのように屈辱を受けた人々によってもはや適切に認識されていないとしても、それは正しいからです。自分の仕事を真剣に受け止める風刺作家は、言葉の選択や噛みつきを遅らせるために、彼を威嚇しようとするものから決して引き下がるべきではありません。もし風刺を真剣に考えているなら、アサルトライフルを持って編集部に入し、必然的に埃をかぶる前に全員の頭を吹き飛ばすイスラム主義者の愚か者を笑うのが最善だ。この態度は英雄主義とは何の関係もなく、単に、たとえ彼らがあなたを殺そうとしているとしても、あるいはもっと良いことに、まったくそうではない、愚か者によって自分自身を恐怖に陥れるべきではないという深い信念と関係があります。観察用の雄牛は、私たちの現在の世界、少なくとも私たちの国では、最もばかげた哀れな愚か者です。武器や虫の暴力を持つ愚か者でさえ、愚かな愚か者であり、今もそうである。そうではないと主張する人は、成功の可能性が非常に低い状態でそれを証明しなけれ

ばならないでしょう。

パートCXXV

しかし、結局のところ、愚かな小心な人々の軍隊が行動を促すままに世界史を書き、少しの理性を備えたすべての人々がすべてのナンセンスに耐えなければならないことは、本当に新しいことではありません。現代の雄牛は、今や卓越した小さな頭脳であり、人間の終末期の脳を切断されたSAの子分である。何でもやることを許され、何もできず、何も知らず、自分がすべてを知っていると思っている愚かな人。愚かな連中が、何世紀にもわたってこれほど支配的であり続けてきたのは、彼らが人員の面で莫大な優位性を持っているからだ。しかし、今、あなたはまた、小さな心にすべてを許す人々は、自分自身が小さな心であるだけであることを認識しなければなりません、なぜなら、そうでなければ、彼らはこれらすべての活動的な小さな心をよりよく把握しているからです。このような小心な人は、中国や北朝鮮に住まなくても幸運かもしれない、なぜなら、それが何を意味するにせよ、とっくの昔に、彼らは私たちのようなものを斬首したり、閉じ込めたりしていただろう、と私たちに言うのが好きです。小心な人は、その愚かさにもかかわらず、自分が量的に非常に優れた大きな集団の一部であることを知っており、そこからすべての横柄さを引き出すのは、数的に優れた集団が、この形式の優越性によって自動的に、疎外された人々に世界を説明する権限を与られているという確信から成り立っている。しかし、物事がかなりの力で進んでいることを他人に理解させたいと願う人々こそが、なぜ物事が小心な人々が望むように進んでいるのかを最も説明できないのです。賢い者に対する愚かな者の力は、最後に徹底的に説明しなくても、一生対処できるトピックです。後期資本主義の世界では、常に、すべてが現状では正しくなく、すべてが人工的であるという結論に達しますが、それは平凡なだけでなく、不安定な結果をもたらします。何が真実で何が真実でないかを決定するのは科学ではなく、偽りの真実が意図的に作り出され、最も多くのお金を持ち、したがって最大の権力を持つ人々が最も気楽に生きることができるようにする、それがすべてです。例えば、この国の若くて大金持ちの若者たちは、このことをきっちり理解していて、特権的な立場から感傷的にスピードをスピードと呼び、賃金に依存する主流派に対して、信じられないほど多くの人々が不合理な生活に耐えなければならないことを確認し、その結果、少数の人々が、しばしばそれに特に満足していないにもかかわらず、

不合理な要求がほとんどない生活を切り開くことができることを確認しています。それが悪いなら、それは悪いことであり、それが悪いより良いふりをする理由はまったくありません。

パートCXXVI

現代の雄牛が考えることができないという事実は、それが最後の土よりもひどく扱う人々からの尊敬を要求するという事実からすでに明らかです。それは互惠の自然法則さえ理解せず、純粹に国家社会主義者として行動し、あたかも道徳的権威であるかのように行動する。今、私たちはそれに問いかけます、なぜ私たちはそれを尊重すべきですか。犯罪者なのに警察官の身分があるから？それは愚かにもバグがあるから、それらを合理的に利用することができないのですか？学校で注意を払わなかったから？ノンストップの小ブルジョアナチスのたわごとを言っているからですか？同じように愚かな友達がいるからですか？現代の雄牛が擁護のために言おうとすればするほど、必然的にその実存的不正当化のたわごとに深く沈んでしまい、したがって、誰にも直面しないという事実から莫大な利益を得ることになる。不合理に整理された愚かな世界の法則は、愚か者たちが常に自分よりも愚かでない人々に説明を求めるような方法で、自分たちが自分を上に置こうと正当化する理由を正当化することができない。愚か者はすでに自分の存在を自分の存在の正当性の正当化であると考えている、なぜなら彼の種類のものは非常に多いからだ。世界をあるがままにしている人々がいますし、この状況から効果的に身を守ることができないまま、一生この状況に耐えなければならない人々がいます。愚か者は、自分について合理的に考えることができるすべての人々を憎む、なぜなら、彼は彼らについて同じように考えるべきではないと疑っているからだ。彼は、行動に対する無分別な熱意で、この和解できない非対称性に反抗し、反対側の人々がそれを廃止したくてもそれを排除することさえできませんでした。愚か者は、自分と彼の愚かな生き方が、非愚か者によって考えられるという事実にはほとんど絶望している。彼がファシストになるのはまさにこの理由です、なぜなら彼はこの感情を取り除くことができるのは、彼の中でそれを可能にする人々を破壊することによってのみ彼が信じているからです。しかし、彼は自分を知り、認識したことで憎むすべての人を殺すことができないため、他の愚か者と団結して、一人のバカがこれまでもたらしたよりもさらに悲愴な状況を引き起こす可能性のある騒ぎ立てる暴徒を形成します。愚か

者が愚か者でなくなるのであれば、私たちが笑うのを止められるのは、彼の地平線を超えているからであり、したがって、私たちは絶対的な絶望の結論に達するしかないのです。

パートCXXVII

今やわれわれは、世界を小ブルジョアのペリシテから解放することはできないということを知っている。私たちは、彼が存在し、彼の取るに足らない出来事に私たちの神経を逆なでするという事実を受け入れなければなりません。それはそれでいいのですが、彼が私たちの神経を逆なでする限り、彼の人生が私たちの人生と関係があるというばかげた関係マニアの中で生きている限り、私たちはできる限り彼をディスらなければなりません。もし我々が小ブルジョアのペリシテ人が彼の強盗ピストルを広げるのを許すならば、我々はすでに非常に寛容である、結局のところ、彼の話を聞き、彼を真剣に受け止める人々は、真剣な知人のために問題となる人々ではない。このタイプの人と妥協しても仕方がない、なぜなら彼は何度も何度も私たちをだまし取るからだ。私たちにとっての唯一の方法は、この愚かな宇宙から完全に孤立して存在することです。もし私たちが観察や他の罰のペリシテ人を一人前の人間として尊重し始めると、それは裏目に出るだけです。この点で、私たちは可能な限りペリシテ人を避け、残りの人生でペリシテ人を避ける方が良いでしょう。知識人には基本的に少なくとも二つの相反するタイプがある:小ブルジョアの無害な劇場に騙される人々と、彼とほんの少しの言葉を交わすだけで他人がどれほど有害であるかを正確に知っているために、疫病のように彼を避ける人々である。ペリシテ人は絶対にダメです。彼と関わる人々は、2つの理由が考えられます:彼らがあまりにも善良であるという意味で世間知らずであるか、または彼らは同じレベルで生活しており、ペリシテ人のおしゃべりから何らかの方法で利益を得ることを望んでいます。よく考えられた理由から、マニフェストは、有害なペリシテ人がもはや私たちにそれほど近づかないように、新しい戦線を構築することを嘆願しています。なぜなら、ペリシテ人が私たちに対して不当な利害関係を抱いている一方で、ペリシテ人が行うこと、言うこと、考えることはすべて私たちを完全に見逃している一方で、いかなる破壊的な形でも成功するはずがないからで

す。この国とこの世界には、解決すべき問題があります。ペリシテ人は問題解決者ではありませんが、彼の鋭い軽率さは克服しなければならない問題の1つです。自分自身が大きな問題を抱えている人々とは問題を解決できません、なぜなら彼らはすべてを理解しているわけではなく、それでも何でも話せると思っているからです。愚かな人々は一生愚かである必要はありません、それは何のためにも遅すぎることはありません。しかし、私たちは彼らが停滞している愚かなものを拾い上げることはできません。自分の髪の毛で自分を窮地から引き抜くには、モチベーションが必要です。

パートCXXVIII

現代の雄牛には不公平感の火花がないので、彼の中に不公平感を探そうとする無駄な試みをしてはいけません。彼は他人の権利を気にしないのと同じくらい、愚かで醜い妻の新しい服装を気にしない、彼は最終的に住宅地で懐疑的な視線を引き付けないために結婚しただけだ。私たちは、この原始ペリシテ人で権力の愚かさをできるだけ反発的に想像しなければ、現実的な印象の方向にさえ進むことができます。既成のブルジョアジーの一員は、そのような人々が実際に存在することさえ想像できない。しかし、それが可能になるとすぐに、この種の人々が武装警察官として認可されずに私たちの国を歩き回ることを許されているという悲しいニュースも伝えなければなりません。私たちは、間違った人々が手を差し伸べることを許されるべきではない場所にいるという認識を高めなければなりません。パンデミックに悩まされた終末論的な気分の段階のハイテクSAの子分は、理解できる仕事をするためにここにいるのではなく、彼がそうであるように自分自身を最大限に生きるためにここにいます。教育がほとんどない人々を選ぶ理由はない、なぜなら、教育がほとんどないという悲劇的な理由がしばしばあるからだ、ということは、すでにここで何度か指摘されている。しかし、私たちが望まないのは、事実に基づく権力の地位にある、理性と理性を持たない人々です。そして、撃って観察することが許されている雄牛の豚は、それに対して多くのお金を稼ぐことはありませんが、過大評価できない力を持っています。これらの疑問が明らかにされなければ、近い将来、私たちは正常な状況になるでしょう、それは、退屈なペリシテ人が退屈でないすべての人を観察して、彼らがとにかくあまりできない時間を過ごすことができるというものです。罰のペリシテ人は、まるでテレビで安いシリーズを見ているかのように、単なる娯楽のために私たちのプライバシーの中でぶらぶらしています。彼らは私たちについて、まるで私たちが彼らの口を引き裂くのに十

分な価値のない物体であるかのように語ります。下品で下品なものは、まるで当たり前のことのように私たちに悩ませます。だから、もし私たちが注意を怠れば、私たちの生活を尊重しない愚かなペリシテ人の私生活を除いて、すぐに何も私的なものではなくなるだろう。小ブルジョアのペリシテ人は、私たちの生活ではなく、彼が属するテレビの前にとどまるべきだ、なぜなら、彼は手に入れるものすべてを汚し、乱用せずにはいられないからだ。現代の雄牛を防ぐためには、ペリシテ人を理解する必要があります。現代の雄牛はすでにい道のりを歩んできました、私たちがこれまでに許したよりもはるかに遠くまで来ています。一方、シュタージは、すでに何度か述べたように、その転覆の方法が悪い冗談だった。

パートCXXIX

このマニフェストは、不適切な理由で監視されている、または監視されていた人々への推奨は明確です:会話をしない、謝罪を受け入れない、許しをしない、忘れない。間接的に他人を殺そうとした人々は、それ以上の苦労なしに意図的な自殺を許したでしょうから、ターゲットが生き残った場合、ターゲットを全滅させる以外の何かを狙っていたと後で装うことは常に信じがたいことです。そのような方法で人々を侮辱した人々は、彼ら自身が絶対に容赦なく行動したので、慈悲に値しません。もし観察が中断されるのが、拷問者が首まで水に浸かっているからだとしたら、そうでなければ、それが何であれ、苦い最後まで観察が続いたことになる。不当な観察は、単にファシスト的ではなく、明らかに絶滅を目指しているという点でファシスト的である。なぜ、我々を破壊することに失敗したファシストと話すのか?そのために地上の地獄で何年も過ごした後、遅すぎる洞察を喜ぶべきでしょうか?会話も、許しも、忘れることもありません。私たちを観察している、または私たちを観察してきた人々は、常に私たちと話すことを怠ってきました。なぜなら、もし来るのが遅すぎると、せいぜい最悪の人生を送ることになるからだ、そうすれば、カルマへの信頼を完全に葬り去る必要はないからだ。観察した人は誰でも、もはや言説にアクセスする権利がありません。彼がそれにどう対処するかは気にしない、私たちがずっと彼に対してそうだったように。さようなら！

パートCXXX

もし私たちが絶滅観察用雄牛を罰しないままにしておくと、はるかに犯罪の少ない行為がなぜ罰せられるべきなのかを市に確実に説明することは不可能になります。ハンドバッグを盗んだ、泥棒だ。私たち雄牛は人々を中傷して自殺させますが、だからといって殺人者と見なされるわけではありません。あなたはただ正しいステータスを持っている必要があります、そしてあなたは合理的な手段として最大の犯罪でさえ分類することができます。資本主義は必然的にファシズム構造を生み出し、また当然のことながらファシストの役割に夢中になっている人々も生み出します。現代の雄牛は、これの多くの可能な例の1つにすぎませんが、それでもかなり良いものです。本当に効果的なファシストは、ファシストとしての自分たちの行動を全く反省することができず、それこそが、彼らを歩く時限爆弾にし、些細な出来事でさえ爆発させるのに十分なものに行っているのだ。ファシストには彼の優先事項があります。彼が狂気の世界観に従ってスケープゴートに会うことを確信できる限り、彼は千年の歴史を持つ愚かな楽園でシッケルグルーバーと一緒にソーダの素敵なグラスを信じています。もし烏合の衆が適切なスケープゴートを見つければ、彼らはそのチャンスをつかむ。わが国の非常に病的な公衆は、現代の雄牛による私的な事柄の不法な開示の責任が、決して傷ついた当事者に帰せられるのではなく、有害な烏合の衆として、彼の愚かさで無知から生じるすべての損害を引き起こす雄牛豚に帰せられるように仕組まれている。雄牛の豚が誇る道路の静寂は、非常に高く、目に見えない代償を払っています。悪い警官が放つ端麗な小ブルジョアの洗練さは、彼の自然な消臭剤である死体の臭いをかろうじて隠すだけです。

パートCXXXI

したがって、ここでほぼ徹底的に説明したように、権力は空虚で、なぜそれが権力なのかを私たちに伝えることができないとすれば、愚かな者が賢い者を辱めることが許

されるのは、彼らがそうするほど愚かだからだと結論するしかない。現代の警官の豚が、比較的平均的な非国教徒の伝記を再び壮大な刑事事件に吹き飛ばしたとき、ここで誰が何を止めるべきかを説明できないまま、悪い警官は愚かなサディストに過ぎないという事実に関心する。自分自身を確認されるのを見る。彼の被害妄想の中で、絶滅観察の雄牛は、存在しないトリックを私たちに手に入れたかったのです。それは再び自分自身を馬鹿にし、特別な理由でそれを駆り立てる愚かさを逃れる方法を必死に探しています。私たちはそれについて死ぬほど笑うことができますが、天国のためにこの種の人に好意を抱かせたくないの、それをしたくありません。しかし、マニフェストが最終的に余分な悪い警官に終止符を打つのに十分なほど強力であるかどうかという疑問はまだ残っています。

パートCXXXII

小ブルジョアジーは、つねによそよそしく、横柄で、侵略的であり、この環境の典型的な代表者ほど単純ではない幸運なすべての人々にとって、押しつけであり、嫌がらせである。問題は、人々が権力の前提条件であるはずの初歩的な知性さえ持たずに、多くの勤勉さを通じて権力を所有できるということです。この環境の押しつけがましい下品さは、現代の雄牛の誇大妄想と最も好ましくない方法で対応しています。だから、私たちは、大部分が頭脳を奪われた権力の中核が、人々の運命を決定するのを許してしまったのです。現実とは何かは、哲学者によって決定されるのをやめて久しいが、テクノクラートの精神医学の首謀者と、政治的に疑わしい社会化された規制権力の保持者とのディレクタント同盟によって決定されてしまった。高い地位にあるブルジョアジーは、共同体の正常性を何と考えられるかを決定する。このような不器用でたらめな決定のセーフティネットでは、反省は望ましくありません、なぜなら、それが正しい、敏感な場所で表現された場合、このお金に支配された愚かな権力装置のすでに不適切な安定性を実存的に危険にさらす可能性があるためです。これらすべては現状であり、そしてそれがそのままであり続けることを願っていますが、私たちは、私たちの不正システムの舵取り手が、特別なぐらつき抵抗を持つ椅子に自分自身を縛り付けているという事実を負っています。デカ野郎は、他のデカいクソ野郎とネットワークを築く才能を生来持っているんだ。このようにして、彼らは、暴徒がそのような椅子の脚にさえ近づくことができないため、誰かが自分の椅子の脚に小便をかけるのが難しいという事実の基礎を作りました。私たちは、これらの完全に平凡なシステムの王が一部のスーパーヒーローによっ

て王座を奪われるのを待つてはいけません、なぜならスーパーヒーローは存在せず、よくできた芸術と良いテキストだけがあるからです。私たちは、芸術は単なる娯楽であり、芸術の世界はコケティッシュなペリシテ人の余暇を甘くするためだけにあるという考えから離れなければなりません。優れた芸術は、違法な権力の核心を直接攻撃し、それが無謬ではないと感じさせなければなりません。ブルジョアジーの安心感は、誠実さを持った警察力という限りなくばかげた幻想に基づいている。非常に正当な理由から、警察は市に彼が好きな自分のイメージだけを提示します。しかし、警察官が実際に何をしているのか、何ができるのか、何が彼らを動かしているのかは、残念ながら暗闇の中であまりにも成功しすぎています。もしこのテキストが議論を巻き起こし、悪い警官を安全な隠れ家から追い出すことに成功すれば、テキストが他の方法で達成できる以上のことを達成できる。

パートCXXXIII

現代の雄牛がすべての弱々しい心を持つ小ブルジョアジー、
考え抜かれた疑似態度は、基本的には環境です。

本当に何も見逃さずに社会。唯一の

これらの強引で、押し付けがましく、迷惑な人々についてあなたが言うことができる良いこと
彼らは通常税金を払うということです。この議論の余地のないものについて

このような状況を除けば、小ブルジョアジーは、生産的で建設的なものは何一つない。

それは味がなく、他の生き物やこれらに対する本当の思いやりはありません

わずかな感度でもありません。そして、すべてのものを除いて、特別な能力はありません
目覚まし時計に乗るには、標準ほど愚かではありません

小ブルジョアのペリシテ人自身。小ブルジョアジーは嫉妬深く、粗野で、利己的で、

自己中心的で、残忍で、貪欲で、卑劣で、ほとんど自分自身のためだけに存在しています

遺言。部外者にとっては、恥ずかしすぎて本当に感じるできない恥ずかしい光景です

それについて自分自身を楽しませることができるよう。小ブルジョアジーは、いわば言語も使います
それは何も理解せずに反省せずにすべてについて話すので、取り返しのつかない損

害を引き起こすだけです。小ブルジョアジーがまったく話すという事実そのものの彼の話す能力は紛れもない対照をなしているので、驚くべきものです。彼が言うことすべてに。プチブルジョアとは、人が感じるタイプの人です。彼に会うという不運に見舞われるたびに、あなたは尋ねます:それは本当にそうでなければならないのですか?なぜそのようなものが存在するのですか?それが存在しない方が誰にとっても良いのではないのでしょうか?それ小ブルジョアジーは、あらゆる知的生活に対する大きな押し付けであり、侮辱である。なぜなら、小ブルジョアジーがいなければ、ほとんどすべてがより良いものになるからです。それによって生成された税収社会からの距離、確かに他の方法でそれを行うことができます。州の財源をフラッシュします。小ブルジョアジーがすべてのものに圧倒されているのは迷惑です。何十年も経った今、それはもはや私たちの時代に全く適合しないからです。小ブルジョアジーは、決して問題解決者ではないが、彼の愚かさは押し付けがましさ自体が、最終的に持続的に解決しなければならない問題です。人口の大部分は、デジタル化によって愚かになる可能性が高くなります。そこから何らかの形で利益を得ることは、実際にはそれと関係のない小ブルジョアジーを巻き込む。彼に同情するために。たとえば、真のプロレタリアは、小ブルジョアジーを忌み嫌う。プロレタリアは、偽りの、尻を這う、不誠実な小ブルジョアジーも、同じくらいすぐに他のすべての人と同じように、愚か者よりも優れたものを持っていることを認識し、公開します。小ブルジョアである。少なくとも、小ブルジョアジーは他人と交際することを禁じられなければならないだろう。人々を小ブルジョアとして楽しませることは、すでに多くの利益を得ているだろう。それ小ブルジョアジーは、なぜわれわれがそうではないのかをまったく教えてくれなかった環境である。好きになるはずです。それは、理由を一つも提供できないまま、好かれないのです。さらに、小ブルジョアジーが自分自身と人について語るとき、彼はすべてのことを仮定します。彼のように、社会は彼のような人々で構成されていましたが、なぜなら精神疾患があるからです。小ブルジョアの自分を正常で健康だと考える一方で、彼はすべてのものよりもさらに進んでいます。他の人とこの距離を達成する客観的なチャンスはありません。近い将来に。われわれは小ブルジョアジーを贖うことはできない、なぜなら、それが彼の目的だからである。あまりにも愚かで、あまりにも有害です。私たちが小ブルジョアジーを問題化できるのは、それが社会的には、その存在を何らかの意味を持つものとして、あるいは次のように分類する方法はありません。ある程度は役に立ちます。小ブルジョアジーはしゃべる動物であり、愛する動物です。神は話す能力に恵まれていない方が良かったでしょう。しかし、今や小ブルジョアジー残念ながら、彼が私たちの神経を逆なでしないと、彼は私たちを退屈させすぎます。彼らの決まり文句で死ぬ、それは彼が動物の中で賢いものよりも欠けているという常識

であると考えています。下品でおしゃべりな小ブルジョアジーを見ると
期的には、真剣な議論や事柄から、私たちは
現代の雄牛を取り除くチャンスはありません、なぜなら悪い雄牛はただ
彼が生まれた小ブルジョアジーが彼を支え、養っているからこそ可能であり、
彼の嫌悪感を抱く雄牛の生活を通じて、最終的には誰も利益を得ることはありません。
改善は理性が必要な方向からのみ可能であり、
理性は偶然ではなく、もっぱら人間の能力です。しかし、もし
小ブルジョアジーは、それ自体が理性を持たない人であり、この証拠があります
それ以上に、それは人間の現在に有意義に統合することはできません
成る。プチブルジョアとは、他人が十分でないときに生じるタイプの人です
不必要ないたづらをしないように注意してください。なぜなら、小ブルジョアジーは彼もそうだと疑っているからだ
彼は黙っているのではなく、ただ声を大きくして、私たちが連れて行きたいと思っています
その鈍い轟音は、関連性があると分類します。しかし、それはまさにそれです
世界で最高の意志では不可能です、なぜなら、私たちはなぜ私たちが待っているのかを非常によく知っているからです。
ちっぽけなブルジョアのたわごと。小ブルジョアジーとは対照的に、私たちは誰と取引しているのかを知っています
そして、どのような理由で私たちはそれを断固として拒否しなければならないのか。ザ
小ブルジョアはNGであり、私たちが彼にふさわしい冷たさを早く与えるほど、
彼と彼の悪臭についに別れを告げる可能性が高ければ高いほど
無料。だから、もし我々が厄介な小ブルジョアジーを鎮めることができれば、それはまた、
現代のブルブタはもはや多くを語ることはありません。それが地上の楽園なら
どこかで、そしていつか、私たちはそれについてただ一つのことしか知らない:それは小ブルジョアを含んでいる
絶対に違います。

パートCXXXIV

下層部では、新進気鋭の人が自分の出世を自慢することを許す場合にのみ昇進を許可する家族がいます。そのような起源は、成 する人々、またはそれを超えて成 した人々にとって常に負担です。なぜなら、彼らが残された人々との接触を維持することができれば、彼らの行動や発言で原産地の原始的な規範に違反しないように常に注意しなければならないため、彼らがそれから自分自身を分離したり、環境自体によって孤立に追い込まれたりした場合、環境グループは、彼らを成 させた人々をあらゆる手段で泥に戻そうとします。彼が去ったのには正当な理由があります。ですから、その起源の匂いからあまり遠く離れていない人は、より簡単に逃げる可能性がある可能性が非常に高いで

す。しばらくすると、原始的な環境で自分の命を殺そうとさえしている人々にとって、状況は比較的容易になります、なぜなら、彼らはひどく屈辱を受けた人々が最終的に自分自身の方法で反撃するという事実単純に耐えられないからです。どう考えても、これは階級の境界とプライドの感受性に関するものであり、世界最高の意志を持っても、もはや自分の出身環境を真剣に受け止めることができなくなったすべての人々に不安定な結果をもたらす可能性があります。基本的に、人類のすべてのルールに違反した人々は、客観的に見れば、もはやそうする権利が少しもありませんが、人間のように扱われることを要求します。境界を越えることは、特に原始的な環境にとっては犯罪ではなく、一種の些細な犯罪であり、現代の雄牛の豚によってもそのように見なされ、支持されています。このような狂ったブルジョアの家族は、まぶたを打つことなく、たくさんあったかもしれない人を精神的に病気の早期退職者に変えることができますが、主なことは彼が成功した人であることを防ぐことに成功しているということです。野蛮人は常に、彼らのクランメンバーを有用な人々として描写することを可能にする野蛮な物語を必要としています。野蛮な家族は、伝記に積極的かつ陰湿に介入する中世風の権利を自らに傲慢に主張し、通常は彼らを破壊し、永久に妨害するという形で。同様に野蛮な警察の支援を受けて、人生が押しつぶされている人に物理的に見えるようにならないように、人生を押しつぶすために通過しなければならないすべてのドアが彼らに開かれています。なぜなら、現代の精神科医の豚は、ブルジョア家族が破壊の妄想の目標を妨げられることなく選ぶことができるようにするために必要な診断を提供しているからです。これは、より良い厩舎から来るのに十分幸運な人々にとっては非現実的または誇張されているように聞こえるかもしれませんが、残念ながら、それはちょうど説明したとおりに機能します。ブルジョアの家族は、ライフスタイルやソーシャルネットワーキングを通じて、実際には自分たちのビジネスである野蛮さを隠す方法をよく知っていますが、肝心なのは、この不誠実なシステムが暴露され、克服されるすべてのケースについて幸せになることができるということです。自分の家族の生活をむやみに、故意に破壊するブルジョア家族は、のんきな生活をする権利を失う。何らかの理由で特別な権利があると思っているために、人々に残酷なことをする人々は、彼らが全体的に嫌な人々ではないと主張することは決して許されるべきではありません。特定の人々に対して、他の人々に対してより残酷であることは、すでに厳格な国家社会主義者であり、そのようなことを実践する人々は、決して自分の残酷さを正当化することから自由になってはならない。現在、そのような嫌な氏族は、露出するリスクをできるだけ低くするために、現代の雄牛と密接に協力しています。このマニフェストは、嫌悪感を抱く人々をありのままに描写し、彼らに苦しむ人々のために彼らが代表するまさにその地獄に彼らを送るという嘆願です。一族が良くないが、それがたわごとの荒廃した山であることを大声で言うことが許されていない場合、あなたはたわごとの山がたわごと臭いことを確認するためにさらに戦わなければなりません、そうでなければ、野蛮人は常に目標による自殺で逃げるでしょう:アルコール依存症、うつ病、失業。ここでは、アルコール依存症、

うつ病、失業の原因を、陰湿で臆病な行動で、多大な努力で明確にしなければならない、さもなければ、最大のろくでなしは21世紀に歴史を書くだろうし、巨大なろくでなしの優位性に耐えてきた人々ではない。これらすべてにおいて、多くの小ブルジョアジーと惨めな警察の仕事があり、司法と精神医学の完全な失敗もあります。ですから、将来、野蛮人による自殺も野蛮人による殺人と見なされ、誰も何もできない単なる後悔すべき自殺ではないことを確認しましょう。自殺の理不尽な扇動は殺人に他ならず、殺人が行われるところには殺人者も存在し、殺人者は正義に属しているか、すぐに自分自身を裁くのが最善であるべきです。ここでやるべきことはまだたくさんありますが、おそらくマニフェストは出発点です。

パートCXXXV

だから、この国では、現代の雄牛と非常に良好な関係を持つ、下品で、不謹慎で、究極的には完全に野蛮な環境の山を扱っていると、正当に推測できる。リンチは、特に農村部では日常茶飯事であり、弁護士や裁判官もこのことを認識しており、制裁の脅威がない限り、一緒に行動しています。メンバーを自分たちの種族として受け入れないクランは、責任を問われることなく、彼に対してやりたいことを何でもすることができます。現代のブルブタが、ある種のプレッシャーを感じると一瞬で一瞬でまともな警官に変身するのと同じように、最もめちゃくちゃな絶滅観察のペリシテー族は、ハエを傷つけないと主張する

一瞬で誠実な家族グループに変わる。これらすべては不快で嫌悪感を抱かせるものであり、だからこそ、若い知的な人々には、二度と見られないように、そのような地域を離れるように常にアドバイスすべきです。先住の素朴な方言でさえ、方言は常に特定の基本的な態度であるため、注意するように警告する必要があります。方言を話す人は、物事を最後まで考え抜くことが彼の得意分野ではないため、偏狭な偏見の閉鎖的な宇宙に住んでいることがよくあります。農村部の残酷さや残虐行為を経験した人々は、農村部の野蛮さを思い出させるものに対して全般的に嫌悪感を抱くようになります。無害な農夫が座っているトラクターでさえ、しばらくすると私たちの嫌悪感を呼び起こすことがあります、なぜなら、動物よりも人間に対する敬意が少ない世界は、尊敬はおろか、注目に値しないからです。高校を卒業して地方を離れた若者は、大都市で地方が嘲笑される傲慢さにしばしば驚かされます。この傲慢さは、愚かな田舎のバンプキンが何ができるかを考えると、まだ穏やかな拒絶の形であることは、多くの人が後で気づくだけです。アドルノは、都市性は教育の一部であり、それに付け加えるものは何もないと述べた。田舎には主的な権利や法律はありません。最も多くの領土を掌握した氏族は、中世の封建領主や今日の世界のマフィア協会のように、自分たちの領土を支配しています。農村部では、法の支配についての議論はなく、最も強い者の法律のみがあり、弱い者には勝ち目がない。矛盾に巻き込まれることなくドイツの州について言えることは、そこには美しい風景があるということです。一方、人々の間で起こることは、ほとんどの場合、理性とはほとんど関係がないため、安全に無視できます。しかし、ここに住んでいると結構です!

パートCXXXVI

私たちはい間、対応する教育を受けずに多くを所有している成金を知っています。さらに、21世紀には、過去数十年を見れば、絶対的かつ致命的な一貫性を持って舞台に登場する、または彼自身の権威で舞台に登場して久しい新しい権力者がいます。彼の観察技術で、初心者は彼がほとんどビジネスを持っていない環境を漂います。絶滅観察の雄

牛は、このように、彼の限られた小ブルジョアの頭脳が決して理解できない会話に完全に違法にアクセスできます。これがうまくいかない可能性があることは明らかであり、証明する必要はまったくありません、なぜなら、ペリシテ人が一斉に、そして他人の生活に許可なく専門化した東ドイツですでにそれがあったからです。悪い警官の主な問題は、彼の露骨な愚かさだけでなく、彼の愚かさから罰と監視の美德を作り出す彼の信じられないほどの厚かましさであり、それは客観的な欠陥です。この傲慢さと、悪い警官からこの偽りの美德を買う国の無知が組み合わさって、本当の災難である。したがって、現代の雄牛の侵略は、常に、それがまったく場所のない世界にアクセスするという事実にあります。雄牛の豚は、彼の巨大な軽率さに中傷を加え、まるで最高のヒーローであるかのように走り回りますが、これ以上臆病な敗者は想像できませんでした。悪い警官は文明の破壊者です、なぜなら必然的にそのルールを理解せずにその中にぶら下がっているすべての文明を破壊するからです。さて、私たちは、そもそも小ブルジョアのペリシテ人を観察する必要がないからといって、彼らについてのほとんどすべてを知るために非難されることはできない。ペリシテ人を理解している私たちを責めることはできませんが、ペリシテ人は私たちを責めません。そして、ペリシテ人が私たちを理解していないからといって、私たちを包括的に観察する権利はありません、なぜなら、もし彼らが観察する前に会話を求めていたら、私たちは彼らが理解したかもしれない答えを彼らに与えようとしたでしょう。一方、もし小ブルジョアのナチス・ペリシテ人が、対話を求めることなく何十年もわれわれを監視し、中傷してきたとすれば、われわれはもはや彼を建設的に扱う理由がない。い間破壊的な行動をとってきたのに、突然建設的なふりをする人は信用できないし、彼が私たちから盗んだもの、つまり人生の年月、人生のチャンス、生きる喜びを取り返しのつかないほどに消し去ったので、ずっと失敗してしまったのです。

パートCXXXVII

小ブルジョアのペリシテ人の生活は、二つの恐怖に基づいている:すべてを見逃しながらも、他人は自分よりも裕福かもしれないという恐怖、そして、この愚かな恐怖を知らな

いために、他の人々は本当に裕福なのかもしれないという恐怖だ。思考の流れはかなり複雑ですが、したがって、ペリシテ人の脳が最高速度で走っているときに考えられているペリシテ人の思考よりもすでに要求が厳しいです。ペリシテ人は、常に不足することを恐れる人であり、自己実現的な予言は、彼が 期的に、あらゆる点でそうすることを望んでいます。ペリシテ人は永遠に取り残された者であり、取り残されたことで他人を非難するが、この恐怖は再び事実の実際の適用を支持する。ペリシテ人は力づくで何かに属したいと思っているが、それが何であるべきかを正確には知らないし、力による帰属があまりうまくいかないということも知らない。合わないものは合うように作られるべきであり、まさにこの態度こそが、最終的に何も収まらないことを保証します。これは、より大きな都心部を虎で移動する男性の農村グループでもよく研究できます。彼らは地獄や高水で何かを体験したいと思っていますが、この希望は、冒険へのほとんど同情的なぎこちない渴望と相まって、あなたが自分自身の中にとどまり、最終的にこの奇妙さを克服するために、最後はかなりたくさん飲むことを保証します。

パートCXXXVIII

駆除観察牛ブタの最高規律は表情イジメ。ターゲットの表情が大声でコメントされます。クラスメートに苦しめられるという不幸に見舞われた生徒のいじめのようなものを想像することができます。現代の雄牛は愚かですが、心理的恐怖を完璧にマスターしています。だから、ターゲットは最も下品な方法で四六時中侮辱され、ターゲットの行動や発言はすべて悪意を持ってコメントされ、殺害の脅迫が行われ、絶滅観察の雄牛豚は切断の空想にふけり、ターゲットは詳細を惜しまない。私たちは い間、悪は平凡であることを知っており、悪い警官もこの洞察を確認しています。しかし、サディスティックな愚か者の大群にいじめられているターゲットは、翌朝寝るときに目が覚めることが確実にできれば、彼らが絶対的な愚か者であるという事実で自分自身を慰めることはほとんどできません。絶滅観察用雄牛は、その行動と行動のすべてにおいて、心理的暴力の極限を象徴しており、観察後にこの状況を軽視する機会を決して得ることを許してはならない、なぜなら、絶滅観察用雄牛は、それがどんなに手入れが行き届いていて、小ブルジョア的に育てられているように見えても、その目的のためには地上の地獄であるからである。野蛮人のトリックは、実際には存在しない文化を装うことだ。SS隊員も非常に身だしなみが整っており、さらに悪いことに、時には膨大な教育を受けていたことさえありました。しかし、教育を受けた人々は基本的に他の人々よりも残酷ではないというテーゼは、ここで提唱されたこ

とは一度もない。もちろん、社会科学や人文科学の学生の間では、いじめや壊滅的な評価の低下もあり、そのような有害な気分が教授によって許容されるだけでなく、率直に奨励されることも珍しくありません。彼らのうちのかなりの数が学問的なキャリアを放棄することさえありますが、もっと愚かではるかに遠くまで行く他の人々がいなければ、それを防ぐことはほとんどできなかったでしょう。いずれにせよ、最大の責任は常に、よりよく知るべきであり、未知の理由でこの能力をよりよく知るために実際に活用していない人々にあります。教育を受けた階級もまた、不誠実なパターンに従って機能し、彼らの中でさえ、最高の思考の質が必ずしも勝利を逃れるとは限らない。量と成功したファサードは、品質だけが関係するはずの場合でも、多くの場合、品質よりも優先されます。これらすべての根底にある問題は、人々が不在の人々について話すのが好きで、慈悲深く話すことはめったにないという事実です。彼らが最終的にすべての尊敬を失った場合、彼らはもはやその場にいる人々ととどまらず、決して対立するのではなく、常に可能な限り臆病です。

パートCXXXIX

今でも、戦争を防げない男たち、21世紀に精神的に到来したことの無い、嫌な、昔ながらのクズ野郎どもが再び大半を占めている。現代の雄牛の豚は、事前に精神医学的に検査されることなく、そしてもしそうであるとしても、不適切な方法で武器とバグを自由に使える愚かな男の原型です。彼らは、世界中で安定した方法で自分自身を確立した有毒な男性のグループです。彼らが仕える支配者に反抗できない男たちに支えられて、深刻な危険に巻き込まれることはありませんでした。無知なろくでなしのために命を危険にさらすことをいとわない兵士がまだいるという事実は、たとえあなたが正確には世間知らずでなくとも、あなたを驚かせるかもしれません、なぜならそれは常に同じだったので、今では以前の状態に戻っています:経済的、地政学的、その他の権力的利益のために、過ちを犯した若者は燃え尽きています軍隊に奉仕することであり、歴史から学ぶことができれば、私たちの世紀には実際にはもはや存在する必要はなかったでしょう。また、マスコミのセンセーショナリズムの下で、現在、冷戦が提供しなければならなかったものよりもさらに野

蛮なものとして描写することもできる、なぜなら、冷戦には少なくとも二項均衡があったからであり、今日では、すべてがより混乱しており、歴史家が10年後にそれを決定的に説明できなければ、どんなハエも簡単に象になることができるからだ。スポーツは違いますが、ミスも後から分析され、多額のお金がかかっていますが、最も物理的な意味で自分の命を直接犠牲にする人はいません。グローバルな一系制がより平和を愛するものになるかどうかはまだわかりませんが、多くの点で完全に異なることは間違いありません。今日の戦争行為は、人間がいまだに世界の出来事に弄ばれていること、その一部はすでに半ば老衰していることの何よりの証拠であり、これが異なるような時代は見当たらない。現代の雄牛が文明を不可能にし、小さな規模で汚し、虐待するように、強力な政治家は世界規模でそれを行います。彼らは皆、仕事帰りのビールで会いたくなかった人たちです、なぜなら、彼らの毛穴からは、ずっと前に歴史になるはずだった家父一系制の破壊性が臭いからです。理性的な人々が、このような不潔な人々と外交的に交渉することを余儀なくされているのに、特に彼女たちが頭の中ですでに百年先を行っている女性である場合、うらやましい必要はありません。金持ちを食べ、白人を皆殺しにし、自分を破壊するものを破壊しろ!

パートCXL

平和主義は難しいテーマです。今日の平和主義者は、顔を平手打ちされたときにもう一方の頬を向けるクリスチャンであるとは決して限らない。一方、ドイツの平和主義者は、多くの場合、共産主義者であったり、多くの場合、頑固な左翼、反帝国主義者であり、愚か者が権利のないものを武力で奪うことに反対する人物である。しかし、共産主義思想の先駆者たちは、共産主義につながる社会主義は、物理的な力なしにソフトな手段で構築できると信じていたという意味で、決して平和主義者ではありませんでした。スターリンは、この文脈では、主の御前で精神異常者として捉えられるべきではない、なぜなら彼は誇大妄想的な被害妄想者であり、多くの点で共産主義者というよりはファシストだったからである。共産主義に真剣に取り組んでいる人々が効果的であると想像した革命は、非暴力とは考えられませんでした、なぜなら、権力者と所有者、そして権力者と権力者たちは、いずれにせよ、自分の自由意志による特権を決して放棄しようとしなからずからです。平和主義

の共産主義者の政治的態度に至る矛盾は、暴力の少ない社会は、非暴力的な手段によって完全に確立することはできないという事実である。私たちは、システムを完全に非暴力で打倒し、それをより良いものに変える必要はありませんが、私たちの影響力と領土を拡大するために、他の人々を戦争で脅かすことは決してありません。だから、私たちは大声で乱暴で、特にひどい大物をヨルダン川の向こう側に送り込むが、その後、私たちは一日の終わりまで平和と一緒に暮らし、私たちの不法なニーズを他人に優しく任せる。革命が要求する暴力、すなわち、他の国家、族、族集団に対する暴力に対しては、明確な「イエス」、戦争は全くのナンセンスであるから、しかし、数十年後、世界社会は、戦争後、あらゆることが常に、どこでも、以前よりもはるかに悪くなり、何も変わらないということ、何度も何度も忘れてるように見える。若き日のブレヒトでさえ急進的で、特定のケースでは集団に対して犠牲を払わなければならないこと、したがって、すべての人の利益のために個人を平らにすることは全く正当なことであると確信していた。彼は高級車、女性、葉巻と良い話をしました。サルトルはまた、今日の共産主義者でさえ、彼らが賢いなら奇妙に感じるかもしれない方法でソビエトの疑似共産主義を擁護しました。アナキストの平和主義者として、暴力がどんな形であれ、根本的に愚かだと思うなら、私たちは状況から外れている。ただ残念なことに、イエスと言う愚か者、期的にはあらゆるものに不利な愚か者が、より大きなアナキストの共存に対する永遠の障害となるだろう。それにもかかわらず、私たちは打倒を夢見ているだけでなく、小規模な改革可能性に固執し、必要であれば、人々の生活の価値を下げ、乱用し、軽蔑し、道具化する時代遅れの構造を置き換えることに固執しています。遅くとも、プーチンが何十年にもわたって、世界社会からどれほど途方もなく、悲愴に過大評価されてきたか、私たちは皆知っている。現代の雄牛は去らなければならないが、プーチンも去らなければならない、そしてすぐに。そのためには、サブカルチャーのアートと政治的な集団が、たとえ全員が個人的には知り合いでなくても、団結する必要があります。左翼党が砂の中に置き去りにした「立ち上がり」運動は、運動が正確に計画できないからではなく、「まあまあ、本当にもうやめよう」という気分から、機能することができなかったのだ!生じる。しかし、これらすべての問題は残っており、願わくば永遠にはそうではないことを願っています:いったい、より良いコミュニティのためのアイデアが、期的にそこで自己主張するために、学者の心から街頭に出て行く方法を見つけることができるのでしょうか?キューバは初期の頃は良い例だったかもしれませんが、計画経済は、世界の他の場所と同じように、順調に始まった試みを壁に駆け立てました。ですから、私たちが資本主義とともに死ぬのか、それとも資本主義によって死ぬのかという疑問が残ります。

パートCXLI

私たちが い間知っていたように、現代の警官の豚は、私たちが い間知っていたように、武器やバグの使用に十分な知性を持っていませんが、ドイツ人、したがってヨーロッパの警察当局の汚名ネットワークを持っているため、非常に大きな範囲を持っています。強気のスティグマを、とにかく何もすることがないよりは少ない方がいいというサークルで起こることだと考えることはできません。強気のスティグマは、左翼のオルタナティブやクィアの文脈にも及んでいます。サブカルチャーには、どんなに小さくても、無批判な主流派に属するグループや、エリートの中のエリートを形成するグループも含まれます。比較的知識人であっても、必ずしも最も内省的な人がトーンを設定するのではなく、トーンを設定するのが得意な人です。このように、現代の警官の豚は、警察に対してより批判的な環境の主流に常に汚名を着せています。悪い警官が作り出す汚れは決して効果がないわけではありません、なぜなら、世界中の人々は、彼らが彼らについてどれほど知らず、したがって実際に言わなければならないにもかかわらず、人々について話すのが好きだからです。現代の雄牛のアプローチが基づいている戦略は単純です:それは、もはやそれほど騒ぎ立てないサークルに、騒ぎ立てる会話がどれほど影響を与えるかを知っているので、暴徒の宿泊ニーズに応えます。誰かに泥を投げつけたいのであれば、考えるよりも話す方が自然と簡単だと感じる人々と一緒に、底辺から始めるのが最善です。あなたがより高い位置から始めると、雄牛の豚が発見されるリスクは高くなります、なぜなら、全体として、あなたはより頻繁に考える人々が愚かなことを言うことと仮定することができますが、これは経験的に実証することができない統計的な仮定にすぎません。現代の雄牛は、彼自身が部分的には職業の汚れからのみ汚れているため、期的に純粹で無垢でいることはほとんど不可能であるため、汚れる方法を最もよく知っています。しかし、これはシステムと、主主義が地位と財産に基づいてそれを買う余裕のある人々だけを平等に扱うという事実によるものです。私たちの社会は大きく分けて4つのカテゴリーに分けることができ、階層化することもできます:一番下にあるのは教育や所有物を持たない人々、次に何かを所有しているがほとんど知らない人々、次に多くを知っているが少し所有している人々、そして最後に多く知っていて多くを所有している人々です。後者は、私たちが想像で

きるように、現代の雄牛が自分の 親を犠牲にするものです、なぜなら彼らだけがトーンを設定し、原則として何が起こるかを決定するのは彼らだけであり、特定の領土で善と悪がどのように定義されるかを決定します。マスコミがここで秩序を生み出さないのは、それが自らを腐敗させ、その製品が十分に頻繁に読まれ、購入されることに依存しているからだ。ロシア大統領が行っていることを現在、間違っていると非難できるのと同じくらい明確に、間違ったことが間違っていると受け流すことができるという事実は、私たちの混乱した世界ではむしろ珍しいことですが、彼の思考と行動の時代遅れの性質のせいにすることもできます。今起きていることはあまりにも非現実的であるため、最大の問題の1つはそれを現実として受け入れることです。私たちの地球のあらゆる平方センチメートルがマッピングされていますが、現在、この無意味でばかげた余分な戦争を防ぐことができる力はなく、それを止めて減速させる力さえありません。また、裕福な国での警察の心理的暴力について考えることが依然として適切かどうかという疑問を投げかけることも正しく、他の場所では人々が爆弾によって引き裂かれないように地下鉄のシャフトに座っています。しかし、最も基本的な必需品が不足している非常に多くの患者に直面して、世界的な観点からは無関係であるという理由だけで、私たちは毎日仕事をやめることはできません。このマニフェストは、ある種の警官をもっぱら有害で破壊的な存在として暴露し、その結果、彼から他の人々に対するいかなる権力も奪う機能を持っている。これは、代議制主主義のふりをしている繁栄した国でも必要であることは明らかです、なぜなら、私たちは単に私たちの生活に雄牛の豚を持ちたくないからです、ちょうど私たちが彼らを虐待したすべての人々が彼らを治療したよりも薄い空気に消えることを望んでいないのと同じように、彼らを虐待したすべての人々が結果として不当に良い評判が損なわれないように、薄い空気に消えることを望んでいません。会計士が大きな間違いを犯した場合、彼は解雇されることを覚悟しなければならないのに、なぜ警官と精神科医にとってもそれが異なるのでしょうか?なぜ私たちは、ほとんど難攻不落の安定性に身を置いた専門家グループを持っているのでしょうか?私たちがそれを持っているのは、その背後に道徳や倫理とは何の関係もない巨大な利益があるからです。彼らが信じられないほどの罪悪感を持って歩き回っているすべての人々を守るができるように、なぜなら彼らは大きな不正の中で自分自身を快適にしてしまったこと、そしてこの快適な生活のために、彼らが個人的にはほとんど関係のない他の人々が非常に高い代償を払うことを理解するのに十分賢いからです。あるレベルでは、富は自動的に犯罪者になります。人々がばかげた金額を所有していて、それを一切与えない場合、彼らは通常、撃たれたり処分されたりするリスクがはるかに小さいという事実を除けば、彼らと高位のマフィアとの間に大きな違いはないことを自分自身で知っています。

パートCXLII

すべての絶滅観察牛豚は、基本的に、喜びのない生活を送るすべての人々を憎み、羨ましがる小さなプーチンです。悪い警官は、彼が守るべき自由 主義を憎んでいる。彼は充実した人生を送ることに成功していないため、この退屈さから抜け出す方法は、人生の喜びをより才能のある他の人のために台無しにする以外に方法はありません。小さなプーチンが自由世界の敵対者であるのは、彼がそれを理解していないからであり、彼がその規範や原則を理解できないからであり、文明の概念を理解していないからであり、ただ自由の匂いがするすべてのものを地面に破壊するというファシズム的な衝動だけだからです。絶滅観察用の雄牛は、その一般的な破壊力のために私たちがおそらく哀れむことができない貧しい吸盤です。現代の雄牛に効果的に対抗するには、形勢を逆転させ、私たちがその存在方法を軽蔑し、それが私たちの存在を軽蔑していることを示すことしかできません。しかし、違いは、雄牛は全国的に私たちを中傷することができるのに対し、私たちは彼の精神性を良いテキストで示す機会しかないということです。すでに述べたように、監視下にある人々のためのものではないわが国の立憲国家は、この防衛技術の禁止を考慮せずに、私たちがそれがいかにくだらないものかについて書くことが許されているという事実によって評価されなければならない。ブルピッグ宣言がインターネット上で公開されているという事実は、表現の自由が機能していることを示すものと見なさなければなりません。しかし、表現の自由は、それを利用する人々が望むだけ く、集中的に屈辱を受けることができることを意味するものであり、特に緑の党と社会 主党が現在政府の責任を負っていることを考えると、リベラルな立憲国家に私たちが望む自由の形態ではありません。現在ヨーロッパを大規模に苦しめている戦争は、現代の雄牛の型にも小規模で見られる心理に基づいています:国境を越えること、すべてにおいて正しくありたいという愚かな衝動、他の人々の市民的自由に対する冷酷さ、理解されていないものを許容しなければならないのではなく、究極的には破壊したいという願望。国家が非難されなければならない間違いは、私たちが今、自分たちの仕事を理解し始めさえしない、そして私たちが彼らに尋ねても、彼らが正確に何をしているのか、どのような理由で私たちに説明できないであろう、境界線上の愚かな銃

の運搬人やバグユーザーの山に耐えなければならないという事実です。私たちは、実際に監視できる装置の中で、それ自体が生命を帯びた構造を扱っており、下品な犯罪者に過ぎないにもかかわらず、警察でそれが正常であるかのように働いている人々を扱っています。すでに何度か言われているように、これらすべては、この警察をまったく知らないために盲目的に信頼しているブルジョアジーもいるからこそ可能になるのです。これらの警察は、何かが起こったときや起こったときだけでなく、私たちが彼らを望んでいない、または必要としていないときにもそこにいます。この警察は、陰湿で、狡猾で、無分別で、虐待的で、全く不謹慎です。ですから、少なくともプーチンの国やベラルーシで見られると思われる部分では、警察があります。私たちは、犯罪を防止するためではなく、他の警察官が防げない犯罪を、私たちが知らない理由で犯すために、とっくの昔にすべての国境を越えてきた警察力を持っています。私たちは無知によって、現代の雄牛を自ら生み出してきたのです。今、それはそこにあり、それが滞在する権利を持っていると想像していますが、それは教育の火花さえ持っていないことを私たちに常に証明しています。しかし、この州には、私たちの無条件の軽蔑に値する人々がいると確信できれば、おそらくそれは利点でもあります。コールがいなくなったとき、多くの風刺作家は彼らの仕事に対する安定した基盤を失った。もし現代の雄牛を思い浮かべることができたら、数日後には、いったい誰がこんなに熱心に憎むことができるのか、自問自答するかもしれません。現代の雄牛は幻想ではなく、常にそして間違いなく戦う価値のあるタイプの人です。悪い警官は、私たちが想像できる最も無礼な人物であり、私たちが最も避けたいことは、この計り知れない無礼の前で泣き崩れることです。現代の雄牛は権威ではなく、生きる権利のない官僚的な怪物です。

環境の境界の可視性は、ボトムアップで強化されます。不安定な環境は、一般的に実存的な愚かさに凍結され、いわば、全世界のために自分自身を取る傾向があります。不安定な環境のメンバーは、異なる生活を送っている人々がいて、彼らはより多く、より良く買うことができるかもしれませんが、一見見えるもの以外に彼らと彼らを区別するものを認識できないことがよくあります。この不十分さこそが、低い地位が再び確認され、強化されるのであり、微妙な違いを認識し尊重することができないからこそ、環境の境界の正当化と正当性が確立されるのである。彼らが言うように、**Milieus**は彼らの影を飛び越えることはできませんが、いわば、関連性があると考えられるものと関連性がないと見なされるものの言説に自分自身を制限します。これは、個別に議論する必要のないルールにより、環境のメンバーが自動的にこれらの目に見えない一連のルールに成り立ったためです。微妙な違いを認識し、育てることは、比較的高い位置から社会のパノラマを見る人のために予約されています。環境内のトピックの範囲は、対応する受信習慣に直接対応しています。今日では、あなたは彼らの家を動かしているものを見る必要はありません、なぜなら彼らは通常、あなたがそれについて彼らに尋ねる必要がある前に、ソーシャルメディア上の彼らのマナーを通じてそれを明らかにするからです。だから、インテリゲンチヤは、ツイッターで最高のオチをつける一方で、その知恵は、敗北し、非常に裕福ではあるが、自己宣伝の光沢に疲れ果てた、同じように移動している人々によって、その知恵が主に認識されていると比較的確実に想定できる。私たちは、自分の存在の提示可能性に焦点を当てる人々と、他の人々にとっては存在自体とその結果生じる相互作用の可能性に焦点を当てる人々との間には、ますます明確な違いがあることを認識する。カメラの前で専門知識が求められるときに、いまだに一貫して本の壁の前に姿を現す学者は、すでに時代遅れで、時にはかなり愚かに見えます。なぜなら、頭の中にあったことが読んだ本の数と直接関連しているように見えた時代は、ありがたいことに、神よ、終わったからです。真面目な専門家の習慣は、心地よい運動能力を獲得し、際立った控えめな表現がついに彼のお尻から棒を引き抜いた、いわば。人が何であるかは、彼が何を言わなければならないかにかかっており、もはや彼が適切なスマートスーツやネクタイを着ているかどうかではありません。なぜなら、古典的なハビトゥスがまだメダルのように展示され、取るに足らない上流階級のゴシップで多くの会話が尽きてしまった過去とは異なり、深刻な問題を解決するのに役立つ可能性のある手に負えない事実の関連性が出現するのを見るからです。明日も生きているかどうかわからない大統領が、なぜ自国が爆撃されて瓦礫と化しているのに、昔ながらの政治家のように振る舞う必要があるのだろうか。不安定な世界情勢の厳しさと誇張は、少なくとも自惚れずに行うことができますという意味で、プラスの効果をもたらしているように思われます。危機的状況の切迫感と脅威状況の純粋な苦痛は、すでに時代遅れになっているグローバルな政治言説をその装飾性から根本的に解放している

ように思われる。宗教や 間伝承によって押し付けられる儀式は、まるで薬物の影響下にあるかのように、恥ずかしいことに状況に直面する能力が不足しているだけでなく、人間の生活が退屈なカーニバルのパレードであるかのように、自分の無能力を祝う、フックに閉じ込められている人々のためのものであるようにますます思われます。現実逃避は常に正当なものです、なぜなら、人間の生活はほとんどの人にとって正しいことよりも悪いことの方が多いからです。しかし、それは私たちが存在の恐怖にもっと耐えるためにどのような手段を使うかにかかっており、ここでは誰もが現実からの一時的な逃避の破壊的な形と建設的な形のどちらかを選ぶことができる。現代の雄牛は、権力に対するサディスティックで利己的な欲求を満たすために彼の職業を乱用し、悪い警官に対抗できない人々を犠牲にしています。もし我々が法の支配の下での 主国家を自称しながらも、この文脈で独裁政権に帰せられる可能性はるかに高いブルブタのタイプが発展するのを許してしまった場合、我々はこれを是正するために、あらゆる手段を駆使して現代のブルブタを嘲笑し、それを芯から戦うことしかできない。悪い警官は、彼の本質に不寛容と自由に対する軽蔑であり、彼のハビトゥスでこの地球の頭を悩ませた大権力を模倣する小ブルジョアの野蛮人であり、大きな力を持つ大愚か者であり、私たちがこの愚か者から彼の力を強制的に奪い取らない限り、彼はまた、願わくば決して起こらないであろう時間のために、陰鬱な前触れになる力を持っています。なぜなら、プーチンもKGBのペリシテ人として非常に小さく始めたからです。

パートCXLIV

「ガスライティングとしては「ガス照明」ですが、この文脈ではドイツ語でも次のようにガスライティング)は心理的暴力の一形態です
または虐待、被害者が故意に方向感覚を失わせ、操作する
そして、徐々に彼らの現実と自信が深く不安になります
変形または破壊されている」と述べている。(ウィキペディア)

家族会が数年にわたって絶滅観察を行い、
ターゲットに被害妄想を与えることによる観察された人の抵抗
統合失調症、それにより、この蓄積を止める義務を失います
陰湿な愚か者に忠実であること。あなたはさえさえすることができます
年にわたってそのような方法で嘘をつかれ、騙されてきた人を主張する
そのようなことを許可したり、サポートしたりする親
いずれにせよ、
絶滅観察には尊厳がなく、したがって、尊厳も持たなければなりません
は誰にも評価されません。誰かをから出そうとした、または出そうとした人
自殺への完全な匿名性は、すべての主張を持っています
彼の残りの人生で尊敬が失われました。何度も何度も私たちに揺さぶるもの、
それは、そのようなことをする人々がいるだけでなく、大量の人々がいるということです。
自分自身が影響を受けていなければ、まったく何も持っていない人々がいます
心。これは、すべてに対する絶対的な無関心を再び示しているだけです
人生は逸脱ではなく、私たちが始めなければならない規範です。1
しかし、観察は無関心ではなく、目指す戦略です
他の生命を弱体化させ、操作し、最終的には破壊すること。毎
そうではないと主張する雄牛は、正気として受け入れられてはなりません
成る。ところで、現代の雄牛の豚は非常に明白で、違いはありません。
これらすべてを理解していない現代の精神科医の豚が緊急に助けるべきであるように
このマニフェストは、世界中の雄牛の豚を無作為に観察し、雄牛の影響下での生活は不可

能であることを彼らに理解させるための強い嘆願です。

恒久的な観察の条件下では、誰かに期待されている人生ではありません

少なくとも、関係者のいずれかがいる場合は、そうではありません

ファシストのクズになりたくない。アイデアはい、誰かについてのすべて

彼をより効果的に傷つけるために知りたいという気持ちは、すでに述べたように、本物です

ファシストで、非人間的で、嫌悪感を抱かせる。ファシストの悪い手口、

現代の小ブルジョアの雄牛の豚は、自分自身とそれが何をするかの世話をすることです。

合理的で、公理的に、いわば、それがすべてにおいてそうであるにもかかわらず、

これは反理性であり、最悪の種類の獣的な不合理であり、純粹です

破壊的なマニアと最大限の軽蔑。私たちは卑劣な場所に行くことを許されています

ブルブタは、手入れの行き届いた直立した男として出くわすので、それ

は、権力と能力、関係と必要性についてとりとめもなく話します。

要するに、まったくのたわごとであり、自由の擁護者としての私たちの義務です

この愚かで独善的な野郎を暴露し、暴露することだ

そして、それが何であるかを破壊するために:臆病で、バックボーンのろくでなし

そして知性。現代の雄牛は例外の大友なので、

まるでそれが並行する立憲国家に住んでいるかのように、何よりも雄牛の豚がいます

例外は受け入れられないことを明確にする必要があります。べき

もしそれが受け入れられるのであれば、国家はそれが法律に照らされていないと主張するのをやめなければならない

なぜなら、彼らはそうではないだけでなく、まったくもっていないからです

そうでもなく、少しも。したがって、現代の雄牛の豚を示します

臭い指でさえも、筋肉の働きに値しないからです。

指を突き刺す必要があります。私たちは、破壊は別として、

提供できるものは何もなく、ファシストのために心から戦います

私たちの疑似立憲国家の官僚主義から完全に愚か者たち。

は最終的に削除されます。私たちは雄牛の豚と話したくありません。

私たちを神に結びつけるものは何もありません。私たちは精神科医の豚に私たちのものを与えたくありません

心の状態を説明してください、なぜなら、それはいずれにせよそれを理解するのに十分な知性を持っていないからです。

私たちは、破壊的な人々を私たちの生活から完全に遮断します。なぜなら、彼らはそれに何も関与していないからです。

.私たちはそれを軽蔑し、伝染性の致命的なもののようそれを避けます

病気、なぜなら、私たちはスカムとのコミュニケーションが常に私たちが

それはどこにもつながらないことを認めなければなりません。すべてが常に単純であ

ると同時に複雑です:それは人生を促進する人々がいることを理解するのは簡単です。
そして、逆のことをする人々がいることを
力の利点と必要性、他人を使って自分たちのものを作る
彼らが理解していないすべてのことを軽蔑し、周りのすべてを行うことによって目標
汚染し、退屈し、自分自身を物に劣化させるため、すべての
最も広い意味での生活についてのさらなる理解が欠けています。世の中はあるがままで、
なぜなら、破壊的な人間が多数派であり、破壊的な人間がそうではないからです
しかし、多くの場合、私たちは残念ながら与えることができなかったため、まだ十分に求愛されています
破壊的な人々の額に「巨大なろくでなし」という言葉を入れ墨すること。

パートCXLV

ガスライターは、常に、そしてどんな状況下でも、ろくでなしです。
病気に基づくことができない病気への洞察をだましました。ザ
ガスライターは、騙された人が心理的暴力に耐えることを間接的に要求します
または、心理的に暴力的な問題を抱えている人が使用できる薬を通じて。
精神疾患ではありません。だから、ガスライターは他に何もしません。
心理的暴力の維持にコミットするよりも、そしてそうするために
私たちが想像できる最も不誠実な方法。したがって、ガスライティングは犯罪であり、
駆除観測に直結します。ガスライターは直接です
絶滅観察者の子分たち。したがって、ガスライターを決して与えてはなりません
彼の行動を直接観察者の行動よりも重要視しないようにするため
。観察が正しいか間違っているか。誤った観察がオン
持続時間を擁護することはできません、なぜなら、観察者は彼らの不条理に満足していないからです
観察の物語は失敗します。私たちはこれを小ブルジョアジーから
嘔吐:1つの基本的な嘘の後に次の嘘が続き、そのポイントまで続きます
そこでは、嘘の小ブルジョア的構造が崩壊する。今
しかし、それは、小ブルジョアジーが彼らの世界に住んでいるという事実によって、より困難になります。
それ自体の論理的矛盾と、存在の全様式の全体的な矛盾
これに使用できる言語リソースがないため、対処できません
立つ。小ブルジョアジーは、いわば、監禁の理由がまったく反映されない宇宙に閉じ込め

られている。

すぐにコスモス・小ブルジョアジーとは、いわば、

生涯にわたる無知に依存しており、それを十分に無視できない場合は、

自分自身を疑い、排除されるリスクを冒しますが、それはもちろん私たちを外部から見えています。

この環境の中での生活は、非常に望ましいように思われます。

理性的な人が望ましいと感じるようなものは何ともありません。それ

小ブルジョアの環境、その精神から直接現代のブルピッグが形成されました。

体、物、そして体や物を支配する力の世界に生きています。これは

それを実現したいのであれば、想像しなければならない荒涼とした環境

悪い雄牛は、彼の降伏を無駄に探すために、どの深さで潜りますか。

搜索。悪い警官は、無意識のうちに、彼に意味を与えてくれる偉大な意味を与える人を探しています。

許されるファシズムへの道を開く新しいアドルフに。彼は

非常に素朴な誇大妄想の中で輝く非常に小さな光。悪い雄牛

もっとなりたいたいと思っていて、その結果、さらに少なくなる。現代への最初の侮辱

雄牛の豚は、それがほとんど理解していないことを認識する必要があります。

第二の侮辱は、現代人が

ブルブタは、啓蒙された市 によってばかげた敗者として認識されています。

この明白な認識に対しては何もできません。これらすべてが、

しかし、小ブルジョア無知で野蛮な人々は、理性を働かせるためではなく、

自分自身に対する危険な怒りは、客観的に悪いことしか起こり得ず、そこから

戦争が蔓延するほどの情熱のないじめ。男らしさはここから導き出されます

理由は、その環境を確実に汚染する限り、有毒であるだけでなく、

拒否された敗者は拒否の理由を覚えていないため、有毒です。

しかし、拒絶されて外向きに積極的に行動します。破壊的な

ここでの自由の拒絶は、遊びたいという衝動から直接生じます

ペリシテ人が一緒に遊びたいと思っていること、心配する必要はありません

入学要件。プーチンはいかにして欧米リベラルの精神を捉えたか

文明、ペリシテ人は一般的に彼に理解させるすべてのものを憎みます

彼は、彼のような人々のために作られていない環境で道を見失ってしまったのです。ペリシテ人は行く

悲しんで家に帰ることはありませんが、

暴力を振るった者に対して武力による復讐をするための拒絶

彼が誰であるかを彼に明確にするために。ペリシテ人に、自分が誰であるかを明確にする

者は誰でも、いつでもどこでも危険な生活を送っている。ペリシテ人を防ぎたい場合
頭蓋骨を砕く、せいぜい笑わせようとするくらいです。

だから彼はそれを止めるだろうが、この笑い声は別の行為になるだろう

臆病さ、なぜなら、私たちはペリシテ人の心の状態に興味がないからです。

さて、ブルジョアジーを笑わせるかどうかは、根本的な決定となるでしょう。

命を救うため、あるいはどんな犠牲を払っても一貫性を保つため。

パートCXLVI

小ブルジョアジーは、税金を払うこと以外には、私たちにとって無益なものです。

それは私たちにとって有益です:私たちが注意を払うならば

現在、これらの卑猥なサークルで流通しているトピックは、比較的大きなもので知っています
決定は、小ブルジョアジーが持っているので、まったく関係ありません。

面白くないものすべてに対する顕著な鼻。さらに、必要なものがある場合

嘔吐に対する抵抗は、これらの人々の話を数分間聞くと、

また、物事や出来事についてどのように話すかを印象的な方法で思い出させます。

人やその他すべてのものは、いかなる状況でも話してはなりません。小ブルジョアジーは奨励する

私たちは、ある時点で社会の深みに落ちないように、自分自身を大切にするために、恒久的に。

その中で、最も些細なことが最も重要なことのように思えます。っていうと

他の人々は、それが有害であると同時に、または、世界社会で自明である、または、

ショーペンハウアーの精神で再び言うと、他の人が私たちについて何と言っているか

私たちが部屋を出て耳から外れているとき、おそらくそうすべきではありません

私たちが悲観的に想像するすべての邪悪さを超えることはめったにありません

缶。したがって、遅かれ早かれ、私たちは以下の事実を受け入れるべきです。

私たちが友達だと思っている人の50%は、私たちが友達でなくなったら、もう友達ではなくなるでしょう。

私たちが不在のときに彼らが私たちについてどのように話すかを知っているでしょう。これは単なるものではありません

マニフェストは数十年にわたって行われてきた経験に基づいているため、仮定です。

それは最終的に、私たちが感じている社会の安定という認識につながります

それは、私たちがそれを維持する場合よりも、私たちをより害する幻想です

私たちは彼女に別れを告げます。ここでは、人生の他の多くの問題と同様に、次のことができます

犯罪者から学ぶ、なぜなら彼らはしばしば非犯罪者よりもその方法を知っているからだ

環境は、ロイヤルティのために確実にチェックされます。ですから、私たちが実際にどの

ような立場にあるのかを想像することを学ぶと、その場にいる人々の輪の中で、ほとんどの人は、私たちが思っている以上に友好的です。これはパラノイアへの呼びかけですが、自己解放への呼びかけであり、ポニー農場に別れを告げるための呼びかけです。人間の存在は決して存在しない。現代の雄牛の豚はほぼこの形の不誠実さの典型的な例は、文明の境界には、まだ内なる中心があります。悪い雄牛は時代精神の流木であり、色があることにまったく気づかなくなった使い古されたカメレオンそれは、安定しているという自己満足的な幻想に囚われているからです人格。文明は構造に依存することに基づいています安心感を感じる。現代の雄牛はまさにこれらを破壊します完全な意図を持った構造は、自分自身の存在の中でそれらをひどく見逃すからです。それだから、悪い雄牛の危険なところは、いつも彼が自分自身についてほとんど何も知らないことだ白い。彼が自分自身について知っていると思っていることは、もはや持っていない人々から吸収します自分自身が思春期の悪党の魂を持つこの悲しい吸収者であることを知ってください自己。したがって、現代の雄牛は、それだけの理由で信頼することはできませんそれを理解していない文明は、保護、安定化、または防御することは不可能です缶。

パートCXLVII

私たちはまた、小ブルジョアジーを不条理な環境と呼ぶこともできます。それが何を言っているのか、何をしているのかは、理解しやすい方法で説明することができます。たとえば、野蛮なペリシテー族は、またしても元メンバーの一人に本当に嘘をついたそして、だまし、苦しめられ、地面にいじめられてきた、彼女は怒っていません自分自身の不正行為と不正行為、しかし、私たちはすぐにそれを推測します:だまされた。小ブルジョアジーに騙された人々は、詐欺を見抜いていたとしても騙されないでしょう例えば、謝罪とともに、しかし彼がその事実に対してさらに厳しく罰せられた彼らが受けた詐欺について詐欺師に謝罪しませんでした。私たちはそうする必要はありませんこの環境から得られる良いものは何もないことを証明するためのさらなるプルアップ。予想されることですが、それでも私たちはその次元に驚かされるかもしれません人間の無思考は、次のような例を演じれば可能になります。主人公は絶対的な環境のカスに属しています。自分の考えや行動を何らかの形で神から与え

られたものとして理解している人だけが、このように考え、行動することができます。

そして、この愚かな口径の生き物がまったくいないのは残念です、とはいえ
初歩的なものだけで、口頭言語のスキルがあります。私たちはここで人々と一緒にそれを持っています
彼らがしていることは正しいと思い込んでいる人は、彼らが持っているという事実だけで
現代の運転様式に対する明らかな並列性をすぐに見てください

ブルピッグ。悪い雄牛は常に彼の行動が基本的に正当であると考えています。
なぜなら、彼はブルピッグス組織の公式メンバーであり、それは順番に
法律の正当な腕は、いくつかは全くそうではないかもしれない
賢い人々がかつてそれを思いつきました。警察の不正行為は
私たちは明確な良心を持って、決して修正によって規制されることはなく、
しかし、ますます多くの不正行為を通じて、不条理な行為を導きました。現代の
ブルブタは、不正行為が十分に一貫して適用されることができる世界に住んでいます。
不正行為の正当化から自分自身を解放するため。私たち
この思考の流れを理解しない、それは良いことです。なぜなら、もし私たちが彼を理解したなら、
それは私たちの愚かさとそれに伴う能力の証拠であり、非常に間違っています
そして、現代のブルブタのように考えたり考えなかったりするのはいかにしています。ザ
現代の雄牛が権利よりもひどく生きている世界は、
論理を主張する人々は、はい、それはそのように言わなければなりません、次のような人々のためのものではありません
他人に対する要求は全くありません。雄牛の頭は荒涼としています
そして空っぽです。

パートCXLVIII

すべてに終わりがあり、ソーセージだけに2つあり、常に2つの側面があります。現代の
ブルブタは勝つことも負けることもありません。好戦的な状況が終わる
常に双方にとって大きな不利な点があります。以下の目的で連絡を取らない場合
エスカレーションを避けるために、エスカレーションは引き続き発生します。ブルブタ
マニフェストはここで終わります。ご清聴ありがとうございました、そして素敵な生活を送ってください
それでもなお。:-)